

# 新潟市文化財センター年報

## 第7号

— 平成30（2018）年度版 —

2020

新潟市文化財センター

# 新潟市文化財センター年報

## 第7号

— 平成30（2018）年度版 —



秋葉区 稲島館跡出土の刀形（中世）

2020

新潟市文化財センター

## 新潟市文化財センター

### 【設置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

### 【事業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査などにより出土した考古資料の収集及び保存並びに公開、そのほかの活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から近代に至る766か所の遺跡が知られています（平成31年3月末）。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業などの増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどりました。その後も継続して発掘調査は一定数行われており、毎年新たに遺跡も発見され、遺跡数も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備などに伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月に開館しました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設しており、敷地内には新潟市指定文化財の旧武田家住宅や畜舎を移築復元しています。



新潟市文化財センター及び旧武田家住宅

# 例　　言

・本書は、新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）および文化スポーツ部歴史文化課（以下「歴史文化課」）の主に埋蔵文化財に係る平成30年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務年報、Ⅳに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノートなどの研究活動について収録している。

「新潟市文化財センター年報」（以下「年報」）は平成25年から刊行され、本書は第7号にあたる。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要および経緯、文化財センターの概要については、第1号【渡邊・八幡後(16-2014)】に記載されている。

・本書は文化財センター、歴史文化課埋蔵文化財担当職員が分担執筆した。執筆者の氏名は執筆者が替わる各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一を図るために内容が変わらない範囲で編集者が字句の修正を行った。しかし、Vについては各執筆者の研究成果の側面があるため、執筆者の意に則して編集している。

・本書に記載されている施設名および所領などについては、本書刊行時のものである。

・本書における調査面積などは、小数第2位を四捨五入して表記している。

「年報」第6号まではⅡ 2に主要な試掘・確認調査の概要を掲載していたが、本書から実際に担当している本発掘調査のみ記載する。

・Ⅲ 2の「調査位置図」は、新潟市地形図（10,000分の1）を使用しており、縮尺は10,000分の1、地図の上位が北である。

・図・表番号は、章ごとに1から付している。しかし、Ⅲ 2は須（概要）ごとに、Vは節ごとに番号を付している。なお、Vを除き写真には番号を付していない。

・Ⅲ 2の「トレントレ位置図」のトレントの凡例は右のとおりである。

・Ⅲ 2の「遺物実測図」では、遺物の全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。また、土器実測図の断面は、須器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。さらに、土器実測に示す「→」「←」はケズリ方向（移動した砂粒の終点を原図で区切っている）を、土器の黒色処理は圖のトーンで表現している。

・掲載遺物の実測・トレースなどは文化財センターで行った。

・本書の編集は龍田優子・八藤後智人が行った。

トレンチ凡例	
-----	調査対象面図
□	遺物・遺物未検出トレンチ
■	遺物検出トレンチ
■■	遺物未検出トレンチ
■■■	遺物検出トレンチ

# 目　　次

I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
II 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
III 文化財センターの事業	8
1 本発掘調査の概要	8
2 平成30年度の本発掘調査	9
3 整理作業の概要	19
4 資料の収蔵・保管	20
5 資料の公開・展示	21
6 教育普及活動	25
7 保存処理	30
8 決算額	31
IV 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場	32
1 資料の公開・展示	32
2 教育普及活動	37
3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進	40
V 研究活動－資料紹介・研究ノートなど	41
1 新潟市西区六地山遺跡出土弥生土器の再検討	41
2 朝日普談寺觀音堂の文祿五年銘飼口	75
引用・参考文献	78
付録（各表）	79

# I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

**概 要** 新潟市では、「文化財に関する事項」は『行政組織規則』により市長部局の歴史文化課が主に補助執行することとされている。そのうち埋蔵文化財については、歴史文化課および文化財センターが所管している。事務分掌は、開発事前査定、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課、本発掘調査、保存処理、収蔵・保管、展示・活用、史跡古津八幡山遺跡の保存・活用などを文化財センターが行っている。

**開発事前査定** 開発事前査定では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、「新潟市試掘確認調査基準」(平成19年4月1日施行)に基づいて試掘・確認調査の要否を判断している。また、本市は政令指定都市のため、「文化財保護法」(以下「法」)第93条および第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会が「新潟市埋蔵文化財取扱要綱」(平成19年4月1日施行)に基づいて「法」に伴う指示を行っている。

**本発掘調査** 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。本市が原因者の場合は、関係各部署からの依頼を受託して同様に実施している。

平成30年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1のとおりである。平成30年度に本発掘調査を実施した事業は内容欄に本発掘調査と記載した。

**埋蔵文化財** 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が766か所存在する(平成31年3月31日時点)。平成30年度は、試掘調査による新発見遺跡が12か所、近世新潟町跡(近世新潟町跡の取扱いは「年報」1号(渡邊2014a)に記載)の周知化地点が1か所ある。今後も試掘調査などによる増加が見込まれる。

**本発掘調査件数** 新潟市で近隣市町村との合併(平成17年度)が行われてから平成30年度までの本発掘調査件数は表2のとおりである。14年間で83件の本発掘調査を行っており、平均すると1年間で約6件の本発掘調査を行っていることになる。

全体の件数では、平成19・20年度が10件と最も多く、徐々に件数は減少傾向に見えるが、1件あたりの本発掘調査の内容では、個人住宅などの小規模なものから、圃場整備などの大規模なものまであり、必ずしも件数の減少が調査面積の減少を示してはいない。

種別で見ると新潟県地域振興局(以前は新潟県農地事務

所)による圃場整備関係や新潟市による道路改良関係(政令指定都市指定以前は新潟県土木事務所)が定期的に実施されており、民間開発関係は不定期に行われている(図1)。

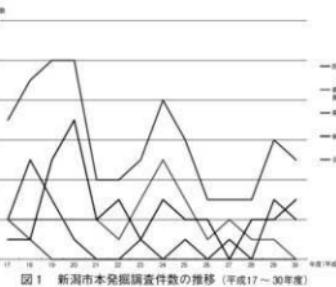
現状では、本発掘調査は毎年一定件数実施しており、今後も継続される可能性が高い。平成30年度は個人住宅建設に伴う本発掘調査が2件あり、その他民間開発の状況により、突発的に件数が増大する可能性も十分にあり、文化財センターとして本発掘調査に対応できる体制を今後も維持していく必要がある。(龍田優子)

表1 平成30年度新潟市本発掘調査・整理作業事業費一覧

事業番号	事業者	事業名	道府県	内訳	事業費(万円)	割合(%)	担当
201000	新潟市	山田遺跡 近世新潟町跡	新潟県	本格発掘 整理作業	320000	60.0	既往実績
201000	個人	小堀城跡	新潟県	整理作業	236000	—	既往実績
201000	個人	小堀城跡 近世新潟町跡	新潟県	本格発掘 整理作業	610000	12.4	既往実績
201000	個人	小堀城跡 近世新潟町跡	新潟県	整理作業	785000	15.7	日本文研
201000	新潟市	田原山古墳 近世新潟町跡	新潟県	本格発掘 整理作業 施工作業料	4030000	82.6	既往実績
201000	新潟市	御宿遺跡 近世新潟町跡	新潟県	本格発掘 整理作業	6000000	78.4	既往実績
201000	新潟市	大沢谷内遺跡 近世新潟町跡	新潟県	整理作業	860000	—	既往実績
201000	新潟市	大沢谷内遺跡 近世新潟町跡	新潟県	整理作業	860000	—	既往実績
201000	新潟市	近世新潟町跡 近世新潟町跡	新潟県	整理作業 施工作業 施工作業料	7030000	—	日本文研
201000	新潟市	近世新潟町跡 近世新潟町跡	新潟県	整理作業 施工作業 施工作業料	7030000	—	日本文研
201000	北越後	小堀城跡 近世新潟町跡	新潟県	整理作業	330000	—	日本文研
201000	新潟市	唐木遺跡 近世新潟町跡	新潟県	整理作業 施工作業料	100000	—	既往実績
201000	新潟市	近世新潟町跡 近世新潟町跡	新潟県	整理作業	760000	—	既往実績
201000	個人	小堀城跡 近世新潟町跡	新潟県	整理作業	445000	—	既往実績
合 计							
27040000							

表2 新潟市本発掘調査件数(平成17~30年度)

性 国	年度(年間)												合 計	
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
其 他	2	3	1	9	0	1	0	1	0	1	2	1	1	0
農地	2	2	2	2	2	2	3	3	2	1	2	1	1	0
森林	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
林木	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新潟市	1	1	0	2	2	3	1	3	2	0	2	2	2	34
新潟県	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	7	9	10	10	4	4	5	8	4	2	3	4	5	82



## II 開発事前審査

### 1 事前審査内容

#### (1) 開発事前審査

**概 要** 新潟市は、国内でも有数な規模を誇る越後平野の中央に位置する。市域の大半を占めるこの越後平野は、長い年月をかけて信濃川・阿賀野川などの大河川が運んできた土砂により形成された沖積平野である。新津や角田・弥彦の丘陵地帯、新潟砂丘（新砂丘Ⅰ～Ⅲ）に代表される砂丘地帯のように標高の高い地域もあるが、大半は低湿地帯である。丘陵を除く地域には鳥屋野湯や福島潟などに代表される潟湖が多数存在し、かつては洪水など水害の多い地帯であった。江戸時代には、新田開発に伴い潟や沼などの水抜き工事が行われており、明治・大正・昭和へと引き継がれた。特に1950年代以降の土木技術の発展に伴う土地改良の結果、湿地帯は徐々に解消していった。

遺跡（埋蔵文化財包蔵地）は、その大半が地中に埋まっている、地表面観察からの把握は困難である。長年の耕作などにより地表面に露出してきた遺物を丹念に観察・収集し、遺跡の所在把握に取り組んできたが、機械掘削が主体となっている現在の工事では、存在が把握されないまま地中にある遺跡に、直接掘削が及ぶ機会が増大している。すでに周知化されている遺跡および未周知遺跡の把握・周知・保護は行政の責務と考える。

このような変化に対応しつつ迅速に保護対応を図るために、本市では以下のよう取り組みを実施している。

**公 共 事 業** 国・県機関の実施する土木事業については、年に1度、新潟県教育文化行政課が一括して関係機関に照会し、得られたデータを県下の市町村に提供して審査および事業者との協議を依頼している。

国・県機関実施事業のうち、平成30年度の新潟市関連分は56件であった。平成29年度の51件から5件増加している。内訳は表1に示した。県事業39件のうち15件は圃場整備に係る事業で、継続して協議を行い、事業実施に際しては「法」第94条通知が行われている。

市の実施する事業については、年度ごとに府内全部署へ照会をかけ、その回答を基に協議している。

規模を問わず、原則全ての事業を対象とするため、審査件数が膨大になり、短期間での審査・協議が困難となっている。また、年度途中で生じる小規模事業は拾いきれない場合があり、歴史文化課へ協議するよう各種の機

会をとらえて事業担当課に声掛けを行っている。

**民 間 事 業** 事業計画地における遺跡の有無、もしくは保護協議の対象地であるかを、歴史文化課窓口およびFAXで対応している。

民間事業で最多の建築事業については、建築確認申請を提出する際、本市独自の施策として同申請書に「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があり、建築主は歴史文化課へ照会して確認番号を取得する必要がある。その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。照会目的の大半は専用住宅建築に係る建築確認番号取得である。次いで土地取引もしくは不動産鑑定評価など計画段階での事前調査であり、電柱・看板設置などが続く。特にFAXでの照会は、民間事業者にかなり定着している。

開発行為については、各区の「開発審査協議会設置要領」に規定されているとおり『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む府内関係各課に意見照会されるため、全ての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

さらに、本市では土木事業が農地内で行われることが多い。その場合、事前に『農地法』に係る転用許可申請・届出の提出が必要であることから、市内に6つある農業委員会事務局（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）に歴史文化課への情報提供を依頼し、全件審査して取扱い方針を決定している。なお、必要なものについては事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発などは、許認可事務を担当する府内各部署などと緊密に連携して事前把握を行っている。しかし、専用住宅建築を含む民間事業は、決定してから実施までが速く、試掘・確認調査の実施とその結果を踏まえた協議時間が非常に短い。制度と実行力にバランスが保てるような体制の強化が急務である。

**平成30年度** 平成30年度の協議実績の概要は以下のとおりである。

国・県事業の件数については先に触れた。国関係では、取扱いが必要となったものはなかった。県関係では、団場整備および地盤沈下対策関係について協議対象とした。団場整備は、新潟県新潟地域振興局の所管事業であり、同局農林振興部の所管区域は江南区・秋葉区、卷農業振興部の所管区域には西区・西蒲区が含まれる。平成28年度まで主に協議対応してきた卷農業振興部管内の整備計画のほかに、平成29年度には農林振興部管内でも複数地区で整備が計画され協議対応が必要となった。計画地はいずれも大面積で市単独の対応が困難となり、県教育庁・文化行政課・県農地部・新潟地域振興局担当課、新潟市の4者で、埋蔵文化財保護と整備事業の進捗について調整会を持つこととなった。調整会で示された整備計画から、長期的な対応が必要であることを再確認した。

市事業の審査件数は426件であり、平成29年度の613件から187件減少している。主な内訳としては、水道関係145件（全体の約34.0%）、道路関係161件（同37.8%）、下水道関係55件（同12.9%）、その他公共施設関係65件（同15.3%）となった。公共施設関係はほとんどが改修工事や設計であった。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。平成29年度とはほぼ同傾向であるが、案件ごとの重複を除いた実数は8,947件（平成29年度8,331件に比して616件の増）であった。内訳をみると、開発行為は微減（平成29年度の88件から72件）、農地転用はやや増加（同52件から57件）、建築確認申請に係る審査件数もやや増加（同4,140件から4,198件）であった。開発行為では宅地造成が最も多く、店舗建設・福祉施設・共同住宅がこれに続く。

## (2) 試掘・確認調査

**概要** 事前審査・協議において、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した場合は試掘調査、すでに周知遺跡となっているが、その詳細な内容が不明な場合は確認調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出している（事業費の約50%は文化庁の補助を受けている）。原則として事業者へ経費負担を要求していない。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施している。以前はまれに試掘調査の実施を拒否される場合があったが、近年はほぼ全ての案件で承諾が得られている。試掘調査の意義と効果に対する理解が事業者に浸透していると思われる。

平成30年度 表1・3とのおり、試掘調査45件、確認調査20件、計65件の調査を実施した。平成29年度の件数と比較すると試掘調査が8件、確認調査は4件減少して

表1 平成30年度公共事業審査事業主体別内訳

事業主体	審査件数	新規見遁跡 (-) は遺跡範囲変更	試掘会の 協議をしたもの	94条通知
国	17	0	0	0
県	39	6 (1)	2	14
市	426	33	10 16	
計	482	39	17	30

表2 平成30年度民間事業事前審査件数

区名	審査種別(件数)	審査種別(件数)			
		建設確認 郵便-FAAX 函合	32条照合	農地転用	文書照合
北区	380	347	7	27	3
東区	677	663	7	61	0
中央区	773	1,150	12	37	0
江南区	415	421	15	54	0
秋葉区	469	292	11	81	0
南区	265	399	5	45	2
西区	970	794	13	200	4
西蒲区	249	215	2	22	0
合計	4,936	4,091	72	557	9

\*審査種別の各項目は次の通りである。「建設確認」は開発用紙による建築確認申請書類審査報告書による照合。「32条照合」は「32条照合法」第32条に係る公文書による照合。「農地転用」は農地法第46条に係る公文書による照合。「文書照合」は「文書照合法」第32条に係る公文書による照合。「農地転用」以外の公文書による照合。

表3 平成30年度試掘・確認調査、工事立会件数

区名	調査内容	事業者	件数	確認文化財 発出件数		総合 (%)
				確認調査	試掘調査	
北区	確認調査	企共	0	0	0	0
	民間	0	0	6	0	0
	試掘調査	企共	3	6	1	17
	民間	3	3	0	0	0
	工事立会	企共	3	5	1	20
	民間	3	2	0	0	0
	確認調査	企共	1	1	1	100
	民間	0	0	5	0	0
	試掘調査	企共	4	4	0	0
	工事立会	企共	3	6	0	0
東区	確認調査	企共	1	1	1	100
	民間	0	0	5	0	0
	試掘調査	企共	4	4	0	0
	工事立会	企共	2	2	0	0
	確認調査	企共	0	2	2	100
	民間	2	2	7	2	40
	試掘調査	企共	3	5	2	40
	工事立会	企共	2	2	1	50
	確認調査	企共	0	7	5	71
	民間	7	17	0	0	0
中央区	確認調査	企共	2	2	7	100
	民間	3	5	2	40	40
	試掘調査	企共	2	2	0	0
	工事立会	企共	1	1	0	0
	確認調査	企共	0	7	5	71
	民間	7	17	0	0	0
	試掘調査	企共	2	10	4	40
	工事立会	企共	4	4	0	0
	確認調査	企共	22	26	4	15
	民間	2	7	2	28	28
江南区	確認調査	企共	2	7	5	71
	民間	7	17	0	0	0
	試掘調査	企共	2	10	4	40
	工事立会	企共	4	4	0	0
	確認調査	企共	22	26	4	15
	民間	2	7	2	28	28
	試掘調査	企共	2	13	5	83
	工事立会	企共	11	23	3	13
	確認調査	企共	0	0	0	0
	民間	0	0	0	0	0
秋葉区	確認調査	企共	0	1	1	100
	民間	1	3	0	0	0
	試掘調査	企共	3	6	5	83
	工事立会	企共	11	23	3	13
	確認調査	企共	0	0	0	0
	民間	0	0	0	0	0
	試掘調査	企共	5	6	0	0
	工事立会	企共	11	23	3	13
	確認調査	企共	0	0	0	0
	民間	0	0	0	0	0
南区	確認調査	企共	0	1	1	100
	民間	1	3	0	0	0
	試掘調査	企共	2	2	0	0
	工事立会	企共	3	6	1	17
	確認調査	企共	0	0	0	0
	民間	0	0	0	0	0
	試掘調査	企共	5	7	0	0
	工事立会	企共	0	0	0	0
	確認調査	企共	0	0	0	0
	民間	0	0	0	0	0
西区	確認調査	企共	1	3	1	100
	民間	1	3	0	0	0
	試掘調査	企共	2	2	0	0
	工事立会	企共	3	6	1	17
	確認調査	企共	2	2	1	50
	民間	0	0	7	1	20
	試掘調査	企共	3	5	1	20
	工事立会	企共	13	15	2	13
	確認調査	企共	2	2	1	50
	民間	15	20	12	60	60
西蒲区	確認調査	企共	16	45	13	28
	民間	29	45	38	12	14
	試掘調査	企共	2	38	0	0
	工事立会	企共	45	83	12	14
	確認調査	民間	15	20	12	60
	民間	16	45	13	28	28
	試掘調査	民間	2	38	0	0
	工事立会	民間	45	83	12	14
	確認調査	民間	15	20	12	60
	民間	16	45	13	28	28
合計	調査内容			金額		
	調査内容			調査費用	委託料	

表4 平成30年度経費（調査支援委託料のみ 単位：千円）

調査内容	金額
試掘・確認調査(共用開発・公共事業)	28,473
試掘・確認調査(1号開発審査)	23,617

表5 平成30年度試験・確認調査一覧（調査番号順）

10. 世羅町新規開拓区域内に設置される「新規開拓区域」についても、新規開拓区域の設置区域の範囲は、「新規」第1号に付記された区域

9.3 従業工の計算履歴システムの運用上、第一の顧客でも複数の荷物に分かれ場合は、複数工事に該当する可能性がある。

いる。公共事業に伴う試掘調査は道路・圃場整備事業が多く、民間事業に伴う試掘調査では宅地造成や店舗建設が多い。また、確認調査は専用住宅が多い。道路建設や圃場整備事業など1件当たりの事業規模（調査対象面積）が大規模なものは調査期間も長期に及ぶため、件数のみでは測れない。特に圃場整備に係る試掘確認調査は大規模かつ長期間に及び、市職員の現地調査日数は平成29年度並みに費やしている。

地域別では、秋葉区・江南区が多い。両区は、遺跡数はもとより公共事業・民間事業とともに他の区よりも多い。中央区では近世新潟町跡に関連する試掘調査が目立つ。

今年度の試掘調査で新しく発見された遺跡は、五郎巻遺跡（北区）、道正遺跡・岡崎遺跡・岡崎南遺跡（江南区）、裏田郷遺跡・水田中谷内遺跡・蛇喰遺跡（秋葉区）、桑山前田遺跡・真木江向遺跡・宮上遺跡・萱中遺跡（西蒲区）の計12遺跡と近世新潟町跡（中央区）で1地点である。秋葉区の2遺跡・西蒲区の4遺跡が圃場整備事業に伴う試掘調査で発見された。特に、萱中遺跡では現地表面下28mから古墳時代早期の遺物がまとめて出土した。また、西蒲区の茶院A遺跡は圃場整備に伴う確認調査により広範囲に広がる遺跡であることが確認された。

### （3）工事立会

**概要** 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事などに対し、原則として事前の試掘・確認調査で遺跡の内容を十分把握したうえで、「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について（通知）」（平成10年9月29日付厚生省第75号 各都道府県教育委員会教育長宛文化庁次長通知、以下「文化庁標準」）および「発掘調査の要否等の判断基準」（平成11年9月10日付教文第578号、以下「新潟県基準」）に従って実施している。具体的には、以下の判断基準で実施している。

- ・「土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小（「新潟県基準」により原則として掘削幅1m以下）であるため、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの」

- ・「掘削が遺物包含層等におけるばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計通りであるか立会によつて確認する必要が認められる場合」などである。

工事立会にあたっては、「法」第93条の届出・同第94条の通知に対する取扱い指示文を事業者に通知する。事業者は工事日程が決定次第当課へ連絡する。工事立会は、事業者の工程に従つて新潟市の埋蔵文化財担当専門職員が可能な限り現地に訪れている。しかし、工事立会は件数が多く市全域に及ぶため、現状では委託事業者の作業員数名で行う場合が多い（表6の調査担当者欄には、実際に現

地へ訪れた市職員あるいは委託事業者名を記載した）。

特に長期間にわたる大規模な工事の場合、事業者の協力を得て、あらかじめ施工代理人を交えた打合せを細密に行なうようにしている。これにより、保護施設の意義を理解してもらうことができ、工程の一部変更などを早期に連絡してもらえる体制が強化されてきている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で記録を取り、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いとしている。

また、大規模開発や圃場整備などに伴う長期間の工事立会では、限られた人数の市職員での対応に困難な場合があり、かつ経費も相當にかかる。今後、人員体制などを真剣に検討していく必要がある。なお、年々減少しているが工事立会指示が出ているにもかかわらず、事後報告となる例が後を絶たない。今後も事業者に対して理解と協力を得るため丁寧な説明を続けていく必要がある。

**平成30年度** 表3・6のとおり83件の工事立会を行った。平成29年度の65件から18件の増加である。工事内容は圃場整備関係が多く、秋葉区・西蒲区では大規模な面積で長期間に及んでいる。ほかには個人住宅関係・下水・水道などの案件が多い。

（朝間政康）



試掘調査風景（2018173・馬堀地区）



工事立会風景（2018143・六地山道路）

表 6 平成30年度工事立会一覧（調査番号順）

調査番号	地名	施設種別	所在区	調査期間	調査担当	報告書類	施工者
2018010	下水道新規 307	民間	個人住宅 (新規工事)	江戸川区 6/26	委託 (古河総)	×	×
2018010	浜町通新規 224	民間	個人住宅	江戸川区 6/27	委託 (古河総)	×	×
2018010	上町通新規 491	民間	商業	葛西區 5/28 - 6/1	委託 (古河総)	×	×
2018111	宇都宮通新規 308	民間	住宅修繕	狛江区 5/31	委託 (古河総)	×	×
2018112	駒木・本郷通新規 271	公共	環境整備	西葛西 5/8	委託 (古河総)	×	×
2018113	御成通新規 305	民間	車の作造	狛江区 5/28	委託 (古河総)	×	×
2018114	西葛西小倉新規 201	民間	賃貸設	狛江区 7/30 - 31	委託 (古河総)	×	×
2018115	白糸川 126	公共 (有)	土木道路施	狛江区 7/2	委託 (古河総)	×	×
2018116	高田馬場新規 306	公共	排水路・人行 施設	葛西區 5/18 - 19 21 - 22 - 25 - 28, 30/1	委託 (古河総)	×	×
2018117	下町通新規 75	民間	個人住宅	江戸川区 7/18	委託 (古河総)	×	×
2018118	東横線新規 29	民間	個人住宅	平井区 7/24	委託 (古河総)	×	×
2018119	御成通新規 30	民間	駐車場	江戸川区 8/9	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	×	×
2018120	本郷・本郷通新規 275	公共 (有)	下水道施設	北区 9/31	委託 (古河総)	×	×
2018121	駒込・本郷通新規 200	公共 (有)	排水・雨水施設工事	新宿区 1/24	委託 (古河総)	×	×
2018122	御成通新規 406	民間	個人住宅	江戸川区 9/29	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	×	×
2018123	宇都宮通新規 35	公共	電話交換施設新設	東区 10/25	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	×	×
2018124	六丁目通新規 3	民間	基盤整備・ 介護施設	西葛西 12/21 - 25 - 26	委託 (古河総) ○ ○	○ ○	○ ○
2018125	谷原・本郷通新規 112	民間	個人住宅	東区 9/26	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	×	×
2018126	下町通新規 20	民間	個人住宅	江戸川区 8/18	委託 (古河総)	×	×
2018127	谷原通新規 16	公共	環境整備	西葛西 10/9, 1/9 12/1 - 12/2	委託 (古河総)	×	○
2018128	仲井田通新規 572	公共	環境整備	西葛西 2/1 - 1/2 3/8 - 19 25 - 27	委託 (古河総)	○	○
2018129	中央通新規 304	民間	排水路工事	西葛西 10/10	委託 (古河総)	×	×
2018130	御成通新規 11	公共	電話交換施設新設	江戸川区 -/-	-/-	-/-	-/-
2018131	御成通新規 221	公共	切替排水工事	新宿区 11/12 - 20	委託 (古河総)	×	○
2018132	高麗橋通新規 403	公共	環境整備	西葛西 10/15 - 16, 11/13	委託 (古河総)	○	○
2018133	穀原字上・下町通新規 251	民間	切替排水工事	新宿区 10/2 - 30, 11/9 - 1/2	委託 (古河総)	○	○
2018134	西郷通新規 20	公共	切替排水工事	新宿区 11/26 - 12/3	委託 (古河総)	○	○
2018135	三ツ矢通新規 42	民間	個人住宅	江戸川区 8/22	委託 (古河総)	○	○
2018136	大通新規新規 30	公共	電話交換施設	江戸川区 8/3	委託 (古河総)	○	○
2018137	豊島園通新規 26	民間	宅地造成	狛江区 9/27, 10/6	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	○	○
2018138	京成新規 128	公共	本道管	狛江区 10/9 - 12	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	○	○
2018139	宇都宮通新規 35	公共	道路合意工事	東区 12/18 - 20	委託 (古河総)	○	○
2018140	山田通新規 11	民間	個人住宅	江戸川区 12/7 - 13	委託 (古河総)	○	○
2018141	山田通新規 11	民間	個人住宅	江戸川区 2/13	委託 (古河総)	○	○
2018142	一本木通新規 401	公共	駐除施設新設	西葛西 2/22	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	○	○
2018143	新田町通新規 75	民間	集合住宅	江戸川区 3/9	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	○	○
2018144	下町通新規 52	公共	切替排水工事	西葛西 10/11	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	○	○
2018145	仲井田通新規 572	公共	切替排水工事	西葛西 11/8 - 10, 12/1 - 14	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	○	○
2018146	東上町通新規 341	公共	切替排水工事	西葛西 11/15 - 16	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	○	○
2018147	曳舟通新規 70	民間	宅地造成	江戸川区 -/-	-/-	-/-	-/-
2018148	曳舟通新規 279	公共	下水道設	江戸川区 11/20 - 21	渋谷山手(古) 委託 (古河総)	○	○

調査番号	地名	施設種別	所在区	調査期間	調査担当	報告書類	施工者
2018149	元町通新規 12	公共	上水道設置	江戸川区 11/2	渋谷山手(古)	○	○
2018150	高田通新規 32	公共	電線杆	西葛西 9/4	委託 (古河総)	○	○
2018151	ヤマモト通新規 35	民間	個人住宅	西葛西 9/18	委託 (古河総)	○	○
2018152	旧羽瀬川河川敷 改修工事	公共	河川敷改修	中央区 9/13 - 26 10/1 - 17 11/1 - 17	委託 (古河総)	○ ○	○ ○
2018153	御成通新規 577	民間	工場新設	江戸川区 -/-	-/-	-/-	-/-
2018154	堀川通新規 502	公共	区间整理	豊洲区 5/6	委託 (古河総)	○	○
2018155	上町通新規 544	公共	区间整理	豊洲区 11/13 - 30	委託 (古河総)	○	○
2018156	鳥居千子丁内道路 779	公共	区间整理	豊洲区 11/12	委託 (古河総)	○	○
2018157	高大木通新規 135	民間	個人住宅	狛江区 10/26	委託 (古河総)	○	○
2018158	御成通新規 127	民間	上水の修理	狛江区 10/26	委託 (古河総)	○	○
2018159	谷本通新規 112	民間	軒先住宅	東区 10/19 - 23	委託 (古河総)	○	○
2018160	賀茂川通新規 112	民間	個人住宅	豊洲区 11/17	委託 (古河総)	○	○
2018161	清水川通新規 112	公共	電線杆	北区 12/11	委託 (古河総)	○	○
2018162	御成通新規 794	民間	埋木管布設	江戸川区 11/17 - 30 2/6 - 8	委託 (古河総)	○ ○	○ ○
2018163	駒込七角通新規 329	民間	七角造成	狛江区 11/8 - 27	委託 (古河総)	○	○
2018164	渋谷本通新規 773	民間	電気	北区 11/6	委託 (古河総)	○	○
2018165	柳原八幡通新規 400	民間	電機販売網	江戸川区 12/25	委託 (古河総)	○	○
2018166	下町通新規 277	民間	集合住宅	江戸川区 1/14	渋谷山手(古)	○	○
2018167	谷本・久保通新規 112	民間	集合住宅	北区 1/21	渋谷山手(古)	○	○
2018168	芦戸戸門新規 122	公共	電線杆	狛江区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018169	山根通新規 227	公共	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018170	下町通新規 400	民間	自宅停車	江戸川区 2/8	委託 (古河総)	○	○
2018171	芦戸戸門新規 122	公共	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018172	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018173	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018174	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018175	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018176	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018177	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018178	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018179	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018180	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018181	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018182	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018183	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018184	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018185	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018186	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018187	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018188	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018189	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018190	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018191	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018192	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018193	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018194	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018195	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018196	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018197	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018198	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018199	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018200	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018201	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018202	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018203	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018204	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018205	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018206	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018207	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018208	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018209	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018210	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018211	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018212	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018213	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018214	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018215	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018216	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018217	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018218	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018219	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018220	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018221	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018222	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018223	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018224	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018225	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018226	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018227	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018228	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018229	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018230	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018231	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018232	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018233	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018234	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018235	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018236	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018237	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018238	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018239	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30	委託 (古河総)	○	○
2018240	御成通新規 136	民間	電線杆	豊洲区 1/30			

### III 文化財センターの事業

#### 1 本発掘調査の概要

##### (1) 本発掘調査について

埋蔵文化財包蔵地は現状のまま保存され、後世に継承されることが望ましい。しかし、工事で掘削されるなど、現状保存が不可能な場合は、記録による保存を目的とした発掘調査が必要となる。これを本発掘調査と呼んでいる。本発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。

新潟市では、「法」第94条の通知については、事前に試掘・確認調査を実施して遺跡の内容などを把握し、文化庁の示した標準（「文化庁標準」）およびそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（「新潟県基準」）に則して取扱いに関する意見を付して県教育委員会へ副申している。これを受けた県教育委員会が判断した遺跡の取扱いに関する指示を通知者へ示している。

一方、「法」第93条の届出については、「新潟県基準」とこれを参考に新潟市が定めた「新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱」（平成19年4月1日施行）に則して取扱いを決定し、届出者へ通知している。

本発掘調査が必要な場合は、遺跡内の掘削面積を最小限にするため、開発事業者などと遺跡の取扱いについて協議している。しかし、公共事業では各種法令に基づき設計されていることから、設計変更し遺跡の現状保存を図ることは困難な場合が多い。民間事業もまた大規模に設計変更できないのが現状である。

本発掘調査実施にあたっては、「法」第99条により、新潟市教育委員会が実施するものとし、直営体制で実施している。新潟市では、歴史文化課が教育委員会事務を補助執行しており、本発掘調査に係る全体協議は埋蔵文化財担当が行い、本発掘調査は文化財センターが担当している。しかし、調査の件数・規模に対し、市専門職員

は人数が限られていることから、市専門職員による調査担当（正）および調査員（副）の正副調査員の配置が困難で、調査担当のみの配置となっている。また、現場の発掘作業と並行して現年度調査分および過年度調査分の整理・報告書作成作業も進めなければならない。解決手段の一つとして、民間調査組織を通じて導入し、調査員として調査業務の一部を委託している。調査担当は、本発掘調査全体管理のほか民間調査組織の監理も求められることになる。

##### (2) 平成30年度の本発掘調査

表1に示したとおり、5遺跡で本発掘調査を行った。道路建設関係（市事業）で2件、個人住宅関係で2件、民間開発関連事業で1件である。

公共事業は、江南区の中央環状線横越バイパスに係る川根谷内遺跡で821.6mを調査した。また、同区の市道砂崩南線に係る砂崩前郷遺跡で789.6mを調査した。江南区では民間開発事業に係る前山遺跡で64.8mを調査した。さらに、秋葉区では個人住宅建設に伴って程島館跡122.4m、原遺跡177.4mの調査を実施した。（朝聞政康）

##### (3) 平成30年度の本発掘調査現地説明会

平成30年度は川根谷内遺跡と砂崩前郷遺跡で現地説明会を開催した（表2）。いずれも50名を超える参加者があり、市民の遺跡や地域の歴史に対する関心の高さがうかがえる。なお、前山遺跡や程島館跡・原遺跡については、面積が狭小でいずれも調査地が住宅街のため、現地説明会は行わなかった。

（龍田優子）

表2 平成30年度本発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数（人）
2018/10/6（土）	川根谷内遺跡	58
2018/10/6（土）	砂崩前郷遺跡	79

表1 平成30年度新潟市本発掘調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名	面積 調査面積 (㎡)	調査地	調査の原因	調査担当	調査員 発掘実績	遺跡の時代	主な遺物	位置 番号 (図1)
2018001	前山遺跡 11	6	江南区 北守屋前山 363番地外	宅地造成 (民間開発)	遠藤泰雄 牧野耕作	-	5/14 ～5/31	古代 ビート(古代), 竹筒不明遺構(近世以降)	土師器・埴輪器(古代), 陶器類(中世・近世), 石製品・金属製品 1
2018002	程島館跡 168	9	秋葉区 新東町 山手1番	個人住宅 建設	鶴田慶子	-	5/25 ～7/2	绳文・古代・ 中期 井干・土坑・溝, 竹筒不明遺構・ビート	绳文土器, 土師器・埴輪器(古代), 石製品・陶器類 2
2018003	原遺跡 126	10	江南区 新東町 28番3号外	個人住宅 建設	日本宏明	-	6/1 ～7/30	土坑・竹筒不明遺構 漆器・陶器	绳文土器・土師器・石器 3
2018004	川根谷内遺跡 365	6	江南区 堀之内丁目 (公共事業)	道路整備	牧野耕作	基盤排削(解体回収設)	8/1 ～10/15	古代 竹筒不明遺構(近世以降)	土師器・埴輪器(古代), 陶器類(近世), 石製品・金属製品 4
2018005	砂崩前郷遺跡 421	3	江南区 砂崩前郷95-5 7167番外	道路整備 (公共事業)	遠藤泰雄	澤野栄子, 室留豊広, (柳原)桂香コンサル	7/23 ～12/14	绳文・古代 土坑・ビート(绳文), 井干道(平安), 漆器・陶器(平安), 石製品 5	绳文土器, 土師器・埴輪器(平安), 石製品・陶器類 木製品

## 2 平成30年度の本発掘調査

平成30年度本発掘調査の概要を調査番号順に次項より

記す。概要掲載遺跡の位置を図1、一覧を表1に示した。  
各項目は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。

(龍田俊子)

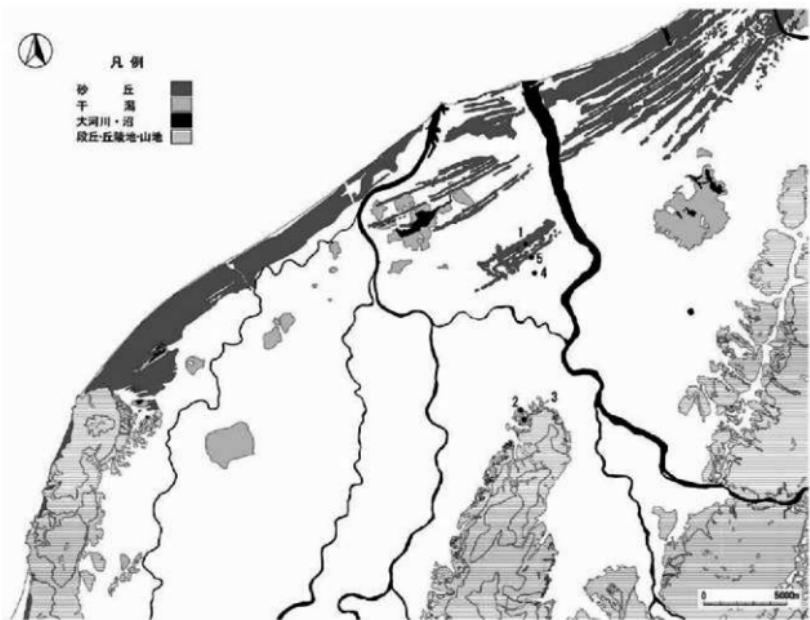


図1 平成30年度本発掘調査位置図 (1/300,000)



本発掘調査風景（前山道路第6次調査）



現地説明会風景（砂崩前郷遺跡第3次調査）

## (1) 前山遺跡 第6・7次調査 (2017.8.8 - 2018.1.1)

所在地 新潟市江南区北山字前山263番外

調査の原因 宅地造成に伴う引き込み道路工事

(民間事業)

調査期間 平成29年9月4日

～10月20日 (2017.8.8 - 4日間)

平成30年5月14日～31日 (2018.1.1)

調査面積 55.0m<sup>2</sup> (2017.8.8 - 調査対象面積2117m<sup>2</sup>)64.8m<sup>2</sup> (2018.1.1)

調査担当 謹山えりか (2017.8.8)

遠藤恭雄 (2018.1.1)

調査員 牧野耕作 (2018.1.1)

処置 記録保存

**調査に至る経緯** 前山遺跡内の宅地造成に伴い、平成29年4月13日付で事業者より市教育委員会宛てに照会があった。これを受けて、平成29年に確認調査（第6次・2017.8.8）を行った。調査地は2か所に分かれており、東側に5か所、西側に14か所のトレーニングを設定した。このうち西側調査地の1・5・13～18Tで遺物が出土し、14・17Tでは遺構も検出された（図2）。その後、17・18Tが宅地造成に伴い改良される引き込み道路の範囲に含まれることから、事業者と協議を進めた結果、19T以南の道路改良範囲の本発掘調査を実施することで合意した。また、宅地造成範囲については、開発の際に個別協議することとした（図1）。

**位置と環境** 本遺跡は江南区北山にある北山池の南東約200mに所在し、信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれた新砂丘I（亀田紗丘）の東寄りに位置する。この地区は北から北山地区側の砂丘列（新砂丘1～3）、砂丘間低地、砂崩地区側の砂丘列（新砂丘1～2）に分かれており、遺跡は北山地区側の砂丘の南側斜面に位置する。昭和42年頃の砂取り工事によって砂丘が削平された際に遺物が出土したという。同砂丘列上には金塚山遺跡や彦七山遺跡といった古代の遺跡が所在する。現在の標高は27m前後で、現況は住宅地・畠地・道路となっている。

調査は宅地造成に伴う引き込み道路部分の幅6m、延長約24mを対象とした。遺跡範囲に10m方眼の大グリッドを設定した。この大グリッドを2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、「2B12」のように呼称・表記した。調査範囲内の2B1グリッドの座標は、X座標207880.00、Y座標54710.00で、座標北は真北方向に対し0度22分54秒西偏する。

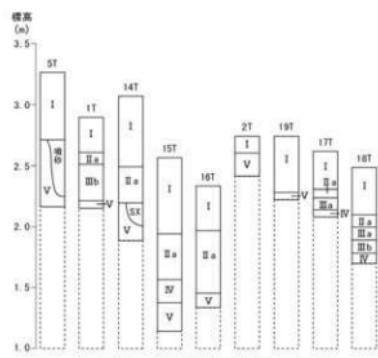
**層序** 基本的な層序はI層が道路造成に伴う盛土、II層が近世以降の耕作土で、IIa層が黒褐色シルト層、IIb層が暗褐色シルト層、IIIa層が黒褐色シルト層



図1 調査位置図 (●: 寄贈資料採集地点) (1/10,000)



図2 第6次調査西側調査地トレーニング位置図 (1/1,000)



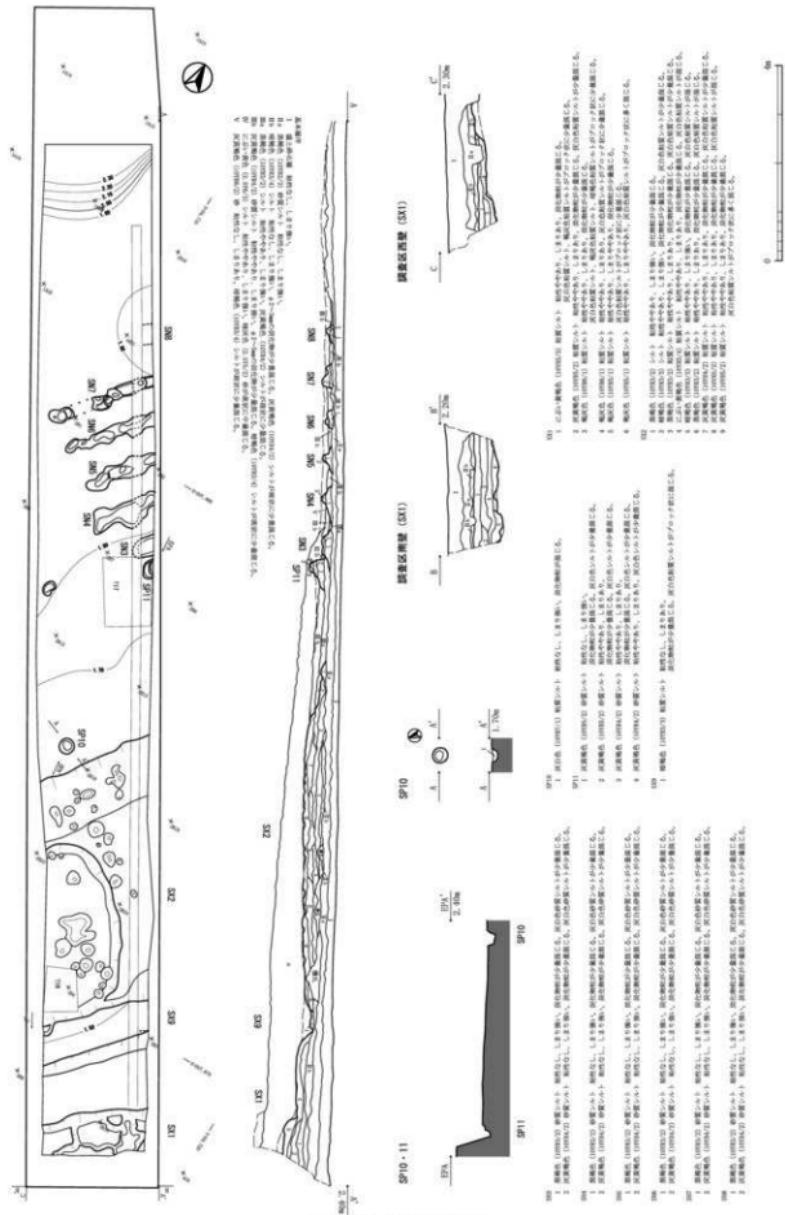


図4 第7次調査構全体図(1/100)

で古代の遺物包含層、Ⅲ b 層が灰黄褐色砂質シルト層で古代の遺構確認面、IV 層がにぶい黄色シルト層で基盤層、V 層は灰黄褐色砂層で基盤砂層である。

Ⅲ a・b 層は調査区北半と中央部の砂丘斜面の落ち際に検出されたが、調査区南半では遺構によって削平され遺存していない。IV 層は砂丘間低地に流れていた河川によって堆積したものと推測され、調査区南側にのみ堆積している。基盤砂層の V 層は中央部付近では確認できるが、北端部では土取りによってⅢ～V 層が削られており、灰白色の砂丘砂が I・II 層直下で検出される場所もある。

#### 検出遺構 調査区中央部で古代のピット (SP) 2 基、

南側で近世以降の性格不明遺構 (SX) 3 基、北側で近代以降の鉄状遺構 (SN) 8 条が検出された。ピットはⅢ b 層上面で検出された。木柱などは残存しておらず、掘立柱建物の配置も確認できなかった。一方、本調査区南側で検出された SX 1・2 は水田に類する遺構、SX 9 は SX 1・2 の間の畦畔と考えられる (図4・表1)。

**出土遺物** 第6次・7次調査の出土遺物と調査地周辺で採集された寄贈資料を併せて報告する (図5・表2)。時期に関しては春日編年 (春日1999) を参考にした。

第6次調査では古代の土師器・須恵器が出土しており、このうち2点を図化した (1・2)。1・2 は須恵器大甕

表1 遺構計測表

遺構 No.	グリッド	時代	標記面	主軸方位	規模 (m)			底面 標高 (m)	形態		覆土	出土遺物			
					上端				下端						
					長軸	短軸	延軸		長軸	短軸					
SP10	2B-12	古代	II b		0.31	0.31	0.20	0.14	0.21	1.49	円筒	低伏 1			
SP11	2B-2・12	古代	II a		0.36	0.20	0.18	0.06	0.53	1.87	—	矩伏 4			
SX1	3B-4・5・9・10	近世	II b		—	2.24	—	—	2.21	1.05	1.35	—	6 土師器・須恵器・近世陶器・石製品		
SX2	2B-12・13・17・18・19・ 22・23・24・3B-3・4	近世	II b		—	5.00	—	3.76	0.83	1.37	—	半円状 9	土師器・仮面器・近世陶器・石製品・金属製品		
SX9	2B-24, 3B-4	近世	II b	N-47°-E	2.24	0.69	2.24	1.20	0.12	2.28	—	逆台形狀 1			
SN3	2B-2	近代	II a	N-40°-E	0.46	0.41	0.35	0.24	0.37	2.03	—	半円状 2	土師器		
SN4	2B-1・2	古代	II a	N-32°-E	1.39	0.54	1.29	0.39	0.38	2.02	—	半円状 2	土師器		
SN5	1B-21, 2B-1	古代	II a	N-36°-E	1.53	0.42	1.34	0.22	0.35	2.05	—	半円状 2	土師器・金属製品		
SN6	1B-21, 2B-1	近代	II a	N-40°-E	1.91	0.20	1.84	0.18	0.29	2.11	—	半円状 2	土師器・石製品・金属製品		
SN7	1A-25, 1B-21, 2A-5	古代	II a	N-40°-E	2.26	0.30	2.18	0.18	0.36	2.04	—	半円状 2	土師器・近世陶器・金属製品		
SN8	1B-36	近代	II a		—	—	—	—	0.25	2.15	—	半円状 2	土師器		



調査区遠景 (南東から)



調査区実掘状況 (南東から)



調査区東壁基本蓄序 (南西から)



SP11 実掘状況 (南西から)

である。1の口縁部は直線的に立ち上がり外面には波状文が描かれる。2は口縁端部の破片資料である。5 Tから出土し、後述の寄贈資料と接合した。

第7次調査では土師器・須恵器・近世陶磁器・石製品・鍛冶関連遺物が出土した。遺物は古代の遺構ではなく、包含層や近世・近代遺構などに混入して出土する。このうち18点を図化した(3~20)。3は須恵器大甕の底部付近、4は須恵器無台杯の底部、5は須恵器杯蓋の口縁部である。いずれも破片資料で、4は立ち上がり部分のロクロナデが強く残る。6は土師器長甕、7は土師器小甕の口縁部である。6は非ロクロ成形でIV期の所産と考える。8は古墳時代の土師器高杯である。内黒土器で古墳時代後期に位置付けられる。9は須恵器無台杯、10は須恵器杯蓋の破片資料である。11~13は土師器長甕、14~17は土師器小甕である。このうち11~13・17は非ロクロ成形で、IV期の所産と考える。18は須恵器有台杯の底部資料である。底径が大きく、IV期に位置付けられる。19・20は時期不明の鉄錠と石製品で、いずれも破片資料であった。

次に寄贈資料について報告する。寄贈資料は本調査地の北東約80mの畠地(図1)で村木武明氏が採集した土器である。総量はコンテナ2箱で、このうち13点を図化した(21~33)。21~29は須恵器である。21の無台杯は口縁端部で外反する。22の有台杯は厚手で、高台は内端

接地となる。23~25は杯蓋である。23・24は内面に短いカエリが付き、II期に位置付けられる。25は内面全体に墨痕があり、硯として転用されたと考える。26は円面硯の高台部である。透かしと思われる痕跡もあるが、破片のため詳細は不明である。27は大甕、28は甕とした。28は通常の大甕より口縁部が短く、鉢の可能性もある。29は小型の甕の底部資料である。30~32は土師器で、30は無台碗、31・32は長甕である。30は底径が大きく、内面のロクロナデが強く残る。31・32は非ロクロ成形でIV期の所産と考える。33は珠洲焼の鉢の体部で、内面に御印が確認できる。

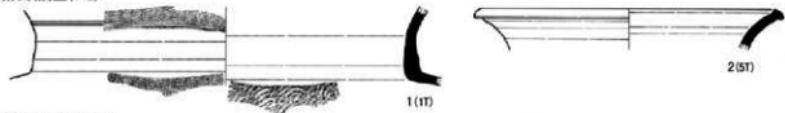
ま と め 出土遺物と寄贈資料から前山遺跡の存続期間は古墳時代後期から中世と推測され、主体となるのは古代である。遺跡の中心は本調査地の北東側、寄贈資料が採集された地点周辺の可能性が高い。今回の調査で確認された古代の遺構・遺物はわずかであったが、砂丘から砂丘間低地にかけての堆積状況を観察することができた。亀田砂丘後列東端に立地する小丸山東遺跡(遠藤2015)でも同様の土層堆積が確認されており、砂丘縁辺における遺跡の形成過程を示した調査事例である。

なお、前山遺跡第7次調査は、本書の記述をもって正式報告とする。  
(澤野慶子)

表2 遺物観察表

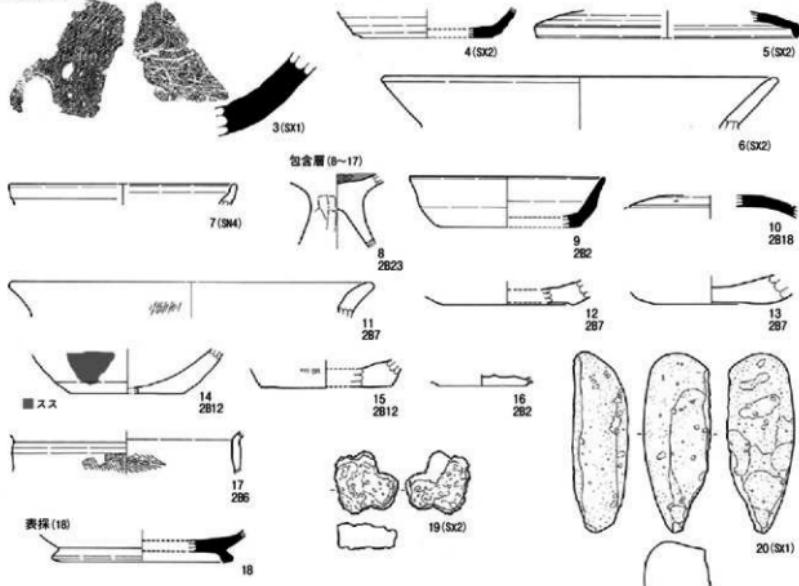
遺物No.	真名番号	出土位置 遺物名 グリッド・地番	部位	種別	器種	法 量(m)	外 面		手 法		造 型		時 期	備 考
							口	径	底	高	底	高		
1	2017188	1T		口縁部	須世器 大甕						ロクロナデ・波状文・ 比較・ナメ	ロクロナデ・ 内面・具象		古
2	2017188	DT 北340・354	1	須世器	甕	36.0					ロクロナデ	ロクロナデ	6/36	V・古
3	2018001	SK1 315	2	須世器	甕						ナメ	内面・具象		V・古
4	2018001	SK2 2018	2	須世器	有台杯	8.0					ロクロナデ	ロクロナデ	4/36	V・古
5	2018001	SK2 315	2	須世器	甕	16.0					ロクロナデ	ロクロナデ	1/36	V・古
6	2018001	SK2 2024	1	土師器	甕	24.0					ヨコナデ・ハナナデ	ヨコナデ	2/36	古
7	2018001	SN4 252	2	土師器	小甕	14.0					ロクロナデ	ロクロナデ	1/36	V・古
8	2018001	2023 15	15	土師器	高杯						ハナナデ	1号牛		古
9	2018001	252	15	須世器	有台杯	12.0 0.2	31	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ型	7/36	9/36	V・古	古墳時代後期
10	2018001	2018 15	15	須世器	甕						ロクロナデ	ロクロナデ		V・古
11	2018001	207	15	土師器	甕	22.0					ハメ		1/36	古
12	2018001	207	15	土師器	甕	8.0					ハナナデ	ハナナデ	8/36	B'
13	2018001	207	15	土師器	甕	7.0					ロクロナデ	ロクロナデ	10/36	B'
14	2018001	2012	15	土師器	小甕	7.0					ロクロナデ	ロクロナデ	9/36	V・古
15	2018001	2012	15	土師器	小甕	8.0					ロクロナデ・ハナナデ	ロクロナデ	2/36	V・古
16	2018001	212	15	土師器	小甕	5.0					ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	V・古
17	2018001	206	15	土師器	小甕						ヨコナデ・ハナナデ	ハナナデ		古
18	2018001	長甕		須世器	有台杯	10.0					ロクロナデ	ロクロナデ	6/36	B' 高台内端傾斜
19	2018001	SK2 2012	2	須世器	甕	23.33.0	30.6	厚5.17						東北250g
20	2018001	SK1 2017	1	石製品	脚石	21.13.0	30.1	厚5.23						東北1780g 古鏡
21	寄贈	北340・354	1	須世器	有台杯	14.0	20				ロクロナデ	ロクロナデ	4/36	V・古
22	寄贈	北340・354	1	須世器	有台杯	7.8					ロクロナデ	ロクロナデ	6/36	V・古 高台内端傾斜
23	寄贈	北340・354	1	須世器	甕	18.0					ロクロナデ・ナメ	ロクロナデ	6/36	E 小人立有
24	寄贈	北340・354	1	須世器	甕	16.0					ロクロナデ	ロクロナデ	1/36	E 小人立有
25	寄贈	北340・354	1	須世器	甕	13.8	23				ロクロナデ・ナメ	ロクロナデ	15/36	V・古 内曲面部・転用硯
26	寄贈	北340・354	1	須世器	内曲硯	14.0					ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	透かしあり
27	寄贈	北340・354	1	須世器	甕						ロクロナデ・ナメ	ロクロナデ・内曲		V・古
28	寄贈	北340・354	1	須世器	甕	26.0					ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	V・古
29	寄贈	北340・354	1	須世器	小甕	6.2					ロクロナデ	ロクロナデ	6/36	V・古
30	寄贈	北340・354	1	土師器	有台杯	7.0					ロクロナデ	ロクロナデ	11/36	V・古
31	寄贈	北340・354	1	土師器	甕	22.0					ヨコナデ・ハナナデ	ヨコナデ	1/36	B'
32	寄贈	北340・354	1	土師器	甕	20.0					ヨコナデ・ハナナデ	ヨコナデ	2/36	B'
33	寄贈	北340・354	1	須世器	硯							鋸目		中层

## 第6次調査(1・2)



## 第7次調査(3~20)

遺構内(3~7)



## 寄贈資料(21~33)

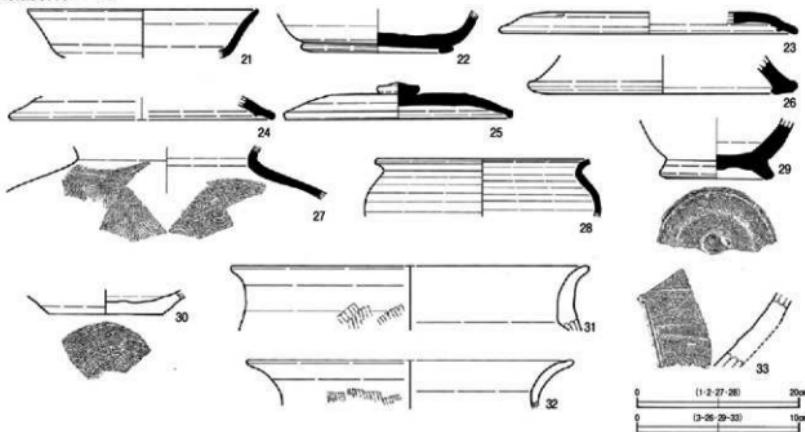


図5 遺物実測図(1/3・1/6)

0 (1-2-27-28)  
20cm  
0 (3-26-29-33)  
10cm

## (2) 程島館跡 第9次調査(201802)

所在地 新潟市秋葉区新栄町1831-1外

調査の原因 個人住宅建設(民間事業)

調査期間 平成30年5月25日~7月2日

調査面積 122.4m<sup>2</sup>

調査担当 龍田優子

処置 記録保存

調査に至る経緯 平成29年11月、個人住宅建設に伴い既存の建物解体前に確認調査(第8次・2017229)を実施した。その結果、後世の擾乱を受けているものの遺物包含層と遺構が検出され遺物も出土した。この結果を受け建物解体時に工事立会、解体後の平成30年2月には追加の確認調査(第8次・2017229)を実施した。結果は遺物包含層と遺構確認面が検出され、遺物が出土した。以上の調査結果を基に事業主と協議を行い、基礎工事などにより遺物包含層が掘削されるなど保護層が確保できない範囲について平成30年4月29日付で『法』第93条届出、同日付で発掘調査依頼書が提出された。平成30年5月18日付新規F第26号の4で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した(図1)。

**位置と環境** 新津丘陵の北西末端部に位置し、標高は6m前後である。程島館跡は一辺110mの方形とされ、旧更正園では水田に囲まれた区画を確認できる。堀として掘削された部分は水田、堀の掘削土は内側に盛り上げて土塁を築いたようである。旧更正園に畠として記載されるこの土塁の一部は現在も残る。また、水田部分は城ノ越、水田に囲まれた内側には館ノ内という小字名が残る。今回の調査地は、縄文時代前期終末の資料が多く出土した昨年の本発掘調査(201706)地の道路を挟んで北西に位置し、両調査地ともに堀の内側にある。

**検出遺構** かつての整地などで大部分が遺構確認面まで擾乱されて盛土や盛砂が厚く堆積していたが、確認面は概ね北へ向かって傾斜して下る。遺構は非常に多く、井戸2基、土坑10基、溝状遺構5条、性格不明遺構7基、ピット117基が重なり合うように検出された。大半が古代と中世で、縄文時代の遺構は南側のわずかに高くなつた一部で確認された。

古代の遺構は、焼土と炭化物が層状に堆積する土坑が複数検出された。遺構内には焼土が広範囲に厚く堆積し、燃焼時間の長さがうかがえる。中世の遺構は、井戸のほか、柱根は検出されなかったが柱痕をもつピットが多数検出され、掘立柱建物が複数棟建つと推測される。

**出土遺物** 遺物包含層は2層に分層されるが、両層からは縄文・古代・中世の遺物が混在して出土する。整地時の重圧などで包含層遺物の残存状況は良くないが、



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (右が北西)



SX36断面 (西から)

遺構覆土からは比較的良好な状態の遺物が出土している。遺物の多くは平安時代の土師器や須恵器で、縄文土器や黒曜石片のはかに焼成粘土塊やアスファルトがわずかに含まれる。また、中世の井戸底面からは良好な状態の横植や刀形などの木製品、端部を削って尖らせている加工木や樹皮が付いた自然木などが多数出土した。総出土量は木製品1箱を含め、コンテナで26箱である。

**まとめ** 調査地の北西端まで古代・中世の遺構が密に検出され、遺跡の範囲がさらに低地へ広がることが分かった。今後は、各遺構で採取した土壤で堆積当時の植生や植物利用などを推測し、2か年の調査を総合的に判断して時代ごとの土地利用を考えたい。報告書刊行は令和2年度以降の予定である。  
(龍田優子)

## (3) 原遺跡 第10次調査 (201803)

所在地 新潟市秋葉区程鳥字原208番3 外

調査の原因 個人住宅建設（民間事業）

調査期間 平成30年6月1日～7月30日

調査面積 177.4m<sup>2</sup>

調査担当 立木宏明

処置 記録保存

調査に至る経緯 個人住宅建設に先立ち、平成29年12月に確認調査（第9次：2017.2.28）を実施した結果、表土直下に遺物包含層が残存していることが明らかとなつた。そこで、事業者と協議を行い駐車場工事などにより遺物包含層が掘削される範囲について本発掘調査を実施することで合意した。平成29年12月26日付で「法」第93条届出が、平成30年4月27日付で発掘調査依頼書が事業者より提出された。これを受けて平成30年5月15日付で着手報告を出し、本発掘調査を実施した（図1）。

位置と環境 新津丘陵の北西部、丘陵から張り出した台地状の尾根に立地する。現地表面の標高は約25mで現況は宅地である。戦後、周囲はお茶栽培が盛んな場所で調査地も以前は茶畠として利用されていた。市域では著名な縄文時代の遺跡であり、明治時代以来、多くの研究者が踏査を行い、その遺物が研究誌・市町村史に紹介されてきた。今回の調査は、旧新津市教育委員会による調査も含めて第10次調査にあたり、記録保存を目的とする初の本発掘調査である。

**概要と層序** 基本層序はI層が表土（旧耕作土）、II・III層が遺物包含層、IV層上面が遺構確認面、IV層以下が基盤層である。耕作の影響による擾乱が著しく、II層が全域ではなくどこで壊壠されていたのに対し、III層が調査区北東部に良好に残存し、遺物が多量に出土した。

**検出遺構** 遺構は埋設土器3基、土坑16基、性格不明遺構1基、ピット31基の計51基が検出された。調査区西側および南東部は削平を受けており、遺構の大半は北東部に集中する。調査区各所には土器集中部がみられ、埋設土器はいずれもその集中部付近で発見された。特徴的な遺構として貯蔵穴とみられる袋状土坑や、破碎された土版が出土した土坑が検出された。

**出土遺物** 碎片数で約10,000点の縄文土器が出土した。時期は、縄文時代中期前半から晩期後葉だが、晩期中葉から後葉の時期が主体を占める。また、弥生土器（前期）が、今回の調査で初めて出土した。縄文土器片の一部には、アスファルトが付着したものもある。石器では、石鏃や石錐、石砲、磨製石斧、磨石、石皿、台石など生業に関する道具がまとまって出土した。石材として、玉髓が多用されていることが注目され、原石や石核に伴つ



図1 調査地位図 (1/10,000)



調査地全景（下が北東）



縄文土器出土状況

て剥片も大量に出土していることから、遺跡で盛んに石器製作が行われていたと考えられる。その他、土版や石棒といった祭祀に関わる道具も出土している。

**まとめ** 小規模な発掘調査であったにも係らず、多数の遺構が検出され、大量の遺物が出土した。これまでの確認調査の結果を合わせても、原遺跡は縄文時代中期から晩期における新津丘陵の拠点集落と位置付けることができ、今回の調査でその一端が明らかとなった。

なお、報告書の刊行は令和2年度以降の予定である。

（立木宏明）

#### (4) 川根谷内遺跡 第6次調査 (201804)

所在地 新潟市江南区曙町5丁目37-1外

調査の原因 主要地方道新潟中央環状線道路整備事業  
(公共事業)

調査期間 平成30年8月1日～10月15日

調査面積 821.6m<sup>2</sup>

調査担当 牧野耕作

調査員 藤本博康(㈱吉田建設)

処置 記録保存

調査に至る経緯 主要地方道新潟中央環状線道路(横越バイパス)建設に伴い実施した試掘調査(第6次・2017.9.1)の結果、水田の可能性のある遺構や平安時代の遺物が見つかり、隣接する川根谷内遺跡が事業用地まで拡大することが確認された。

この調査結果を基に協議を進めた結果、道路建設により影響の及ぶ道路本線部分の延長約60m、幅約12mの範囲について本発掘調査を行うこととなった。排水路以北の範囲については追加の確認調査を令和元年度に実施し、その結果をもって対応を決定することとした。事業主から『法』第94条の届出が提出され(平成29年12月13日付)、平成30年7月30日付新歴F第3号で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した(図1)。

位置と環境 遺跡は阿賀野川の支流と考えられる埋没した旧河道南側の自然堤防に立地する。現地の標高は3.1～3.7mで、現況は宅地である。遺跡は阿賀野川から西へ約1.9kmの距離にある。この一帯は昭和40年代前半に工事用に土取りされており、遺跡の大部分が消滅したとされている。

**検出遺構** 遺構確認面は現地表面下1.0～1.5mで、近世以降の水田跡とそれに伴う畦畔4条、性格不明遺構1基が検出された。調査区全面が近世以降の水田跡であり、畦畔は水田に伴うと考えられる。南北方向の畦畔は確認できたが、東西方向の畦畔は確認できなかった。

性格不明遺構は調査区北端で見つかり、遺構の深度は現地表面より約13m下であった。遺構は調査区外へ延びており、遺構全体を調査できなかつたため明確ではないが、遺構の位置から旧河道の川べりの可能性が高いと考えられる。

**出土遺物** 平安時代(9世紀代)の土器と江戸時代以降の陶磁器を中心に、鉄製品・石製品が出土している。出土量はコンテナで6箱である。9世紀の土器は須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・長頸壺や土器部無台輪・長甕・鍋などで、近世陶磁器は瓶・擂鉢・鉢などである。鉄製品は和釦が出土した。

**まとめ** 今回の本発掘調査では、江戸時代以前と



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査地と北にのびる中央環状道路 (南西から)



実掘状況 (南西から)

考えられる遺構は発見されなかった。しかし、平安時代の遺物が出土していることや、同じ自然堤防上で数多く同時代の遺跡が所在していることから、川根谷内遺跡でも当時人々が生活していたと考えられる。調査地は自然堤防の幅が狭まる場所で、南側に向けて傾斜していることから、居住に適した場所とはいえないないと推測できる。そのため、遺跡の主要部は自然堤防の幅が広がる、調査区より東側の遺跡範囲中心付近で、調査地はその縁辺部と考えられる。

なお、報告書は平成30年度内に刊行した(牧野・藤本は2019)。  
(牧野耕作)

## (5) 砂崩前郷遺跡 第3次調査 (2018005)

所在地 新潟市江南区砂崩丘697-5・716-7外

調査の原因 市道砂崩南線整備工事 (公共事業)

調査期間 平成30年7月24日～12月14日

調査面積 789.6m<sup>2</sup>

調査担当 遠藤恭雄

調査員 澤野慶子、

重留康宏 (㈱シン技術コンサル)

位置 記録保存

調査に至る経緯 市道砂崩南線建設工事に先立ち、平成29年度に砂丘の南側に沿う延長約770mを対象に試掘・確認調査を行った。その結果、平安時代の遺物が出土した1区(204m<sup>2</sup>)と縄文時代中期・晚期と平安時代の遺物が出土した2区(424m<sup>2</sup>×2面)が本発掘調査の対象となった。江南区建設課より「法」第94条の通知(平成30年1月11日付)が提出され、平成30年7月24日付新歴F第24号で着手報告を提出し本調査を実施した(図1)。

位置と環境 遺跡は、亀田砂丘前例(新砂丘I-2)の中央東寄りに位置し、東西約200m、南北約200mの範囲と推定されている。付近には、縄文時代前期初頭まで遡る砂崩遺跡が本遺跡北東側に隣接するなど、原始・古代の遺跡が密集し、信濃川以東の市内平野部では、最も早くから人々の活動痕跡がみられる地域である。

概要と層序 基本層序は水田耕作土(Ⅰ層)、沖積層である黄灰色～灰色シルト(Ⅱ層)および灰色粘性シルト層(Ⅲ層)、砂丘堆積土である黒褐色腐植砂(Ⅳ層)および基盤となる浅黄色砂層(Ⅴ層)に分けられる。Ⅰ・Ⅱ層は水平に堆積し、Ⅱ層上面が近世以降の遺構および古代と推定される旧河道の検出面である。Ⅲ層以下は2区でのみ検出され、Ⅳ層上面では標高0.5～0.9mで南東側に舌状に突き出した地形となる。Ⅳ層は層厚0.3～0.5m、a～cに分けられ、Ⅳa・b層が縄文～弥生時代の遺物包含層、ⅣcはⅤ層との漸移層で、Ⅳc～V層上面が同時期の遺構確認面である。

検出遺構と出土遺物 古代については、2区上層において旧河道から9世紀代の須恵器杯・大甕などが出土したにとどまる。2区下層では、土坑3基、ピット1基が確認された。遺構の分布は標高の高い調査区の北側に偏り、土坑(SP7)において晚期中葉の所産とみられる透光器系土偶の胸下半(写真下 現存高10.7cm)が出土した。Ⅳ層では、縄文時代中期前葉および後期中葉から弥生時代初期の土器、石器・磨製石斧の刃部などの石器が出土した。土器の主体は縄文時代晚期後葉であり、縄文時代中期・後期の土器はⅣ層下位層を中心に出土している。

ま と め 2区下層では、縄文時代中期から弥生時



図1 調査位置図 (1:10,000)



2区下層(N層) 遺物出土状況(南西から)



透光器系土偶 (2区SK7出土)

代初頭の遺物包含層が良好な状態で残存することが確認された。焼土痕など明確な生活痕跡は検出されなかったが、遺物の出土状況から、砂丘頂部に向かう北側調査区外に遺跡の中心部が存在し、遺物はそこから廃棄または自然力により2次的に調査区内に移動したものと推定された。各時期の遺物が散発的に出土しており、砂丘後背湿地に面した立地を背景に、周辺の拠点遺跡の活動領域として断続的に利用されたことがこうした出土状況につながったものと考えられる。砂丘上の遺跡の多くが開発などにより破壊され消滅する中で、その一部は深く埋没し、良好な状態で遺存する可能性を示す例である。また、自然科学分析の結果から、当該地は3世紀後半～4世紀初頭に急速に埋没した可能性がある。

なお、報告書は令和元年度に刊行した〔遠藤・重留ほか  
2020〕。

(遠藤恭雄)

### 3 整理作業の概要

平成30年度に文化財センターが実施した本発掘調査などの整理作業の一覧を調査番号順に表4に、同年度に刊行した報告書を刊行順に表5に示した。

#### (1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の再整理事業

試掘・確認調査、工事立会は歴史文化課で実施し、出土遺物は調査担当の指示により文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。

本発掘調査以外の遺物は、一般に公開されることなく収蔵されてしまう場合が多い（昨年度までは、本書『年報』で主要な試掘・確認調査および工事立会の概要と出土遺物などを記載していたが今号から削除している）。

平成30年度は前年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物の整理を行い、38調査分でコンテナ約52箱を収蔵した。報告書刊行済みの掲載資料は、コンテナ収納状況の点検を行い、接着剤や充填材の経年劣化により破損した資料の再接合などを適宜行っている。（相澤裕子）

#### (2) 整理作業

表4に示したとおり、複数の本発掘調査について整理作業を行い、順次報告書を刊行している。特に、県営團

場整備事業に伴い平成19年から継続して本発掘調査を行っている細池寺道上遺跡の整理作業は膨大で、未刊行の複数の調査を並行して進めている。

#### (3) 平成30年度刊行報告書

発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。事業者への費用負担もあるため、報告書は発掘調査成果が風化する前の可能な限り早い刊行が望ましい。

表5に示したとおり、平成30年度に報告書を刊行した本発掘調査は3件である。平成28年に発掘調査した細池寺道上遺跡（2016001）は「細池寺道上遺跡Ⅷ 第48次調査－県営は場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第23次発掘調査報告書－」（立木・奈良は2019）として刊行した。また、平成29年度に本発掘調査を実施した赤鎌砂山遺跡（2017001）の報告書「赤鎌砂山遺跡 第5次調査－商業施設建設に伴う赤鎌砂山遺跡第3次発掘調査報告書－」（立木・澤野は2019）を刊行した。さらに、今年度に本発掘調査を実施した川根谷内遺跡（2018004）は、遺構・遺物とともに少なかったため「川根谷内遺跡 第6次調査－主要地方道新潟中央環状線道路整備事業に伴う川根谷内遺跡第2次発掘調査報告書－」（牧野・脇脇は2019）として年内刊行した。

（龍田優子）

表4 平成30年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査次数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
細池寺道上遺跡	29・31・44・46・48・50	2009003・2010000・2014001・2015002・2016002・2017002	周辺整備	立木宏明・奈良佳子・細野高伯（㈱シン技商コンサル）	基礎整理・遺物実測・報告書作成・印刷同行
大沢谷内遺跡	15・17・19	2009002・2010002・2011006	道路整備	相田泰臣	基礎整理・報告書作成
赤鎌砂山遺跡	5	2017001	商業施設建設	立木宏明・澤野慶子・奈良佳子	報告書作成・印刷同行
波木東遺跡	3	2017003	道路整備	金田哲也・澤野慶子	基礎整理・写真整理・遺物実測・報告書作成
亀田道下遺跡	2	2017004	道路整備	澤野慶子・近藤恭雄	基礎整理・写真整理・遺物実測・報告書作成
秋葉遺跡	13	2017005	個人住宅建設	今井さやか	基礎整理・写真整理・遺物実測・報告書作成
程島加跡	7・9	2017006・2018002	個人住宅建設	細川優子・相澤裕子	基礎整理・写真整理・遺物実測
前山寺跡	6	2018001	民間開発	遠藤恭雄・牧野耕作・澤野慶子	基礎整理・写真整理・遺物実測・報告書作成
草遺跡	10	2018003	個人住宅建設	立木宏明	基礎整理・写真整理・遺物実測・報告書作成
川根谷内遺跡	6	2018004	道路整備	牧野耕作・（㈱吉田建設）	基礎整理・写真整理・遺物実測・報告書作成・報告書同行
砂堀御衙遺跡	3	2018005	道路整備	遠藤恭雄・澤野慶子・重藤康広（㈱シン技商コンサル）	基礎整理・写真整理・遺物実測・報告書作成
試掘調査・確認調査・工事立会・本発掘調査再整理事業	—	—	各種事業	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成・遺物保管

表5 平成30年度刊行発掘調査報告書一覧

書名	調査名	施行年月日	執筆者
赤鎌砂山遺跡 第5次調査	商業施設建設に伴う赤鎌砂山遺跡第5次発掘調査報告書	平成21年3月8日	立木宏明・澤野慶子ほか
川根谷内遺跡 第6次調査	主要地方道新潟中央環状線道路整備事業に伴う川根谷内遺跡第6次発掘調査報告書	平成21年3月28日	牧野耕作・（㈱吉田建設）
細池寺道上遺跡Ⅷ 第48次調査	県営は場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第48次発掘調査報告書	平成21年3月15日	立木宏明・奈良佳子ほか
平成30年度 安跡古津八幡山 佐保の丘展示室・企画展開催説明・講演会・記録集	平成21年3月30日	相田泰臣（編集）	

## 4 資料の収蔵・保管

各項の概要および基本的事項の詳細は、「年報」第1号に記載されている（渡邊2014b）。

### (1) 収蔵方針

文化財センターは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。

また、文化財センター開館前の平成22年以前の発掘調査によらない考古資料は、各区の博物館や資料館などで保管・管理が行われている。

### (2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫Ⅰ（木製品）、Ⅱ（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料収蔵庫はⅢ 4（6）に記載した。

**埋蔵文化財収蔵庫** 土器や石器など温湿度変化の影響を受けにくい資料を収蔵している。平成31年3月末時点ではコンテナ・段ボール箱11,643箱収蔵されている。

**特別収蔵庫Ⅰ・Ⅱ** 保存処理が完了した木製品や金属製品などを収蔵している。平成31年3月末時点では特別収蔵庫Ⅰにコンテナ945箱（木製品）、特別収蔵庫Ⅱにコンテナ196箱（金属製品104箱、骨・骨製品92箱）収蔵されている。特別収蔵庫Ⅰでは46箱、特別収蔵庫Ⅱでは5箱増加した。

**資料収蔵庫** 発掘調査の図面や写真フィルム・測量成果簿・CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

図書室 Ⅲ 6（6）に記載した。

### (3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査（試掘・確認調査、本発掘調査、そのほかに工事立会を含む）に対して年度ごとに調査番号（7桁）を付けている。

### (4) 再整理作業

文化財センター開館以前の調査資料について、平成30年度も継続して台帳整備などの作業を行っている。また、報告書刊行済みの資料は、適宜点検を行い、接着剤や充填材の経年劣化による破損が認められるものについて修復を進めた。

### (5) 収蔵資料のデジタル化およびデータベース化

保存と活用のために、遺物・遺構に関しては台帳を作成し、図面や写真などの記録類はデジタル化されている。

発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化

を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に編集データを入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。収蔵図書に関しては書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。（相澤裕子）

### (6) 民俗資料など

民俗資料収蔵庫には、旧黒崎町で使用され保管されてきた農具・漁労具・生活用具などの民具を中心収蔵している。平成23年の開館以来、民俗資料は収蔵・展示されているだけあったが、平成29年10月より本格的に再整理作業を開始した。

民具収蔵庫内を11のブロックに分け、ブロックごとに所在確認や旧黒崎町時代に作成された台帳との照合作業を進めている。台帳に掲載されている整理番号の重複や、実物の所在、貼付されている写真と实物の相違など、今後解決しなければならない多くの問題が明らかになってきている。収蔵されている民具は、平成30年度の収蔵数は台帳に記入が確認できる範囲で2,123件であり、未整理分も含めると約3,000件になる。平成31年3月末時点では、823件の所在確認と台帳の照合作業が終了した。

また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、文化財センターの民具は20件所蔵されている。敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。（久住直史）

### (7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、平成27年6月1日より「埋蔵文化財情報管理システム」を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベース機能を併せ持ったシステムである。このシステムは新潟市の統合型GISのサブシステムとして構築されている。

システムの機能としては、「遺跡管理」「発掘調査管理」「埋蔵文化財保護業務」「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」「図書検索」「地図表示」を備えている。

運用は開始されたが、「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」の記録類などをエクセルデータで一括取り込み可能にするための機能については、現在も構築作業中である。（今井さやか）

## 5 資料の公開・展示

### (1) 展示概要

「新潟市文化財センター条例」の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。詳しい方針および概要については、「年報」第1号に記載している〔今井2014a〕。

平成26年度に文化財センターでは初めて企画展を開催し、平成30年度で5年目を迎えた。内容については、市内8区の遺跡について時代や地域に偏りがないようテーマを選び全3回開催した(表6)。事業見直しに伴い前年度より1回減少している。館外展示は1か所で行った。なお、企画展と館外展示事業は、経費の50%について国の補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を受けた。

**展示室1** 導入展示室兼、展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器陶磁器や木製品を、壁一面に展示している。また、縁立遺跡出土の網代や御井戸遺跡の木柱など大形木製品や市内出土の木簡レプリカ104点、近世新潟町跡出土の陶磁器をケース内で展示している。なお、平成30年度は展示の変更是行わなかった。

**展示室2** 「新潟市文化財センターの活動」、「遺跡が語る新潟市の歴史」、「企画展示コーナー」の大きく3つの展示に分かれている。

「新潟市文化財センターの活動」の一角には平成28年度から「日本遺産関連展示」コーナーを設置して、秋葉遺跡と大沢谷内遺跡を通年展示し紹介している。

また、展示室中央の企画展示コーナーでは、平成30年度は3回の企画展を開催した。各展示詳細についてはⅢ-5(2)~(4)に記載する。

**エントランス** エントランスでは、大形の土器や速報性のある出土品を展示している。平成30年度は昨年度から引き続き角田沖から揚がった縄文土器を展示した。ま

た、大展示ケースは全て企画展示で使用したため、速報展示は行わなかった。

**館外展示** 平成30年度は文化財センターおよび弥生の丘展示館の企画展以外に新潟市江南区郷土資料館からの申し出による館外展示「亀田砂丘と遺跡」を行った。亀田砂丘の成り立ちを紹介するパネルをはじめ砂丘上の砂崩遺跡や筆山前遺跡の遺物展示を行った。また、消えた砂丘の風景として昭和30~40年代の江南区内の亀田砂丘の写真を展示し、非常に好評だった。

**まとめ** 平成30年度の企画展示は、回数を減らしたもの、時代や地域を幅広く扱ったため好感を得られたようである。特に企画展2では、考古資料にとどまらない展示となり、考古学に興味を持っていなかった層の来館が目立った。新規の客層を取り込むためには、このような工夫が今後も必要となるだろう。

一方で、「展示の文字が小さくて読みにくい」などの意見も多く寄せられた。次年度以降、読みやすいパネルの作成を心掛けたい。(今井さやか)



館外展示ポスター

表6 平成30年度文化財センター企画展一覧

企画展名	会期	企画担当	入館者数(人)	関連講演会・イベント			
				演日 イベント名	年月日	講師	参加者数(人)
砂丘と遺跡Ⅱ -亀田砂丘-	2018/4/10(火) ~7/16(月・祝)	今井さやか	3,300	沈む砂丘と遺跡	2018/5/13(日)	ト部卓志氏 (新潟大学准教授・復興科学研究所准教授)	98
博物館 -近世新潟町の職人-	2018/7/24(火) ~11/25(日)	渡邊頼和 ・北岡越後の博物生産	5,379	展示解説	2018/8/19(日)	渡邊頼和	7
				職人を体験しよう	2018/9/8(土)	今井さやか	15
				北岡越後の博物生産	2018/9/9(日)	五川伸夫氏 (元京都精華大学教授)	37
西蒲区の隠れた宝もの -縄文時代から幕末まで-	2018/12/4(火) ~2019/3/24(日)	前山耕明 ・農田優子	2,426	展示解説	2018/12/16(日)	前山耕明	22
				多く考古学からの贈り物	2019/1/20(日)	前山耕明	90

(2) 企画展1 「砂丘と遺跡Ⅱ—亀田砂丘—」  
会期 平成30年4月10日(火)～

7月16日(月・祝)

担当者 今井さやか

入館者数 3,390人

**展示概要** 新潟市には、海岸に並行した10列の砂丘とその砂丘に阻まれ排水不良となって形成された海岸平野が広がっている。砂丘上には古くは6,500年前の縄文時代から多くの遺跡がある。本展示は、砂丘上の遺跡についてその立地と遺跡の性格を紹介するものである。平成29年度には西区を中心とする信濃川左岸の砂丘上の遺跡を紹介した。平成30年度は信濃川と阿賀野川に挟まれた亀田砂丘の遺跡について紹介した。

**展示構成**

- 1) 新潟の砂丘-地質学からみた亀田砂丘-
- 2) 縄文時代の交流拠点-砂崩遺跡-
- 3) 北陸からの文化-駒込小丸山遺跡-
- 4) 亀田砂丘の古墳時代集落-龍山前遺跡-
- 5) 砂丘上に住んだ有力者-小丸山遺跡-
- 6) 自然堤防上の集落-駒首湯遺跡-
- 7) 五頭山麓の中世陶器-下郷山遺跡-
- 8) 江戸時代の一宇一石経-日本水道遺跡-
- 9) 消えゆく砂丘

**主要展示** 1)では、砂丘の形成過程のほか、沼沢火山の活動との関連性について紹介した。2)3)では亀田砂丘Ⅰ・Ⅱの遺跡紹介では、擦切り溝が残った石斧(砂崩遺跡)や製作途中の管玉資料(駒込小丸山遺跡・前郷遺跡)などを展示了。5)では古代の砂丘遺跡である小丸山遺跡の大形建物跡や丸木舟転用の井戸枠について紹介した。6)では駒首湯や鞠ノ子湯といった湯の自然堤防上の遺跡を紹介し、古代の河川交通についての展示を行った。9)では、昭和30~40年代に土取りに伴い消滅した砂丘の写真と、当時レスキューされた土器の展示を行った。

**関連講演会** 企画展の関連講演会を開催した。

演目 沈む砂丘と遺跡

講師 卜部厚志氏

(新潟大学災害・復興科学研究所准教授)

日時 平成30年5月13日(日)

午後1時30分～3時30分

参加者数 98人

新潟大学災害・復興科学研究所の卜部厚志氏から、越後平野の沈降と埋没砂丘についての解説をしていただいだ。受講者からは「地下深くから遺跡がみつかる理由がわかった」、「古代史を地質・地震・気候など色々な視点

から観ると深く理解できると感じた」などの感想が寄せられた。

**展示解説** 講演会終了後に企画展担当者による展示解説を開催した。

**まとめ** 前年度、企画展と連動したまちあるき企画が好評だったことから、平成30年度についても大江山のまちあるきガイドからご協力をいただき、展示と江南区大江山地域のまちあるきをセットにしたバスツアーを企画した。砂丘と昭和40年代に土取りにより失われた砂丘や池の痕跡をめぐる歴史まちあるきは、定員を大幅に上まわる企画となった。また、実際に歩くことにより砂丘の高低差を実感できたと好評であった。なお、このツアーは広聴相談課の「個人で参加する動く市政教室」の制度を利用している。

砂丘への市民の関心が引き続き高いことからシリーズ化した企画であったが、想定どおり考古学に関心のない層からも展示を見ていただけた。今後も同テーマでの展示をしていきたい。

今回の企画展チラシ製作の際に、切り絵の作品を使用した。考古学の展示の場合は土器や遺跡の写真が使用されることがほとんどであったため、「目立って良い」、「写真でなくて新鮮な印象」と好評であった。

(今井さやか)



### (3) 企画展2 「鋳物師—近世新潟町の職人—」

会期 平成30年7月24日(火)～11月25日(日)

担当 渡邊朋和

入館者数 5,379人

**展示概要** 平成28年に行った試掘調査で近世新潟町跡から江戸時代の鋳造関連遺物が出土した。試掘調査対象地は新潟鋳物師が問口31間もある屋敷を構えて(渡邊2018)、17世紀中頃から幕末まで藤田家→市島家→土屋家と3家の鋳物師に引継がれて梵鐘や鍋釜などの日用品鋳物などを作っていた場所であった。藤田家・市島家の屋敷図面が残っており、試掘調査地点はまさに金屋があった場所にもかかわらず、対象地(遺跡)は周知化も、工事立会もさざに煙滅してしまった。

新潟鋳物師のことは新潟県史や新潟市史にも掲載され、近世江戸時代の新潟町の産業として、また幕末には川村修就奉行の命で大砲が鋳造され、元治元(1864)年に紀興之によって書かれた『越後土産 初編』に「新潟鍋釜」として掲載される程有名だったにもかかわらず、その貴重な文化財(遺跡)がなくなってしまった。

本企画展は、この試掘調査によって発見された新潟町の鋳造関係遺物をきっかけとし、懲悔の意味も込めて計画したものである。濱町新潟は、鋳物の材料である石見の銑鉄や鋳型の材料である土・砂が入手しやすかったこと、信濃川や阿賀野川などによる河川交通によって、梵鐘や鍋釜なども上流に運ばれていたのである。

**展示構成** 鋳造・鋳物とは、溶解炉(こしきか)、鍋・釜・鑄造の歴史、北陸の鉄生産、日本海の物流、中世の鋳物、新潟鋳物師が作った梵鐘・半鐘・鰐口、新潟の鋳物師藤田家・土屋家の歴史、真羅家の金属類回収令と斎藤秀平・長岡鋳物師などのテーマで展示を行った。

藤田家の文書類や織などの一部の民俗資料、土屋家の文書類は現在新潟市に寄贈されているので、その中から代表的な鋳物に関係する文書、真羅家の許状などを借用して展示した。企画展に際し、挽き型など鋳物づくりに使用した資料の調査をしたが確認できなかった。

企画展前に、新潟鋳物師が作った梵鐘類の悉皆調査を行った。その際に基にしたのは斎藤秀平が金属回収前の梵鐘等の記録をまとめた『新潟県史蹟名勝天然記念物第12輯』である(斎藤1944)。この記録などから37点あることがわかった新潟鋳物師の作品の内6点が現存することを確認し、半鐘2点(盛岡寺・日光寺)、鰐口1点(平等寺)を借用して展示するとともに、梵鐘(日光寺・西福寺)などは写真パネルや拓本を展示了。現在、県内に江戸時代の梵鐘は殆ど残っていない。第2次世界大戦時に供出されたことによるが、この際に尽力したのが当時県内

の文化財保護を担っていた斎藤秀平である。斎藤秀平文書も現在新潟市に所蔵されているが、文書をみると現在残っている梵鐘類も斎藤氏の尽力がなければ残らなかつたと思われる。梵鐘などの鋳物の保存に尽力した斎藤氏の業績も併せて紹介した。

**主要展示** 県内の遺跡出土の考古資料、中世の伝世品、江戸時代の伝世品を展示したが、中世と江戸時代は技術的には弊がらないことを説明した。

また、藤田作二氏・桑原紀昭氏など先学の研究を基に、新潟鋳物師の藤田家・相葉家・土屋家・市島家の略年表を作成した。藤田作二文書中の家相図、市島家文書中の屋敷図、土屋家伝来の釜、川村修就関係資料の「新潟表新規請立大筒銘書案同御台銘書案(及び銘拓本)」なども所蔵者のご協力をいただいて展示了。

**関連講演会** 企画展の関連講演会を開催した。

演目 北国越後の鋳物生産－鍋釜・鉄鉢・梵鐘－

講師 五十川伸矢氏(元京都橘大学教授)

日時 2018年9月9日(日)

午後1時30分～3時30分

参加者数 37人

講師は梵鐘研究の第1人者で、梵鐘研究で著名な坪井良平氏の後を繼ぐ考古学研究者である。講演は鉄鋳物鍋釜の生産と流通、梵鐘の様式と技術という2本立てで話をされたが、「大工越後蒲原郡大崎住妙実」銘のある会津法用寺の湯口のことにつれ、湯口が大きく残っていることから梵鐘製作は初めてだったとする話は大変興味深く拝聴した。

**関連イベント** 鋳造を体験しよう

日時 平成30年9月8日(土)

参加者数 15人

**展示解説** 展示担当による展示解説を開催した。

日時 平成30年8月19日(日)

午後1時30分～3時30分、

平成30年9月9日(日)講演会終了後

参加者数 7人(8/19)、37人(9/9)

**まとめ** 企画展を契機に、新潟鋳物師の子孫の方々に来ていただき、ご自宅に所蔵されている文書や写真などの記録類を確認することができた。

新潟鋳物師が作った梵鐘や鰐口は第2次世界大戦時に殆どが供出されていたが、6点は現存していることを確認した。今後は寄進者名のみで鋳物師名がない擬宝珠などのような鋳物を、建造物調査などの際に悉皆調査をする必要があろう。また、今回の企画展の調査で、中世末期の文禄年間の銘のある鰐口を発見できたことは特筆され、V2で資料報告をしている。(渡邊朋和)

(4) 企画展3 「西蒲区の隠れた宝もの  
—縄文時代から幕末まで—」

会期 平成30年12月4日(火)～

平成31年3月24日(日)

担当 前山精明・龍田優子

入館者数 2,426人

**展示概要** 新潟市南西部に位置する西蒲区には日本海の「ランドマーク」弥彦・角田の山並が連なり、海辺・砂丘・平野・潟といった多様な環境が展開する。こうした地理条件を背景に、区内には新潟市全体の約4割にある292か所の遺跡が分布している。また、西蒲区では80年あまりに及ぶ遺跡調査を通じて考古資料が蓄積されている。これまで目にふれる機会が少なかった資料に光を当てるとともに新発見の資料を取り上げ、この地域に備わる魅力を約1,800点の展示品を通じ紹介した。

展示構成

- |                   |           |
|-------------------|-----------|
| 1) ヒシの実採りと西蒲原     | 2) 豊原遺跡   |
| 3) 南赤坂遺跡          | 4) 和納館跡   |
| 5) 布目遺跡           | 6) 新谷遺跡   |
| 7) 干納遺跡           | 8) 前表遺跡   |
| 9) 上堰潟湖底遺跡        | 10) 青龍寺遺跡 |
| 11) 弥生時代の御井戸遺跡    |           |
| 12) 西蒲区東部の古墳時代遺跡群 |           |
| 13) 古代の仲歩切遺跡      | 14) 横切遺跡  |
| 15) 峰岡上町遺跡        |           |

**主要展示** 7)では縄文時代のタイムカプセルと呼ばれる福井県の島浜貝塚に匹敵する資料が出土している干納遺跡からの出土品(シカ・鳥・魚・貝、狩りのパートナーである縄文犬の骨など)を初めて展示了した。12)では近年の調査で越後平野の地下深くから次々と発見される古墳時代の遺跡として地下28mから出土した土器を展示し、謎に包まれた越後平野を紹介した。15)では米百俵で有名な三根山墓に関する考古学的な資料からうかがえる上級武士の質素豪約生活を示した。

また、縄文時代の遺跡から見つかるヒシの実から、かつて市内の潟で盛んに行われていたヒシの実採りが6,000年ほど前から続くこと、遺跡は今の時代とつながっていることを紹介した。

関連講座 企画展の関連講座を開催した。

演目 歩く考古学からの贈り物

講師 前山精明

日時 平成31年1月20日(日)

午後1時30分～3時30分

参加者数 90人

西蒲区における遺跡踏査で得られた多くの重要な成果

について、実体験をもとにセンター職員が解説した。参加者は皆、熱心に聞き入っていた。

展示解説 展示担当による展示解説を2回開催した。

日時 平成30年12月16日(日)午前10時～12時・  
午後1時30分～3時30分。

平成31年1月20日(日)講座終了後

参加者数 22人(12/16)、80人(1/20)

入館者の声 「縄文人もヒシを食べていただけに驚いた」、「初めて見る資料の多さに圧倒された」、「発見される遺跡の深さに驚いた」など大変好評であった。

まとめ 古くから遺跡調査などが行われ地域研究の盛んだった西蒲区について、最近の調査成果も含め縄文時代から幕末まで通史的に紹介できた。展示した膨大な資料のほとんどが初公開であり、遺跡・遺物を有効活用することができた。(龍田優子)



2018年12月4日(火)～2019年3月24日(日)

チラシ表



展示解説風景

## 6 教育普及活動

### (1) 公開講座

文化財は地域の成り立ちなどを知る上で重要な役割を担っている。文化財センターでは市民が地域の歴史や文化に対する理解を深められるように、収蔵している考古資料や民俗資料を積極的に公開・活用し、様々な講座・体験イベントを実施している。以下、平成30年度に実施した公開講座の概要について述べる（表7）。

**講　　座** 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では企画展の内容に関連した講座を行った。詳細は各企画展の頁を参照いただきたい。民俗学講座では、新潟県民俗学会員や地域史研究者を講師に招き2回行った。

また、観察再現講座と題して遺物を観察し、当時の技術と工夫を体感する講座を開催した。平成30年度も引き続き縄文土器を観察して再現する講座を2回行った。

**体験イベント** 子ども向け歴史体験「の字状石製品づくり」「文化財センター仕事体験」「藍の生葉染め体験」を夏休みに開催した。「の字状石製品づくり」は今年度新たに企画した体験イベントである。南赤坂遺跡などから出土している縄文時代の石製品をモデルに軟らかい滑石を利用して製作した。途中、比較のためにネフライト（軟石）を穿孔する体験などもを行い、考古学的な見知も得られる体験となった。

旧武田家住宅を会場に地域の方々との交流を目的としたイベントとして、「民具と民話をしてみる会」と「旧武田家住宅で民具とお茶をしてみる会」を開催した。

**連　報　会** 平成30年度の遺跡発掘調査連報会では、講演の部に、佐賀県立九州陶磁文化館名譽顧問の大橋康二氏を招き、「出土陶磁器から見る近世新潟町の繁栄」と題して講演いただいた。平成30年度から午前開催とした報告の部では、本発掘調査を行った5遺跡のすべての報告が行われた。

**出前講座・職員派遣** 文化財センターでは、依頼に応じて、研究団体、地方自治体、市民団体などへ職員派遣を行っている。平成30年度は、市民団体からの講座や学習会の依頼が目立った。特に砂丘をテーマにした内容に人気があり、昨年度から行った「砂丘と遺跡」展示が影響したと考えられる。小学校の利用は、3学年の「昔のくらし」を中心に出前授業が15件あった。また、初めて中学校からの講演依頼があり2件行った（表8）。

### (2) 施設利用

文化財センターでは、展示見学のほかに研修室の一部を「体験コーナー」として新潟や埋蔵文化財に関連した

体験学習ができる場所を設けている。ここでは「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類を行っている。いずれも材料費相当を負担していただいている。また、無料の体験として新潟市などから出土した土器をもとに制作した「土器パズル」が5点ある。

昨年度から月別体験メニューとして、「勾玉づくり・和同開拓づくり・銅鏡づくり・火起こし体験・土器づくり体験・製織体験」を行っている。平成30年度には、初めての試みとして夏休み前に西区内の小学校の全児童に体験メニューのチラシ配布を行った。その結果、火起こし体験が346名（前年度447名）、土器づくりが456名（前年度100名）となり、総体験参加者数が個人2,491名（前年度1,890名）、団体3,091名（前年度3,024名）と個人体験が大幅に伸びた（表9）。

また、旧武田家住宅及び体験広場（芝生）の貸出（有料）を行っている。利用状況は表10のとおりである。古民家の雰囲気を楽しむサークルでの活動のほか、企業の商品イメージ撮影など様々な目的で利用されている。今年度は水と土の芸術祭2018市民プロジェクト「木場城復活プロジェクト」で約2週間の利用があった。

### (3) 入館者数

当センターの入館者数は表11のとおり11,970人である。平成29年度の12,767人に比べて797人減少した。

入館者のアンケートからは、「民具収蔵庫を自由に見せて欲しい（※現在は職員同伴を原則）」、「展示が地味。食事のサンプル例などを置いてはどうか」、「場所がわかりにくい」などの提案やご要望をいただいた。アクセス経路への要望は、依然として多くの方から寄せられている。良い点としては「展示解説が面白かった」、「毎月体験メニューが変わってよい」との感想をいただいた。

平成31年3月末までの開館からの累計入館者数は92,749人である。

### (4) 団体見学・施設見学

小学校や子ども会などの子どもが主体の団体では、見学だけではなく体験活動を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4・5月には6学年の歴史で、1・2月は3学年の昔のくらしの学習で利用する傾向にある。平成30年度では、小学校・中学校の利用は35校で平成29年度と変わらなかった。社会科の授業以外では、総合学習で利用する学校もある。総合学習では地域の水害史や、地名の由来といった地域史的内容での授業が多い。

（今井さやか）

表7 平成30年度公開講座一覧

## 観察再現座

年月日	内 容	講 師	入数
2018/6/2 (土)	鳥居造跡の構上土器をつくる【大人向け】 3選途絆(6/2, 6/9, 6/16)	まいぶんポートボランティア	8
2018/11/3 (土)	三条市古野原遺跡の火塙型土器をつくる【大人向け】 5選途絆(11/3, 11/10, 11/17, 11/24, 12/1)	まいぶんポートボランティア	10

## 市民講座・イベント

年月日	内 容	講 師	入数
2018/7/7 (土)	黒崎の民具と民話を楽しむ会	新潟民話の語り手文部省立場	57
2018/9/22 (土)	新潟市の古墳伝説	高橋郁夫氏(新潟県留學理事)	45
2018/9/30 (日)	黒崎の民具とお話を楽しむ会	江戸千家新尚不白会	49
2018/10/13 (土)	開瀬巣山と人々の暮らし	河野忠氏氏(新文化財保護専門委員)	47
2018/12/15 (土)	銀山城で古風振りを作ろう	坂井輪じゆ紀同好会	22

## 夏休み子ども歴史体験

年月日	内 容	講 師	入数
2018/7/29 (日)	「の」字模石彌足を作ろう	瀧田優子・前山精明	21
2018/8/5 (日)	キモも考古学者	今井さやか・瀧田優子	10
2018/8/11 (土)	龍の生出来ぬ	今井さやか・まいぶんポートボランティア	42

## 新潟古道跡実習講座連報会

年月日	内 容	講 師	入数
	講演 古土陶器からみる近世新潟町の繁栄	大根鹿二氏(新潟県立九州陶磁文化館監修顧問)	
	報告 昭和跡、一鬼津跡に残された绳文時代の縄文集落	乙木宏明	
2019/2/24 (日)	報告 前山遺跡・一鬼津跡の佐兵良・平安時代の遺跡	牧野耕作	164
	報告 沢前新潟遺跡・一水田下に残した繩文遺跡	藤原忠雄	
	講演 古代八幡山遺跡・弥生時代の櫛ヶ谷健跡群と大型堅穴住居	柏原泰臣	
	報告 世鳥加跡・新津丘捷見塚に残る平安時代・中世の墓跡	瀧田優子	

## ボランティアステッピング講習会

年月日	内 容	講 師	入数
2018/7/5 (木)	ステップアップ勉強会【説文書の文様を極める】	宮尾 球氏(私立歴史博物館専門研究員)	13
2018/8/30 (木)	ステップアップ勉強会【火塙土器の鏡面延の製作手順を学ぶ】	宮尾 球氏(私立歴史博物館専門研究員)	7

表8 平成30年度職員派遣・出前講座一覧

年月日	内 容	会 場	依頼者	派遣職員名
2018/4/18 (木)	令和社会科授業「新潟市の遺跡について」	亀田小学校	亀田小学校	今井さやか・瀧田優子
2018/4/22 (日)	郷土研究会・峰岡地区・福島地区の遺跡について	春穂町郷土改善センター	峰岡地区コミュニティ協議会	前山精明
2018/5/14 (月)	亀田地区について	亀田西中学校	亀田西中学校	今井さやか
2018/5/24 (木)	動く市政教室「遺跡と移住」	前山遺跡ほか	前山遺跡ほか	佐野和哉
2018/5/29 (火)	動く市政教室「遺跡と移住」	前山遺跡ほか	前山遺跡ほか	佐野和哉
2018/6/26 (金)	学年別事業「土マグネット作り」	白山小学校	白山小学校1学年PTA	瀧田優子
2018/7/4 (土)	わくわくランチ(土づくり挑戦!)	開屋敷地区公民館	開屋敷地区公民館	今井さやか
2018/7/7 (火)	毎年づくり体験	小野川公民館	小野川公民館	今井さやか
2018/8/9 (木)	土器づくり体験	江南区土質資料館	江南区土質資料館	今井さやか・瀧田優子
2018/8/22 (木)	火起こし・土器づくり体験	江南区郷土資料館	江南区郷土資料館	久住直史
2018/9/19 (木)	亀田丘陵と遺跡	ふれあいの駅よりなせ家	亀田地区コミュニティ協議会	今井さやか
2018/9/20 (木)	遺跡について(火末づくり)	亀田地区公民館	新潟市民生委員会児童委員会越後地區議会	今井さやか
2018/9/21 (金)	少年社会科授業「昔のくらし」	西郷小学校	西郷小学校	久住直史
2018/9/28 (木)	土器づくり体験	中之島小学校	中之島小学校(もの作りクラブ)	瀧田優子
2018/10/1 (月)	まいぶんポートボランティア	老人デイサービスセンター黒塙	黒塙地区公民館	今井さやか
2018/10/27 (土)	調査づくり(西宮展観会)	みんなとあ	みんなとあ	今井さやか・瀧田優子
2018/10/28 (日)	毎年づくり(西安展観会)	みんなとあ	みんなとあ	瀧田優子
2018/11/1 (木)	令和社会科授業「昔から今へ続くまちづくり」	赤堀小学校	赤堀小学校	今井さやか
2018/11/16 (火)	講演会「酒と醸造に育まれた本塙地域の遺跡」	赤堀小学校	赤堀小学校	今井さやか
2018/11/18 (木)	講演会「北の古代のマン」	魚梁瀬公民館	魚梁瀬公民館	瀧田優子
2018/12/13 (火)	新潟市の遺跡について	西新潟郡シパンカレッジ	西新潟郡シパンカレッジ	今井さやか
2019/1/12 (土)	令和社会科授業「酒のくらし」	西新潟郡公民館	西新潟郡公民館	久住直史
2019/1/22 (火)	令和社会科授業「酒のくらし」	西新潟郡公民館	西新潟郡公民館	久住直史
2019/1/23 (水)	新井は認る「地図のない酒(津かんでいる龜田新井とは)」	亀田市民会館	亀田市民会館	今井さやか
2019/1/25 (木)	令和社会科授業「酒のくらし」	青山小学校	青山小学校	今井さやか
2019/1/28 (火)	令和社会科授業「酒のくらし」	大形小学校	大形小学校	今井さやか・久住直史
2019/1/29 (水)	令和社会科授業「酒のくらし」	葛塙東小学校	葛塙東小学校	今井さやか
2019/1/31 (木)	令和社会科授業「酒のくらし」	立松小学校	立松小学校	久住直史
2019/2/1 (金)	令和社会科授業「酒のくらし・牡丹山酒跡神社古墳について」	牡丹山小学校	牡丹山小学校	今井さやか・久住直史
2019/2/5 (火)	令和社会科授業「酒のくらし」	大槻小学校	大槻小学校	久住直史
2019/2/6 (水)	令和社会科授業「酒のくらし」	早通南小学校	早通南小学校	今井さやか
2019/2/10 (火)	令和社会科授業「酒のくらし」	小針小学校	小針小学校	久住直史
2019/2/20 (火)	令和社会科授業「酒のくらし」	曾根小学校	曾根小学校	今井さやか
2019/2/21 (水)	令和社会科授業「酒のくらし」	梅ノ丘小学校	梅ノ丘小学校	久住直史
2019/2/27 (火)	令和社会科授業「酒のくらし」	真砂小学校	真砂小学校	久住直史
2019/3/3 (日)	講演会「洋洋と黒塙跡と黒塙古墳...近年の調査成果を踏まえて...」	みんなとあ	みんなとあ	相田由印

表9 平成30年度文化財センター体験利用人数

個人	メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
高尾智子		76	65	104	131	278	52	51	23	81	29	40	87	1,037
湯浅雅樹(和田園町)		14	24	11	27	58	10	11	2	9	3	20	16	105
弓削雅也(飯)		6	8	9	13	45	5	3	8	3	2	6	11	119
火炙こし(5・8月)		—	89	—	—	255	—	—	—	—	—	—	—	246
弓削雅也(4・9・3月)		62	—	—	—	—	83	—	—	—	—	—	132	297
鎌倉さくら(6・12・1月)		—	—	19	—	—	—	—	—	19	10	—	—	48
土曜・土偶(火炙)(7・10・11・12月)		—	—	—	352	—	—	30	22	1	—	52	—	457
合 計		176	186	142	523	828	150	95	55	113	44	118	246	2,489
団体	メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
高尾智子		291	159	186	24	0	6	54	0	0	0	0	0	564
湯浅雅樹(和田園町)		0	0	36	0	20	0	0	0	0	0	0	0	56
土曜・土偶・土偶(火炙)		0	287	0	0	0	163	107	0	0	0	0	0	537
弓削雅也		59	35	44	0	20	209	0	0	0	0	0	0	367
火炙こし		298	441	230	0	20	168	275	0	0	0	0	0	1,050
合 計		748	892	496	74	60	558	436	0	0	0	0	0	2,284

●出回流通分は含まれない

表10 平成30年度旧武田家住宅利用状況

年 月 日	利用者名	日 的
2016/2/29 (日)	佐々木久義さん	曲集「イメージ写真集」
2016/3/18 (土)	木崎の郷士会・安倉する会	木崎上の芸術祭「民衆プロジェクト」
- 2016/9/2 (日)	（文化ホーリー）社会貢献推進団体	「社会貢献プロモーション」
2016/9/21 (土)	新潟県音楽協会	かまとび吹奏楽・試食会
2016/9/23 (日)	うたごとの歌い唄行合員会	うたごとの歌い
2016/9/29 (土)	南魚沼小学校	ふれあいステラトマホーツ 活動

表12 平成30年度文化財センター団体利用・行政視察一覧

利用料金	年 月 日	団体名	実用内容	入金額
2018/4/10 (木)	牛場原宿商店(西原)	近場		3
2018/4/19 (土)	牛場原宿商店(西原)	近場		3
2018/5/15 (火)	吉野家(牛久)の店(牛久市)	見学		3
2018/5/22 (火)	老人クラブ海遊館みとば会(牛久市)	見学	25	25
2018/5/23 (水)	牛場原宿商店(西原)	近場		2
2018/5/24 (木)	牛場原宿商店(西原)	近場		3
2018/5/25 (金)	牛場原宿商店(西原)	近場		3
2018/5/26 (土)	牛場原宿商店(西原)	近場		3
2018/6/2 (木)	西日本旅客鉄道(東京内)	見学・火曜会・夕食・和室開設	10	10
2018/6/2 (木)	西日本旅客鉄道(東京内)	見学	3	3
2018/7/6 (水)	西日本旅客鉄道(東京内)	見学	3	3
2018/7/12 (火)	西日本旅客鉄道(東京内)	見学	3	3
2018/8/6 (水)	東京駅構内飲食店(東京内)	見学・火曜会・夕食・和室開設	10	10
2018/8/6 (水)	東京駅構内飲食店(東京内)	見学	3	3
2018/9/1 (土)	西日本旅客鉄道(東京内)	見学	3	3
2018/9/2 (日)	JR東日本横浜支社(川崎市)	見学・火曜会・夕食	2	2
2018/9/21 (火)	西商事販賣會(東京内)	見学	3	3
2018/9/23 (木)	西日本旅客鉄道(東京内)	見学	3	3
2018/9/29 (水)	筑波大学校舎めぐりナビゲーション(茨城)	見学・弓削	3	3
2018/10/18 (木)	マザーリビンソン東レとみん(小牧市)	見学	3	3
2018/10/24 (水)	道立自然教育センター(西原)	見学	3	3
2018/10/31 (火)	マヨネーズアリックス(北埼玉)	見学	3	3
2018/11/1 (水)	新都建設(東京内)	見学	3	3
2018/11/7 (火)	北山内山(牛久市)	見学	3	3
2018/11/15 (水)	小野川・勝田川・利根川流域地質観察会(牛久市)	見学	3	3
2019/3/12 (火)	虎の門ヒルズ新宿新都カタモミガタの森	見学	3	3

表11 平成30年度文化財センター入館者数

月	期間日数	人出客数(人)					
		朝人	夕人	合計	分率	1日平均	累計(期間から)
4	26	609	635	1,244	45.2	48.2	84,823
5	26	606	578	1,184	43.5	43.0	83,007
6	26	391	279	870	32.5	33.0	83,677
7	26	1,202	112	1,314	56.5	51.9	91,191
8	27	1,435	54	1,489	55.1	56.0	96,680
9	26	962	273	1,235	47.5	47.9	97,915
10	26	772	469	1,241	47.7	46.1	99,156
11	24	697	298	975	40.6	99.1	101,931
12	23	560	116	676	29.4	90.8	90,807
1	24	476	117	593	24.7	91.4	91,400
2	24	720	0	720	36.0	92,120	92,120
3	26	592	37	629	24.2	92,749	
合 计	304	9,232	2,758	11,970	39.4		

—團體利用・行政視察—質

利用料(学年)	出発地	到着地	所要時間
2018/4/19(金)	東山小学校(西原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	11時
2018/4/20(土)	東山小学校(西原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	11時
2018/4/21(日)	東山小学校(西原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	11時
2018/4/25(木)	駒ヶ林中学校(西原)	星守・大久保・しらべ	6時
2018/4/26(金)	東山小学校(西原)	星守・大久保・しらべ	9時
2018/4/27(土)	東山小学校(西原)	星守・大久保・しらべ	11時
2018/4/28(日)	西内小学校(西原)	星守・大久保・しらべ	9時
2018/5/2(水)	内野小学校(西原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	12時
2018/5/3(木)	甲子竹中学校(西原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	11時
2018/5/10(木)	東山小学校(西原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	11時
2018/5/11(金)	東山小学校(西原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	11時
2018/5/12(土)	東山小学校(西原)	星守・大久保・しらべ	6時
2018/5/13(日)	東山小学校(西原)	星守・大久保・しらべ	6時
2018/6/5(水)	川南小学校(東原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	8時
2018/6/6(木)	星守小学校(西原)	星守・美智理・(地図の実習)	10時
2018/6/27(木)	小学校(西原)	星守・大久保・しらべ	10時
2018/7/1(木)	星守小学校(西原)	星守・大久保・しらべ	10時
2018/9/4(火)	山田山の小学校(東原)	星守・大久保・しらべ	10時
2018/10/11(木)	万葉台第一小学校(中原)	星守・大久保・しらべ	6時
2018/10/12(金)	上ノ木小学校(西原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	11時
2018/10/16(火)	万葉台第一小学校(中原)	星守・大久保・しらべ	6時
2018/10/18(木)	上ノ木小学校(西原)	星守・大久保・しらべ・土居・猿瀬らふ	10時
2018/10/26(金)	津田第一小学校(豊原)	星守・長良哲	7時
2018/11/13(火)	日吉小学校(中原)	星守・長良哲	7時
2018/11/14(水)	木町小学校(中原)	星守・長良哲	7時
2018/11/16(金)	日吉の子学校(豊原)	星守・長良哲	7時
2018/11/20(火)	星守小学校(西原)	星守・長良哲	7時
2018/11/29(木)	木町小学校(中原)	星守・長良哲	7時
2018/12/10(金)	日吉小学校(西原)	星守・長良哲	7時
2018/12/17(金)	鶴見小学校(豊原)	星守・長良哲	7時
2018/12/14(火)	鶴見小学校(豊原)	星守・長良哲	7時
2019/1/9(木)	駒ヶ林中学校(西原)	星守・長良哲	7時
2019/1/17(木)	日吉小学校(西原)	星守・長良哲	11時
2019/1/23(木)	鶴見小学校(西原)	星守・長良哲	7時
2019/3/13(木)	星守小学校(西原)	星守・長良哲	7時

財政部

年月日	出库单	操作内容	人名
2018/11/1 (木)	西安博物馆凭证	八、下一下凭证单	王
	合 计		王



学校利用「土偶づくり」



ボランティア講習会「縄文土器の文様を極める」



夏休み子ども体験「の字状石製品を作ろう」



民俗講座「金沢鉱山と人々の暮らし」

## (5) 資料利用

### A 手続きに関する条例・規則

**特別利用許可** 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影などを行う場合：『新潟市文化財センター条例』および『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を新潟市教育委員会宛に提出する。

**貸出許可** 考古資料の寄託・借用・貸出などをする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託・借用及び貸出に関する規則』により許可申請書などを新潟市教育委員会宛に提出する。

**寄附申込** 考古資料の寄附申込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を新潟市長宛に提出する。

**民俗資料** 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市物品管理規則』により許可申請書を新潟市長宛に提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続き、写真データの提供および掲載許可申請については『新潟市文化財センター考古資料の寄託・借用及び貸出に関する規則』で対応している。

### B 利用件数

以下、平成30年度の各利用件数について記す（表13）。

**特別利用許可** 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は8件（前年度比4件減）である。

**貸出許可** 考古資料と民俗資料の貸出許可は、博物館などの常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展などの短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館などでは地域の歴史に親しみを感じてもらう観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間などは『新潟市文化財センター考古資料の寄託・借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出5件（前年度比1件減）、企画展などに伴う短期貸出9件（前年度比6件増）である。

**掲載許可** 文化財センターが保管する写真や報告書などの掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物などで使用する場合がある。利用件数は13件（前年度比1件増）であった。

**寄附申込** 採集資料や歴史関係書籍などを個人から9件受理した（前年度比8件増）。（相澤裕子）

表13 平成30年度資料対応件数一覧

考古資料

登録料金可

件数	申請者	資料	数量	申請日	備考
1	本郷組・西宮組合商同業者連 作事所長 吉津 朝	羽太義耕 地試験報告書資料 近畿新潟地質調査報告書等	4冊	2018.4/11(木)	古市通7番町地区西周參事会施設建築物の設計にあたり、 デザインの参考ため
2	個人	吉津六郎山道跡 碑石	27点	2018.6/7(木)	論文成文に係るマーク集
3	個人	津ノ瀬道跡 工事	11点	2018.7/23(月)	包装代理店の研究
4	個人	東井田史跡 赤瓦 東井田史跡資料	42冊	2018.8/28(火)・29(水)	調査参考学舎編「新潟県の考古学史」執筆のため
5	個人	近藤山内跡 舟形 丹波燒跡 等	6点	2018.9/22(土)	調査内容に記した古墳遺跡の調査
6	個人	吉津六郎山道跡 磐頭 等	2点	2018.9/25(火)	個人研究、論文作成に係る資料調査
7	個人	馬場加茂遺跡 上部 南詔谷	25冊	2018.10/15(月)	白山町京生崎の発掘調査報告書作成にともなう 中止一部・実施困難半半資料提供
8	個人	夏井田史跡資料 松林坂城城址資料	9冊	2018.11/6(火)	使用する遺物を指摘するための調査

登録料金可

件数	申請者	資料	数量	提出期間	備考
1	佐野社田山人会 理事長 井澤敏一	調査書類 上巻	5点	2018.4/1(日)～ 2019.3/31(日)	実蔵展示
2	新潟市江南区坂上岩野組 代表 堀田 伸	砂留造跡 等 上巻 他	32点	2018.4/1(日)～ 2019.3/31(日)	実蔵展示
3	新潟市北区坂上博物館 館長 堀川洋一	鳥居跡 石碑 鳥居跡 太部レプリカ	21点	2018.4/1(日)～ 2019.3/31(日)	実蔵展示
4	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	足立山遺跡 地盤 地盤調査 上巻 石碑 的場跡 計測 レプリカ	96点	2018.4/1(日)～ 2019.3/31(日)	実蔵展示
5	新潟市佐渡島 朝 担当 西澤洋介(羽越地域)	奈良人遺跡 上巻 他	8点	2018.4/1(日)～ 2019.3/31(日)	実蔵展示
6	新潟市佐渡七宝物館 館長 佐藤健一	佐渡山田遺跡 砂留 的場跡	4点	2018.4/1(日)～ 2019.6/5(日)	実蔵展示
7	新潟市立博物館 館長 朝日春香	弓もチア・もちアカの壁 他	4点	2018.4/1(金)～ 2018.9/29(日)	テーマ展「家庭になった動物たち」における展示および講話パネル、 パンフレット等の印刷物への複数
8	新潟市立歴史文化センター 和守管理課 会員登録人新潟県歴史文化財調査事業者 事務担当 沢田幸博	奈良人遺跡 上巻 的場跡 等 他	9点	2018.9/13(火)～ 2019.1/21(木)	企画展「丸井仲の考古学」展示
9	十日町市立博物館 館長 佐藤誠司	羽場遺跡 地上製品 集	10点	2018.9/3(月)～ 2018.11/30(木)	特別展「轟轟のムラ 高島上遺跡」展示
10	村上市歴史委員会 执行幹事 長谷川文	西風遺跡 足利村上製品	2点	2018.9/26(水)～ 2018.11/29(木)	企画展「縄文の無い『縄文人の別』を「ゆめたモノノ」展示
11	新潟市立博物館 館長 伊藤洋一	南条郡遺跡 「の」字状土器	1点	2018.10/1(木)～ 2018.11/24(金)	「天下の世界・西条・新潟初完成賞認定」展
12	新潟市立博物館 館長 伊藤洋一	前谷井遺跡 磁文土器	1点	2018.10/26(金)～ 2018.11/24(金)	企画展「むかしのくら風景 イいもの」展示
13	新潟市羽林地区公民館 館長 乾一郎	夏井田 鮎	96点	2018.11/14(火)～ 2018.11/15(水)	公民館主アンコール・ふるさと感謝「羽林の松原廻遊」において展示
14	新潟市大和町吉田消防団 監事(新潟市長) 中山八一	秋葉遺跡 王冠型土器	1点	2019.2/14(火)～ 2019.2/28(月)	新潟市大和町吉田消防団企画展「津井川大学古墳の 文化史発見イント」(大和×五輪) 展示

登録料金可

件数	申請者	資料	数量	許可日	備考
1	土木省 佐藤弓世郎 施工監理	中央区西御所6番町(新潟市古志野) 地盤 計測データ	2点	2018.5/20(木)	令和「新潟の歴史と考古学」報道
2	株式会社 平丸代沢取締役社長 平丸代沢	西田山遺跡がり 研究文書 集 写真データ	2点	2018.5/24(月)	「新潟 研究文書」報道
3	新潟市立博物館 館長 朝日春香	大船山遺跡 写真データ	1点	2018.6/5(火)	「新潟デジタルアーカイブ～まちさき&新潟さき～」収載
4	個人	若山山道跡 上巻 開 等データ	5点	2018.6/6(水)	まちあるきガイド資料として使用
5	株式会社 ヤマニシヨウガーラン農作物 甲斐農園(株) 田畠地圖	西田山遺跡 地図 文書データ	1点	2018.9/5(木)	中学校向け新潟市立教育教材に附属資料の一冊として収載
6	株式会社 アム・ブリッケン・システム 伊勢祐之	若山山道跡 上巻 写真データ	1点	2018.9/29(木)	「新潟文系データ2019」(私版) 収載
7	新潟市立博物館 伊勢祐之	後谷井遺跡 写真データ	2点	2018.10/29(木)	講座「歴史研究」刊行予定ともなるネット公開
8	新潟市立博物館 久保尚一	舟庭遺跡 同窓館跡 写真データ	1点	2018.10/31(木)	新潟市立舟庭館跡を世界貢献の参考写真として掲載
9	個人	御宿遺跡 地盤 計測データ	1点	2018.12/12(木)	「新潟博物館から農業社会論」(近藤新潟県の鏡)について(私版) で 穴吹を参考資料として掲載
10	個人	近藤新潟市農業 遊牧 写真データ	11点	2018/12/26(木)	穴吹を参考資料として掲載
11	長岡市立博物館 伊勢祐之	古市六郎山道跡 等 写真データ	3点	2019.2/9(火)	長岡市史(平成改訂) 第1章「歴史・古代・中世」欄に掲載
12	新潟市立博物館 伊勢祐之	津ノ瀬道跡 木製品 実測圖	2点	2019.2/27(木)	学術書「食べもの収集者考」(脚注) に掲載
13	新潟市立博物館 伊勢祐之	古市六郎山道跡 等 写真データ	2点	2019.3/1(火)	企画展「新潟の古代化」展示(バトルオブザウッド)に掲載

登録料金不可

件数	申請者	資料	数量	申請日	備考
1	個人	新潟市復元土器類 集 附:新潟県地圖	922点	2018.6/19(火)	
2	個人	地図	2点	2018.6/20(木)	
3	個人	C1地図	45点	2018.6/20(木)	
4	個人	丸井	1点	2018.6/20(木)	
5	個人	新潟市復元土器類 集	47点	2018.10/29(火)	
6	個人	新潟県地圖	129点	2018.10/28(火)	
7	個人	被文化部	1点	2019.1/12(火)	
8	個人	新潟市復元土器類 集	94点	2019.2/22(火)	
9	個人	新潟市復元土器類 集	699点	2018.11/27(火)	
10	個人	鶴ヶ崎古墳群 丹波燒保存遺物 他	104点	2019.3/18(火)	
11	個人	新潟市復元土器類 集	226点	2019.3/28(火)	

## (6) 図書の収蔵と閲覧

### A 収 藏

図書室の面積は89.33m<sup>2</sup>で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものから順次配架している。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じることになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室のほか、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。また、県内外の研究者などから寄贈される本が増大したため、遺物収蔵庫の一部にも配架することにした。

書誌情報の入力作業は、司書（臨時職員）2名を雇用して継続して行っている。書誌情報の入力は、平成21年度に構築し、平成27年度に再構築が完了・運用した埋蔵文化財情報管理システム（図4（7）参照）を利用している。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼っている。なお、平成31年3月末までの入力数は52,306冊である。

### B 利用状況

図書室には2名分の閲覧スペースがあり、平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス（有料）も開始した。平成28年4月1日からは、土曜日・日曜日・祝日の図書室の利用を事前申し込み制としている。平成30年度の図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表14のとおりである。前年度比では利用者数は18人増、コピーサービス利用人数は2人増である。コピー申込冊数は66冊であり、考古学に関する雑誌3冊、発掘調査報告書58冊、一般書5冊である。

なお、収蔵図書は発掘調査報告書などの発行部数の少ない稀蔵本がほとんどそのため、館外貸出は行っていない。

（相澤裕子）

表14 平成30年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用（人）	コピー利用（人）
4	5	1
5	3	0
6	2	1
7	8	0
8	2	2
9	9	2
10	3	0
11	1	1
12	4	2
1	1	0
2	4	2
3	5	1
合計	47	12

## 7 保存処理

### (1) 木製品の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法を中心に行っている。しかし、PEG含浸法では漆被膜が剥がれてしまう漆器や、PEGの色により墨痕が見えにくくなってしまう墨書のある遺物は、トレハロース含浸法で行っている。詳細な方針および方法については、「年報」第1号に記載されている〔今井2014b〕。

平成30年度 平成30年度には15遺跡37調査分で合計819点の木製品の保存処理を行った（表15）。駒首高遺跡（2006008）や、県から譲与を受けた小坂居付遺跡（2009007）から出土した木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。この処理はPEG含浸処理装置で行うが、厚みが5cm以下の小形木製品は、プラスチック製密閉容器を使ったPEG含浸を温風定温乾燥機内で行っている。PEG以外の処理法としては近世新潟町跡の漆器などをトレハロース含浸法、土付の漆膜等は水溶性のバインダー17を使用して処理を行った。

### (2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行っている。保存処理を行う順序は、原則として調査年次が古いものからとしている。詳細な方針および方法については、「年報」第1号に記載されている〔今井2014b〕。また、本調査において脆弱遺物が出土した際には、取り上げと仮強化処理を行っている。

平成30年度 前年度に引き続き新潟市史福さんのために調査された大蔵遺跡（1989008）出土の鉄製品を中心に5遺跡6調査分で合計465点の保存処理を行った（表15）。県が調査した近世新潟町跡（2006015）から出土した鉄製品が多かった。これらは出土時の状態が良かったため、多数の処理が行えた。青銅製品も大蔵遺跡（1989008）や近世新潟町跡（2006015）からの出土品を中心に5遺跡8調査分で合計214点の保存処理を行った。

### (3) 保存処理外部委託について

PEGによる処理法に向いていない木製品や大形の木製品など、文化財センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。平成30年度は仲歩切遺跡（2014178）の木柱1点と林付遺跡（2010001）の木柱など5点の保存処理を外部に委託した（表16）。（今井さやか）

表15 平成30年度木製品、鉄製品、銅・青銅製品保存処理一覧

分類	調査番号	材質	形態	処理方法	点数	備考
木製品	中沢内道跡	木製品	棒状	PEG	1	
	2007001	木製品	棒状	PEG	2	
	2011002	木製品	棒状	PEG	45	
	2006006	木製品	棒状(口か)	PEG	111	
	2006008	木製品	棒状(口か)	PEG	59	
西面道路	2006012	木製品	棒状(口か)	PEG	59	
	2010111	木製品	棒状	トレハロース	1	
西面道路	2010111	木製品	棒状	PEG	6	
神ノ田道跡	2007004	木製品	板状(口か)	PEG	18	
	2008002	木製品	板状(口か)	PEG	3	
綱寺寺道上・造跡	2007005	木製品	曲面板状(口か)	PEG	13	
綱寺寺道上・造跡	2008001	木製品	板状(口か)	PEG	12	
綱寺寺道上・造跡	2008001	木製品	板状(口か)	PEG	6	
綱寺寺道上・造跡	2008001	木製品	板状	トレハロース	1	
綱寺寺道上・造跡	2008001	木製品	板状	PEG	5	
綱寺寺道上・造跡	2008002	木製品	板状(口か)	PEG	124	
綱寺寺道上・造跡	2008002	木製品	板状	トレハロース	10	
綱寺寺道上・造跡	2008002	木製品	板状	PEG	8	
豈坐山場道跡	2010009	木製品	板状(口か)	PEG	2	
豈坐山場道跡	2008003	木製品	板状(口か)	PEG	25	
手代内道跡	2008005	木製品	板状(口か)	PEG	10	
大沢内道跡	2008005	木製品	板状	PEG	2	
大沢内道跡	2008004	木製品	板状	PEG	1	
大沢内道跡	2008004	木製品	板状	PEG	11	
西十石道跡	2008009	木製品	板状(口か)	PEG	306	
小坂筋付道跡	2009007	木製品	板状(口か)	PEG	6	
小坂筋付道跡	2009007	木製品	板状	PEG	6	
林村道跡	2010001	木製品	曲面板状(口か)	PEG	2	
下郷道跡	2010106	木製品	板状	PEG	1	
京ノ内道跡	2006003	木製品	板状	PEG	1	
近世新町跡	2011010	木製品	板状	トレハロース	1	
近世新町跡	2005148	木製品	板状(口か)	トレハロース	1	
近世新町跡	2007118	木製品	板状	トレハロース	1	
近世新町跡	2007125	木製品	板状	トレハロース	1	
近世新町跡	2007125	木製品	板状	PEG	1	
近世新町跡	201131	木製品	板状	トレハロース	1	
近世新町跡	2010707	木製品	板状	トレハロース	7	
近世新町跡	2012310	木製品	板状	トレハロース	12	
近世新町跡	2012420	木製品	板状	PEG	1	
中之川1号試掘	2012707	木製品	板状	PEG	1	
				合計	819	
鉄製品						
道跡名	調査番号	材質	形態	処理方法	点数	備考
大糸道跡	1900008	鉄製品	板状	クリーンシング・酸防合板	285	
道上道跡	2005003	鉄製品	刀子(口か)	クリーンシング・酸防合板	8	
下久保内道跡	2006001	鉄製品	板状	クリーンシング	1	
近世新町跡	2006015	鉄製品	板状(口か)	クリーンシング・酸防合板	181	
近世新町跡	2008241	鉄製品	板状(口か)	クリーンシング・酸防合板	4	
福島寺道上・造跡	2010002	鉄製品	板状	クリーンシング・酸防合板	6	
				合計	465	
青銅製品						
道跡名	調査番号	材質	形態	処理方法	点数	備考
大糸道跡	1900008	青銅製品	古鏡	クリーンシング・酸防合板	16	
道上道跡	2005003	青銅製品	懐鏡	クリーンシング・酸防合板	1	
近世新町跡	2006015	青銅製品	古鏡(口か)	クリーンシング・酸防合板	156	
近世新町跡	2009241	青銅製品	懐鏡(口か)	クリーンシング・酸防合板	9	
綱寺寺道上・造跡	2010001	青銅製品	古鏡	クリーンシング・酸防合板	4	
綱寺寺道上・造跡	2010002	青銅製品	古鏡(口か)	クリーンシング	23	
綱寺寺道上・造跡	2010002	青銅製品	古鏡	クリーンシング・酸防合板	4	
京木道跡	2010003	青銅製品	古鏡	クリーンシング・酸防合板	1	
				合計	274	

表16 平成30年度外部委託保存処理一覧

道跡名	調査番号	点数	備考	委託先	金額(円)	合計(円)
仲手道跡	2014716	1	木札	(公財)元興寺所	1,728,276	1,728,276
林村道跡	2010001	5	木札(口か)	文化財センター	4,371,678	4,371,678

## 8 決算額

平成30年度における文化財センター決算額は表17のとおりである。(天野泰伸)

表17 平成30年度新潟市文化財センター決算額

区分	決算額(円)
○使用料及び賃借料	1102,300
文化財センター設備使用料	4,300
行政財産使用料	1,028,000
○国庫補助金	60,014,000
市内道路範囲等確認調査	37,828,109
両新地区は場整備発掘調査	3,468,698
古津八幡山道路及びガイダンス施設の保存・活用事業	2,817,415
文化財センター保存整理・活用事業	10,451,778
史跡古津八幡山道路確認調査事業	5,450,000
○掛け入	71,072,050
受託事業収入	69,730,000
両新地区は場整備発掘調査	63,000,000
小規模緊急発掘調査	6,730,000
誰入	134,050
コピー代費	9,450
文化財センターその他入	743,800
洗浄の丘展示館その他誰入	588,800
	132,118,350

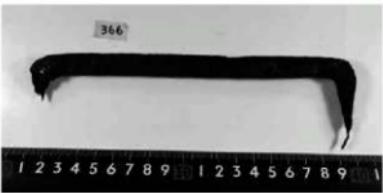
## ■支出

(-般会計)

区分	決算額(円)
○市内道路範囲等確認調査事業	55,077,761
市内道路範囲等確認調査事業費	30,506,613
市内道路範囲等確認調査事業費(は場整備)	24,571,148
○埋文化財本格発掘調査事業	97,788,041
両新地区は場整備発掘調査費	70,000,000
小規模緊急発掘調査費	27,788,041
史跡古津八幡山道路確認調査事業	10,919,810
○文化財センターの管理運営	66,027,657
○古津八幡山道路及びガイダンス施設の管理運営	18,591,184
	248,404,453



鉄製品 保存処理前 (近世新町跡・2006015)



鉄製品 保存処理後 (近世新町跡・2006015)

## IV 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

史跡古津八幡山遺跡は新潟市秋葉区に所在する弥生時代後期の高地性環濠集落および新潟県内最大規模の古津八幡山古墳などからなる遺跡であり、平成17年7月に国史跡に指定されている。

現在は「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として、保存・整備・管理・活用が行われており、歴史の広場は遺跡を当時の姿に復元した「史跡公園」とそのガイダンス施設「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」からなる。

平成28年度には史跡の保存・活用の指針となる保存活用計画を策定した（相田・金田ほか2017）。平成30年度は前年度に設置した「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」と、その下部組織としての「古津八幡山遺跡調査指導部会」によって保存活用計画を推進した。この詳細についてはIV 3に記載している。

史跡古津八幡山遺跡および整備の概要、古津八幡山遺跡歴史の広場の詳細な施設情報については、「年報」第1号に記載されている（渡邉2014c）。また、これまでの経過も「年報」第1～6号のとおりである。



史跡古津八幡山遺跡（北から）

### 1 資料の公開・展示

#### (1) 概 要

弥生の丘展示館は、展示室や体験学習室が主な施設で、古津八幡山遺跡に関わる展示を行っている。

常設展 展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器などを500点以上展示するほか、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1の復元ジオラマ模型で再現している。また、遺跡への親近感や理解が深まるように、考古イラストレーターの早川和子氏による時代ごとの復元画を展示ケースの壁面全面に展示している。そのほか、ガイダンスシアターでは65インチの大形モニターで、古津八幡山遺跡の概要やこれまでの調査成果などを映像で見ることができる。

企画展 古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始を記念して、平成27年度から企画展を開催している。展示室の中央部分に展示ボードと展示ケースを設置し、企画展コーナーとして利用している。平成30年度は3回の企画展のほかに、第2回目となったフォトコンテストの受賞作品展を開催した。各企画展の一覧は表1のとおりであり、各展示詳細についてはIV 1 (2)～(5)に記載する。

また、各企画展では関連した講演会や講座を開催しているが、企画展会場である弥生の丘展示館には、講座などが行える大人数の収容空間がない。そのため、各講演会・講座は、西区本場の文化財センターで行っている。

なお、各講演会・講座の当日資料は新潟市のホームページで公開しているほか、内容とアンケート調査の結果をまとめた記録集を作成して、市内の図書館や3回全てに参加した人へ配布した。

（小林美土里）

表1 平成30年度弥生の丘展示館企画展一覧

年度毎 の番号	企画展名	会 期	企画担当	来館者数 (人)	関連講演会・イベント			
					開催会 イベント名	開催日	講 知	参加者数 (人)
1	古代の祭祀	2018/4/24 (水) ～7/29 (日)	相田參臣	16093	群祭祭祀の基礎知識	2018/5/27 (日)	金田尚也（歴史文化講） 相田參臣	38
					越後平野における古代の祭祀と遺跡とその様相	2018/6/23 (土)	相田參臣	5
					翼子解説1	2018/7/8 (日)	相田參臣	8
2	聖地巡拝－王の暮らす屋敷－	2018/8/7 (火) ～12/2 (日)	相田參臣	15112	古墳時代の集落と豪族居宅－豪族本を中心とした 聖地巡拝	2018/10/14 (日)	菊池英朗（歴史文化講） 相田參臣	41
					御室解説	2019/11/10 (土)	相田參臣	9
					豪の「隠」がつなぐ日本海百叶流域の交流	2019/2/10 (日)	林 大賀氏 （石川整理藏文化財センター専門員）	91
3	縄・弥生・古墳時代の振替－	2018/12/11 (火) ～2019/4/3 (日)	渡邉勝利	9724	翼子解説1	2019/12/23 (日)	渡邉勝利	5
					翼子解説2	2019/2/17 (日)	渡邉勝利	17
					翼子解説3	2019/3/17 (日)	渡邉勝利	6

## (2) 企画展1 「古代の祭祀」

会 期 平成30年4月24日（火）～7月29日（日）

担 当 相田泰臣

入館者数 16,093人

**展示概要** 飛鳥時代の7世紀は、東アジア諸国との緊張関係を背景に古代国家の枠組みが急速に整っていった時代といえる。地方は「国」や「評」といった行政単位に編成され、地方豪族の多くは官人となっていった。祭祀においても、701年に成立了「大宝令」で、公的・国家的な祭祀についての規定が示され、飛鳥時代から平安時代を中心に行われた古代律令祭祀の形態が整備されたと考えられている。

本企画展では、いわゆる古代律令祭祀が完成していく過渡期の飛鳥時代を前後する時期、古墳時代から平安時代を対象に、越後平野の主な祭祀関連遺跡や遺物を紹介・展示しながら、時代による祭祀具の変化や、同じ時代でも遺跡や遺構によって祭祀具が異なる背景などについて考えた。

### 展示構成

- 1) 古代の祭祀（律令祭祀）の概要
- 2) 越後平野における律令祭祀前夜
- 3) 越後平野における古代祭祀関連遺跡
- 4) 越後平野における古代祭祀の様相

**主要展示** 2) 越後平野における律令祭祀前夜では、越後平野における古墳時代の祭祀関連遺跡や祭祀関連遺物について展示・解説を行った。

3) 越後平野における古代祭祀関連遺跡では、新潟市の大沢谷内遺跡と、田上町の行星崎遺跡について、祭祀関連遺物などの比較を行った。また、新潟市の緒立C遺跡と的場遺跡における水辺の祭祀の状況を確認したほか、緒立C遺跡や船内市の船戸桜田遺跡で出土した人面黒書土器、さらには大沢谷内遺跡での井戸祭祀や的場遺跡での地鎮祭祀についても展示・解説を行った。

4) 越後平野における古代祭祀の様相では、上記以外の遺跡も含めて比較・検討を行った。同じ時期の公的機関が開与する遺跡であっても、祭祀遺物の種類や多寡に違いが見られることから、遺跡の役割や機能、そのほか様々な要因によって祭祀のあり方が異なっていたことが推測された。

**関連講座** 企画展の関連講座を開催した。

演 目 律令祭祀の基礎知識、越後平野における古代の祭祀関連遺跡とその様相

講 師 金田拓也（歴史文化課）、相田泰臣

日 時 平成30年5月27日（日）

午後1時30分～3時30分

参加者数 38人

会 場 文化財センター研修室

**展示解説** 展示担当による展示解説を2回開催した。

日 時 平成30年6月23日（土）・7月8日（日）

午後1時30分～

参加者数 5人（6/23）・8人（7/8）

**まとめ** 今回の企画展では、官衙関連遺跡など主要な遺跡を中心に比較を行った。官衙関連遺跡以外の一級集落における祭祀の様相や祭祀遺物などについても、総合的にもう少し深く比較・検討を行えば良かったと考える。  
(相田泰臣)



展示風景（展示室）



関連講座風景



展示解説風景（展示室）

### (3) 企画展2 「豪族居館—王の暮らす屋敷—」

会期 平成30年8月7日(火)～12月2日(日)

担当 相田泰臣

入館者数 15,113人

**展示概要** 1981年に群馬県の三ツ寺I遺跡で見つかった大形の竪穴住居や、それを囲う柵列・堀などを伴う集落は、一般集落との隔絶から「首長居館」「豪族居館」「首長居宅」「豪族居館」(以下、豪族居館)などと呼ばれ広く認知してきた。豪族居館の事例は各地で増加しているが、一方で事例が増加するにつれて、その規模や内容などが非常に多様であることも明らかになってきている。

地域の古墳時代像を明らかにしていくためには、古墳に加え、古墳をつくった豪族の屋敷である豪族居館、さらには一般集落の動向や様相について検討していく必要がある。しかし、豪族居館や集落で全面的な発掘調査が行われている事例は少なく、豪族居館の実態や古墳との関係などを明らかにし、当時の古墳時代像を復元していく作業は今後大きな課題となっている。

新潟市内には県内最大の古津八幡山古墳をはじめ、これまでに8基の古墳が確認されている。これら古墳をつくった豪族の居館について確実なものはまだ見つかっていないが、舟戸遺跡(秋葉区)や御井戸遺跡(西蒲区)など、いくつかの遺跡が候補として挙げられる。本企画展では、東日本の主な豪族居館やこれまでの調査・研究成果などを概観するとともに、市内の豪族居館候補の遺跡について紹介・展示了した。

#### 展示構成

- 1) 豪族居館の概要
- 2) 各地の豪族居館の事例
- 3) 多様な豪族居館像
- 4) 新潟市内の集落と古墳

**主要展示** 2) 各地の豪族居館の事例では、豪族居館の調査・研究の礎となった群馬県の三ツ寺I遺跡や、福島県の古屋敷遺跡などについて、出土遺物の展示とともに紹介した。

4) 新潟市内の集落と古墳では、古津八幡山古墳、山谷古墳をつくった豪族の居館となる可能性がある舟戸遺跡、御井戸遺跡について展示・紹介した。

展示をとおして、地域性や首長・豪族の身分や役割、遺跡の性格、時代などによって、豪族居館が非常に多様であることを確認するとともに、今後市内でも豪族居館が発見される可能性の高いことが認識された。

#### 関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演目 古墳時代の集落と豪族居館

- 東日本を中心に -

講師 菊地芳朗氏(福島大学行政政策学類教授)

日時 平成30年10月14日(日)

午後1時30分～3時30分

会場 文化財センター研修室

参加者数 41人

**展示解説** 展示担当による展示解説を開催した。

日時 平成30年11月10日(土) 午後1時30分～

参加者数 9人

**まとめ** 古墳自体は注目されがちであるが、古墳をつくった豪族の屋敷(豪族居館)の存在をある程度周知できた。講演会は広い視野で分かりやすく講演いただき、参加者からは大変好評であった。(相田泰臣)



展示風景 (展示室)



関連講演会風景



展示解説風景 (展示室)

#### (4) 企画展3 「鐵—弥生・古墳時代の鉄器—」

会期 平成30年12月11日（火）～

平成31年4月14日（日）

担当 渡邊明和

入館者数 9,724人

**展示概要** 古津八幡山遺跡からは鉄器が3点出土している。鉄剣（方形周溝幕）、鉄鏃（焼失住居）、刀もしくは劍（古津八幡山古墳盛土）である。3点と少ないが、発掘調査で出土する石器が少ないと、鉄器用に使用されたと推定される砥石が多数出土していることなどから、當時使われていた道具の主体は鉄器だったと考えられる。

古津八幡山遺跡がある金津丘陵一帯は古代から中世前期にかけて鉄素材の一大生産地になるが、それ以前の弥生時代に初めて鉄器が用いられるようになった意義は大きい。

企画展では古津八幡山遺跡と同時代の新潟県内の弥生時代から古墳時代前期の遺跡から出土した金属器を集成し、その中から主要な遺物を展示し、當時古津八幡山遺跡でも使用されていた可能性のある鉄器を紹介した。

また、県内からは朝鮮半島産とされる三条市経塚山遺跡の板状鉄斧、長岡市姥ヶ入南遺跡の袋状鉄斧があり、それらが日本海を介してもたらされたことを、長野県木島平村根塚遺跡の鉄剣レプリカ3点、柏崎市開運橋遺跡の北部九州系土器などで説明した。

**展示構成** 日本における鉄製鍊は、岡山県総社市千引かなくろ谷遺跡など6世紀中頃から後半にならないと行われなかつたので、弥生時代や古墳時代前期の鉄器・鉄素材は全て大陸からもたらされたと考えられる。新潟県内では、弥生時代中期の鉄器は発見されていないが、石川県小松市八日市地方遺跡では弥生時代中期の船載袋状铸造鉄斧用の木の柄が多数見つかっている。船載铸造鉄斧は、中国の戰国時代の終わり頃に「燕」の国で作られたものが朝鮮半島を經由して日本にもたらされたと考えられている。また、その破損品も再加工・再利用されて、日本では様々な利器として使われた。弥生時代の鉄器の起源が朝鮮半島にあり、新潟県内へは北部九州などを經由して、日本海を介してもたらされた。そして、弥生時代開始時には鉄器がなく、現状では前期の終わり頃か中期の初め頃の鉄器が国内における最古と考えられている。

**主要展示** 県内の弥生時代から古墳時代前期の鉄器43点（経塚山遺跡板状鉄斧・姥ヶ入南遺跡袋状鉄斧の2点の船載鉄器を含む）、根塚遺跡渦巻文鉄剣レプリカ等3点、開運橋遺跡北部九州系壺形土器、韓国出土の渦巻文鉄剣の実物大パネルなど。集成した資料は30遺跡79点（青銅器

16点含む）で、このうち43点を借用して展示した。

また、国内で数例しか確認されていない古墳時代前期の長岡市五千石遺跡鍛冶炉の切り取り標本、葦鉢形羽口を展示した。

**展示解説** 展示担当による展示解説を3回開催した。

日時 平成30年12月23日（日）・

平成31年2月17日（日）・3月17日（日）

午後1時30分～

参加者数 5人（12/23）・17人（2/17）・6人（3/17）

日本海経由で朝鮮半島から鉄器が伝わったことを説明したところ、時代を越えて日本海の物流が重要であることに関心が持たれた。

**関連講演会** 企画展の関連講演会を開催した。

演目 弥生の「鉄」がつなぐ日本海沿岸流域の交流

講師 林 大智氏（石川県埋蔵文化財センター専門員）

日時 平成31年2月10日（日）

午後1時30分～3時30分

会場 文化財センター研修室

参加者数 91人

講師は北陸地域を中心に弥生時代の鉄器研究を行っている若手研究者の一人で、小松市八日市地方遺跡の「柄付き鉄製錠」を発見した調査担当者でもある。

弥生時代の鉄器の基礎知識と製作技術、北陸の鉄器の普及とその特徴、新潟県の鉄器の普及と高地性集落、鉄と玉、日本海沿岸域の鉄をめぐる地域間交流について、近年の弥生時代鉄器研究の最新情報も入れて、一般市民にもわかりやすい講演だった。

まとめ 県内で出土している船載鉄器2点（経塚山遺跡板状鉄斧・姥ヶ入南遺跡袋状鉄斧）、開運橋遺跡北部九州系壺形土器・根塚遺跡渦巻文鉄剣とともに、韓国出土の渦巻文装飾のある鉄器の実物大パネルを展示することによって、日本海を介して朝鮮半島から鉄器が伝わったことが理解できたのではないかと考えている。

（渡邊明和）



展示風景（展示室）

## (5) 第2回フォトコンテスト展

会期 平成30年4月24日(火)～6月3日(日)

担当 牧野耕作

展示概要 古津八幡山遺跡の魅力を再発見し、遺跡を広く知つてもらう目的で、前年に引き続き第2回フォトコンテストを実施した。

80作品の応募があり、その中から専門の審査員による選考によって入賞5点と、入選10点の計15点の受賞作品を決定した。受賞した全作品は、弥生の丘展示館体験学習室の壁面に展示了。



展示風景 (体験学習室)



弥生の丘展示館賞  
「悠久の光」(撮影者: 里永 道氏)



新潟市文化財センター長賞  
「時空を超えて」(撮影者: seijiro)



グラントリー  
「月照の古津八幡山遺跡」(撮影者: 磯口廣治氏)



フジカラー賞  
「タイムマシン」(撮影者: 大澤朋恵氏)



古津八幡山遺跡賞  
「撫茶蒸持」(撮影者: 小山 常氏)

まとめ 日常では見ることができない、あるいは新たな視点での古津八幡山遺跡の風景は、非常に新鮮であった。展示をご覧いただいた方は、遺跡の新たな魅力に出会えたのではないかと思う。今後は別の会場で出張展示を行うなどして、より多くの方が古津八幡山遺跡を知り、また遺跡の魅力を再発見するきっかけになるように活用していきたい。

(相田泰臣)

## 2 教育普及活動

### (1) 体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる事前申込み不要の体験学習メニューを月ごとに決めている（表2・3）。これは、季節やこれまでの状況から、年度ごとに変えている。

平成30年度の体験学習の参加者数は、個人4281人（前年度比65人増）、団体3,341人（同251人増）、全体7,622人（同316人増）であり、前年度よりも個人・団体ともに参加者数が増加した。団体の体験学習参加者が大きく増加しており、弥生の丘展示館を見学して体験学習も行う団体が増えているといえる。

団体利用は、概ね10人以上の場合に事前の申し込みをお願いしている（表4・5）。平成30年度は団体利用件数57件（前年度比28件減）、利用人数2,094人（同322人減）であった。団体分類別でみると、小学校の利用は平成29年度より減少した（前年度比団体利用件数2件減、利用人数194人減）。中学校の利用もわずかに減少した（前年度比団体利用件数2件減、利用人数12人減）。小学校に関しては、体験学習の時間までとれないという理由などから広場のみを利用する団体もあり、今後検討していく必要がある。

### (2) イベントなど

平成30年度も引き続きイベントや体験学習、企画展の情報などをまとめた年間スケジュールを作成し、配布した。また、新潟県教育庁文化行政課が年2回発行している「まいぶんナビ」に、企画展やイベントなどの情報を提供し掲載してもらっている。

イベントは、市報や新潟市の公式ホームページなどで広報し、参加者を事前に募集して月に2回から3回実施している（表6）。許容入数の関係から、20人以下と少人数のイベントが多いが、「弥生時代の姿を考える」や「弥生の水田再現」は恒例のイベントとなり、複数回参加されている方が目立つ。昨年度から始めた「アンギンづくり」も好評で、材料のカラムシ収穫から編みまで複数回の日程で行った。また、「子持ちく玉づくり」は企画したもの、参加者がなく行わなかった。

当日受付のものでは、6月に新潟県立植物園をメイン会場として行う「第17回にいつ花ふるフェスタ」の協賛イベントとして、「花と遺跡のふるさとフェスタ」を開催し、複数の体験学習を行った。当日は、史跡公園へ足を運ぶ人を増やす試みとしてスタンプラリーもを行い、体験学習参加者など延べ人数が1,196人（前年度比443人増）と好評だった。10月には、新潟県立植物園で植物園が主催する「秋の植物園祭り」や、秋葉区役所主催の「アキ

ハウドアスポーツフェスタ」と同日開催で、新潟県埋蔵文化財センターと連携した「まいぶん祭り」を開催した。当日は、台風のため外で行うイベントは全て中止した。台風の影響もあり、参加者数134人（前年度比861人減）と少なかった。

さらに、平成29年度に続き「第3回古津八幡山遺跡フォトコンテスト」を開催し、70作品（前年度比10作品減）の応募があった。どれも遺跡の様々な表情がみられる作品ばかりであった。厳正な審査で15点の受賞作品を決定した。古津八幡山遺跡の広報を目的に始めたこのイベントは、十分な成果があったことから今回終了することにした。

### (3) 入館者数

平成30年度の弥生の丘展示館入館者数（表7）は、個人40,263人（前年度比8,220人増）、団体2,094人（同322人減）、全体42,357人（同7,898人増）であった。前年度よりも入館者数は増加したが、団体の入館者数は減少してしまった。入館者数の増減は、従前の傾向では隣接する新潟市新津美術館で開催される展覧会の影響が非常に大きい。特に親子連れを対象とした展覧会の場合、弥生の丘展示館の入館者数も増加する傾向にある。

一方で、冬季（12～3月）の入館者は8,804人（前年度比3,593人増）であった。例年よりも入数は大きく増えているが、夏季に比べるとやはり少ない。今後も継続して冬季の入館者数が増加するようなイベントを考えていく必要がある。

史跡公園への来場者数は、弥生の丘展示館の入館者数よりも多くなった。今後は、史跡公園の利用者に対し弥生の丘展示館へ入館を促すアプローチをしていく必要もある。

（小林美土里）



「弥生の水田再現4」（稲刈り）

表2 平成30年度弥生の丘展示館体験学習（事前申込み不要）一覧

無料/有料	メニュー	料金(円)	所要時間(分)
無料	火焚し体験	—	15
	弓矢体験	—	10
	石斧体験	—	10
	クラフトづくり	—	無制限
	土器バズー	—	10
	ぬりえ	—	10
有料	土鍋・土笛・土鉢づくり	100	30~60
	土器づくり	200	60~120
	勾玉・管玉づくり	200	60
	鹿角ベンダントづくり	200	60
	鹿角（実造）ベンダントづくり	500	60
	鍛冶づくり	500	60
	鍛錆づくり	1,000	30
	アンサンブル（小）	300	120以上
	アンサンブル（大）	500	120以上

表3 平成30年度弥生の丘展示館体験学習（事前申込み不要） 参加者数

月	体験学習メニュー				参加者数(人)		
	室内体験 (無料)	野外体験 (無料)	個人	団体	合計	1日平均	累計 (開催回)
4	土器・土鍋・土笛・土鉢づくり	石斧体験	302	123	325	12.5	47,806
5	勾玉・管玉・鹿角ベンダントづくり	弓矢体験	767	691	1,458	52.1	49,264
6	土器・土鍋・土笛・土鉢づくり	火焚こし体験	122	535	657	25.3	49,921
7	鍛冶体験（鍛錆・鍛錆）	勾玉・管玉・鹿角ベンダントづくり	469	680	1,149	44.2	51,070
8	勾玉・管玉・鹿角ベンダントづくり	火焚こし体験	937	326	1,263	45.8	52,353
9	鍛冶体験（鍛錆・鍛錆）	勾玉・管玉・鹿角ベンダントづくり	362	545	907	34.9	53,266
10	土器・土鍋・土笛・土鉢づくり	弓矢体験	303	209	512	19.7	53,772
11	鍛冶体験（鍛錆・鍛錆）	勾玉・管玉・鹿角ベンダントづくり	300	199	499	16.9	54,211
12	鍛冶体験（鍛錆・鍛錆）	勾玉・管玉・鹿角ベンダントづくり	149	0	149	6.5	54,360
1	鍛冶体験（鍛錆・鍛錆）	勾玉・管玉・鹿角ベンダントづくり	223	0	223	8.9	54,583
2	アンサンブル（小）	鹿山のクラフトづくり	181	11	192	8.0	54,775
3	アンサンブル（大）	火焚こし体験	306	22	328	12.1	55,103
合計		4,281	3,341	7,622	24.5		

表4 平成30年度弥生の丘展示館体験利用一覧

小・中学校・その他の施設	来館日	団体名	人数(人)
東洋幼稚園	2018/4/13(金)	阪千小学校（中央区）	119
東洋幼稚園	2018/4/14(土)	阪千小学校（東区）	119
東洋幼稚園	2018/4/20(金)	金沢市立中学校（秋葉区）	18
東洋幼稚園	2018/4/24(火)	金沢市立中学校（中央区）	10
東洋幼稚園	2018/4/26(木)	阪千小学校（南区）	37
東洋幼稚園	2018/5/1(火)	阪千小学校（西蒲区）	32
東洋幼稚園	2018/5/2(水)	阪千小学校（中央区）	43
東洋幼稚園	2018/5/3(木)	阪千小学校（田上町）	42
東洋幼稚園	2018/5/10(木)	新潟大学教育学部附属新潟小学校（中央区）	17
東洋幼稚園	2018/5/11(金)	阪千小学校（北区）	136
東洋幼稚園	2018/5/12(土)	阪千小学校（北区）	136
東洋幼稚園	2018/6/22(金)	阪千小学校（秋葉区）	45
東洋幼稚園	2018/6/24(土)	阪千小学校（北区）	96
東洋幼稚園	2018/6/25(日)	阪千小学校（西蒲区）	55
東洋幼稚園	2018/9/14(金)	大谷小学校（西蒲区）	57
東洋幼稚園	2018/9/14(金)	吉田村立吉田小学校（高田）	5
東洋幼稚園	2018/9/18(火)	阪千小学校（中央区）	11
東洋幼稚園	2018/9/20(木)	阪千小学校（秋葉区）	13
東洋幼稚園	2018/9/21(金)	阪千小学校（西蒲区）	66
東洋幼稚園	2018/9/26(水)	青葉山小学校（西蒲区）	86
東洋幼稚園	2018/10/12(金)	七斗堀小学校（西蒲区）	121
東洋幼稚園	2018/10/17(水)	阪千小学校（江南区）	30
東洋幼稚園	2018/10/18(木)	五丁目幼稚園（西蒲区）	33
東洋幼稚園	2018/11/6(火)	阪千小学校（秋葉区）	41
東洋幼稚園	2018/11/8(木)	新潟第一小学校特別支援学校（秋葉区）	21
東洋幼稚園	2018/11/9(金)	阪千小学校（西蒲区）	38
東洋幼稚園	2018/11/13(火)	万代共済小学校（中央区）	64
合 計			1,106

小・中学校以外	来館日	団体名	人数(人)
新潟市立梅林幼稚園整備作業員	2018/6/19(木)	新潟市立梅林幼稚園整備作業員	9
秋葉公園巡回サークル「さわらび」	2018/6/14(月)	秋葉公園巡回サークル「さわらび」	13
全日本学生バスケットボール大会新潟本部女性部	2018/6/17(木)	全日本学生バスケットボール大会新潟本部女性部	80
朝カワタグの会	2018/6/18(金)	朝カワタグの会	10
フルマキルーム（保育用間隔）	2018/6/19(土)	フルマキルーム（保育用間隔）	15
五泉市立五泉小学校5年生P.T.A行事	2018/6/9(土)	五泉市立五泉小学校5年生P.T.A行事	104
五泉市立五泉小学校P.T.A学年行事	2018/6/10(日)	五泉市立五泉小学校P.T.A学年行事	24
朝カワタグの会	2018/6/15(金)	朝カワタグの会	10
NPO法人アキハラハスクルk-hacharuのうちさん	2018/6/15(金)	NPO法人アキハラハスクルk-hacharuのうちさん	25
朝カワタグの会	2018/6/17(日)	朝カワタグの会	45
わいわい児童クラブ	2018/6/26(木)	わいわい児童クラブ	50
秋葉三丁目P.T.A	2018/7/28(火)	秋葉三丁目P.T.A	23
秋葉区の芸術祭2018子供プロジェクト「秋葉区地域課」	2018/7/28(火)	秋葉区の芸術祭2018子供プロジェクト「秋葉区地域課」	19
阪千小学校P.T.A	2018/7/28(火)	阪千小学校P.T.A	80
中之島公民会館	2018/7/29(日)	中之島公民会館	31
わいわい児童クラブ	2018/7/31(火)	わいわい児童クラブ	63
イオンナースアーツクラブ	2018/8/4(土)	イオンナースアーツクラブ	14
朝カワタグの会	2018/8/7(火)	朝カワタグの会	33
放課後児童学校	2018/8/9(木)	放課後児童学校	12
朝カワタグの会	2018/8/19(火)	朝カワタグの会	16
ボーカロイドアコギタ阿賀野第一団	2018/8/19(火)	ボーカロイドアコギタ阿賀野第一団	18
ひでや・みみかわ児童クラブ	2018/8/21(木)	ひでや・みみかわ児童クラブ	40
西安博物館開館祭等	2018/8/9(日)	西安博物館開館祭等	5
秋葉区自治議論会「あきは子ども大学」	2018/9/15(土)	秋葉区自治議論会「あきは子ども大学」	32
越の国の萬葉遺跡を訪ねて	2018/9/18(木)	越の国の萬葉遺跡を訪ねて	41
朝カワタグの会「全典展で学ぶ古墳時代の王の屋敷」	2018/10/19(金)	朝カワタグの会「全典展で学ぶ古墳時代の王の屋敷」	17
朝カワタグの会	2018/10/21(日)	朝カワタグの会	45
朝カワタグの会「古典展で学ぶ古墳時代の王の屋敷」	2018/10/21(日)	朝カワタグの会「古典展で学ぶ古墳時代の王の屋敷」	15
朝カワタグの会	2018/11/1(火)	朝カワタグの会	6
紀伊新潟県地区行政相談委員会議論会	2018/11/6(火)	紀伊新潟県地区行政相談委員会議論会	6
みどり幼稚園	2018/11/15(木)	みどり幼稚園	36
秋葉区立秋葉公園	2018/11/17(土)	秋葉区立秋葉公園	9
新潟デラックス	2019/2/6(水)	新潟デラックス	11
放課後星山学校	2019/3/27(水)	放課後星山学校	11
合 計			988

表5 平成30年度弥生の丘展示館分類別団体利用数

分類名	団体利用数(件)	人 数
保育施設・幼稚園	2	71
小学校	19	1,040
中学校	3	61
その他学校	1	5
動く市制教堂	4	81
市関係	1	19
行政・議会関係	3	17
自治会・町内会など地域コミュニティ関係	11	480
各種サークルなど	9	179
企業企画サークルなど	1	41
その他	3	100
合計	57	2,094

表6 平成30年度弥生の丘展示館イベント・体験学習(事前募集)・公開講座一覧

開催日	内 容	人 数
2018/4/29 (日)	弥生時代の蚕を考える植牛編1 (春)	9
2018/5/13 (日)	弥生の水田再現1 (田起こし・田植え)	20
2018/5/20 (日)	弥生時代の蚕を考える昆虫編1 (採集)	8
2018/6/3 (日)	花と道踏みのふるさと フェスティ	1,196
2018/6/17 (日)	弥生の水田再現2 (草取り・種穀植え付け)	16
2018/6/24 (日)	弥生時代の蚕を考える昆虫編2 (展題)	24
2018/7/1 (日)	弥生時代の蚕を考える植牛編2 (初夏)	17
2018/7/15 (日)	弥生の水田再現3 (草取り)	12
2018/7/22 (日)	アンギン1 (カラムシ収穫・お引き)	10
2018/7/29 (日)	発掘体験	5
2018/8/5 (日)	弥生時代の蚕を考える昆虫編3 (ラベル書き)	22
2018/9/2 (日)	アンギン2 (索然)	10
2018/9/16 (日)	弥生の水田再現4 (植刈り)	18
2018/10/7 (日)	まいぶん祭り	134
2018/10/14 (日)	弥生食体験ドングリを食べよう1 (採取)	6
2018/10/21 (日)	弥生時代の蚕を考える植牛編3 (秋)	10
2018/11/4 (日)	弥生の水田再現5 (脱穀・精耕り・試食)	20
2018/11/11 (日)	弥生食体験ドングリを食べよう2 (収取り)	6
2018/11/25 (日)	植刈リースづくり	14
2018/12/2 (日)	土器カレンダーブック	14
2018/12/9 (日)	弥生食体験ドングリを食べよう3 (試食)	7
2018/12/23 (日)	アンギン3 (織み)	6
2019/1/6 (日)	弥生の餅つき	397
2019/2/3 (日)	弥生時代の蚕を考える動物編	5
2019/2/17 (日)	ミニチュア土器づくり	13
2019/3/10 (日)	子供用玉づくり1	0
2019/3/17 (日)	子供用玉づくり2	0
合 計		1,999

表7 平成30年度弥生の丘展示館入館者数

月	開館日数	来館者数(人)			
		個 人	団 体	全 体	1日平均
4	26	3,978	74	4,052	155.8
5	28	7,588	373	7,961	284.3
6	26	3,579	288	3,867	148.7
7	26	2,271	266	2,537	97.6
8	28	4,097	133	4,230	151.1
9	26	3,586	415	4,001	153.9
10	26	3,453	302	3,755	144.4
11	26	2,929	221	3,150	121.2
12	23	1,377	0	1,377	59.9
1	25	2,191	0	2,191	87.6
2	24	1,572	11	1,583	66.0
3	27	3,642	11	3,653	133.3
合計 / 平均	311	40,263	2,094	42,357	136.2

### 3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進

#### (1)はじめに

平成28年度に策定した『国史跡 古津八幡山遺跡保存活用計画』(相田・金田ほか2017)（以下、保存活用計画）などを推進していくため、平成30年度は「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」（以下、推進委員会）を1回、さらに古津八幡山遺跡の確認調査に関する指導や助言を受けるため「古津八幡山遺跡調査指導部会」（以下、調査指導部会）を2回開催した。経過などは表8・9のとおりである。

#### (2) 平成30年度古津八幡山遺跡確認調査について

保存活用計画に沿って史跡古津八幡山遺跡をより適切に保存・活用していくため、史跡内外の遺跡の状況を把握することを目的とした確認調査を昨年度に引き続いて行った（第21次調査）。調査地は、昨年度と同様に古津八幡山遺跡北東域の史跡指定地外で、標高約50mの遺跡最高所から北東へ一段下がった丘陵腹地、標高約25mの平坦面及び緩斜面に位置する。

調査期間は途中の中止を含め平成30年5月30日から11月2日で、調査面積は約195m<sup>2</sup>である。確認調査の結果、本遺跡で初めて掘立柱建物1棟の配置を確認したほか、前年度の調査で見つかった大形竪穴住居の形状や規模などが明らかになった。なお、今年度確認した遺構数は竪穴住居1棟、掘立柱建物1棟、土坑1基、溝55条、ピット180基、性格不明遺構3基で、出土遺物は縄文土器、弥生土器のほか、鉄器・石器・礫などがある。

①掘立柱建物（SB1） 母屋部分は1間×3間で、梁行約4.5m、桁行約6.2mの独立棟持柱建物と考えられる。周辺ではほかにも多数の柱穴が確認されており、複数棟の掘立柱建物の存在が推測される。この掘立柱建物を構成する柱穴からの遺物の出土は少ないが、一部柱穴からは弥生時代の土器片が出土している。

②竪穴住居（SI1） 壁溝の外側で一辺約9.5mを測る大形の竪穴住居で、平面形はやや崩の張る隅丸方形を呈する。また、壁溝が2条切り合いで確認されたことから建て替えを行っており、建て替え前の平面形は不整の梢円形と推測される。

当遺跡でこれまでに確認されている60棟の竪穴住居の中で最大規模となる。出土土器から新潟シンボジウム編年〔日本考古学協会新潟大会実行委員会1993〕の4期（弥生時代終末期）の住居と考えられる。また、この大形竪穴住居と一部重複する竪穴住居（SI465）も確認された。SI465は一辺約4mの隅丸方形プランと推測される。SI1を壊してつくられていることから、SI1よりも新しく

古津八幡山遺跡における最終段階の建物と考えられる。

#### (3) おわりに

令和元年度も大形竪穴住居およびその周辺域において継続して確認調査を行う予定である。（相田泰臣）

表8 古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会の経過

開催日	開催数 (通算)	協議・検討事項
2019/3/13	第3回	平成30・31年度の保存管理開催、整備開催、活用開催、運営・連携体制開催について

表9 古津八幡山遺跡調査指導部会の経過

開催日	開催数 (通算)	協議・検討事項
2018/8/30	第4回	確認調査の現地指導
2019/3/13	第5回	表8と同じ



掘立柱建物（SB1）調査風景



掘立柱建物（SB1）柱穴の断面



竪穴住居（SI1・SI465）全景

## V 研究活動－資料紹介・研究ノートなど－

### 1 新潟市西区六地山遺跡出土弥生土器の再検討

#### (1) はじめに

2017年1月4日～3月26日、史跡古津八幡山 弥生の丘展示館企画展「邪馬台国の時代4 古津八幡山の頃の信濃川左岸の世界－六地山遺跡里帰り展－」で信濃川左岸の遺跡から出土した弥生時代中期後半から後期の遺物とともに、新潟市西区の六地山遺跡出土遺物を展示了した。現在六地山遺跡出土資料は、大半が長岡市立科学博物館所蔵になっているので、サブタイトルして「六地山遺跡里帰り展」とした。

六地山遺跡は古津八幡山遺跡と同じ弥生時代後期の遺跡である。丘陵上に立地する古津八幡山遺跡に対し、海岸砂丘上に立地する遺跡として、古津八幡山遺跡を理解する上で看過できない重要な遺跡の一つである。

六地山遺跡出土資料は、1956年発掘調査資料（長岡市立科学博物館所蔵）、真島衛氏採集資料（真島家所蔵）、金塚友之丞氏採集資料（新潟市歴史博物館所蔵）が主なもので、この他、新潟市教育委員会が確認調査を行った資料がある（甘粕・小野ほか1986）が、資料の大半は長岡市立科学博物館所蔵資料が占めている（注1）。

企画展のために、長岡市立科学博物館から六地山遺跡出土品を借用し、2016年4月～2017年6月にかけて接合・実測・集計などの再整理作業を行った。限られた期間内の作業だったために不十分ではあったが、接合作業によって新たに器形が復元されたものも少なくない。また、真島衛氏採集資料と金塚友之丞氏採集資料中に、今まで知られていなかった続縄文土器を確認することができた。

長岡市立科学博物館所蔵資料は、新潟市史編さんの際にも借用され、「新潟市史 資料編1 原始古代中世」に実測図等が報告されている〔新潟市史編さん原始古代中世史部会編1994〕（注2）。現在、出土遺物は同館の伝統的な木箱に入れられており、遺跡名・出土地点を示す紙ラベルが貼られている。借用時には木箱内に新潟市史編さん時のメモ書きが幾つか残されていた。なお、資料返却時には、借用時の旧状に復するように木箱に戻し、接合したものや同一個体と考えられる個体はビニール袋に入れて最も個体数の多い木箱に戻すようにした。接合などで木箱に入らなくなった遺物は、プラスチック製コンテナに収納して返却した。また、遺物を借用する際に、発掘調査時の測量図面等の記録類の所在を照会したが確認

することはできなかった。写真はフィルムからデジタル化したデータの提供を頂いた。この他に、故関雅之氏からも青焼きの現況測量図、発掘調査写真を提供して頂いた。図3はそれらを基に作成したものである（注3）。

今回、六地山遺跡出土土器の図化作業を行い再報告する目的は、新潟市域における弥生時代後期の社会を解明するうえで重要な資料であること、そして、前述したように国史跡古津八幡山遺跡の動態を考察するうえでも、六地山遺跡そのものの評価をする必要があると考えたからである。後に詳しく記すが、六地山遺跡の所属時期は從来、北陸系土器と東北系土器は別時代で、前者が後期前半、後者は後期後半とされてきたが、今回の再検討によって両者は同一時期で後期前半に所属させるべきであると認識するに至った。天王山遺跡天王山式期以前である。天王山遺跡とは同じ頃に古津八幡山遺跡の高地性環濠集落も成立する激動の時期直前の頃である。

#### (2) 六地山遺跡の概要（図1～図5）

六地山遺跡は新潟市西区曾和・内野戸中才・内野湯端・内野早角・田島に所在する。JR越後線内野駅から1.2kmほど南にあり、周囲を低湿地に囲まれた砂丘上（新砂丘II-1）に立地する。現在は海岸線まで直線距離で約2km程であるが、当時は新砂丘IIの形成途上と推測されるから、海岸線までの距離はもっと近かったと考えられる。また、日本海に近いだけではなく、西川（信濃西川）の河口・河道にも近い交通の要衝であったと推察される。周辺の代表的な遺跡として、砂丘上に立地する諸立遺跡（純文晩期、弥生前期～中期初頭、古墳早期、古代）と四十石遺跡（純文、弥生、古墳早期～前期、古代）がある。本遺跡とは時代が異なるが、両遺跡からは各地域からたらされたと考えられる遺物が出土しており、物流や交易に関係する遺跡であつたと推察される。この六地山遺跡の立地条件は遺跡の性格を理解する上で重要なことを強調しておきたい。

1956年の発掘調査は寺村光晴氏が「上代文化」第30輯に「越後六地山遺跡」として報告されている〔寺村1960〕、これによって発掘調査当時の遺跡の状況を簡単に記しておこう。

六地山遺跡は弥彦山・角田山が一望できる場所にあり、1944年頃までは松林であったが、戦時中の食糧増産のために開墾され煙地となつた。遺跡がある砂丘は平野部に突出しているため季節風による風侵が甚だしく、さらに砂丘の中央を南北に幅3mの農道が造成されてからは採砂場となり、遺跡は埋没寸前の状態であったとい

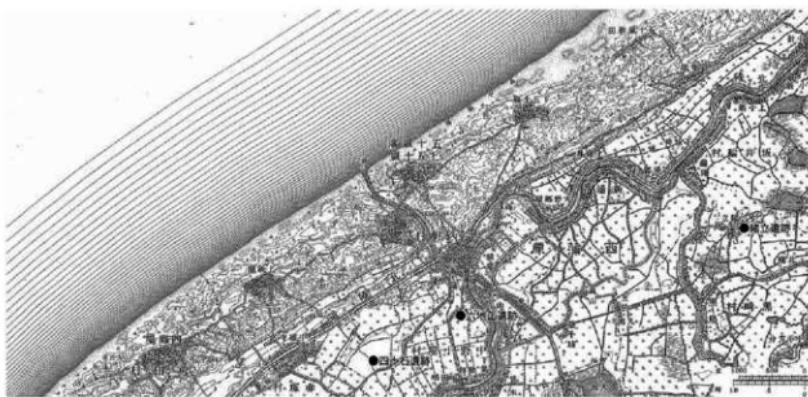


図1 六地山道路位置図（1911年測図、1914年製版 内野1/5→1/7.5万）



図2 六地山道路周辺の空中写真（1948年米軍撮影）

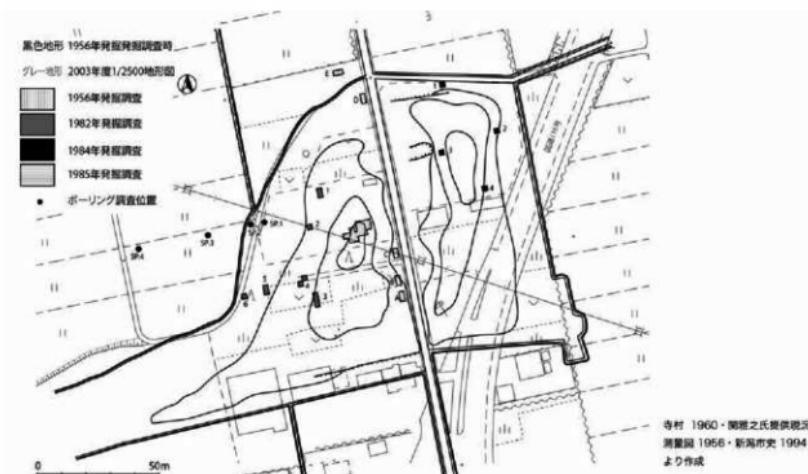


図3 六地山道路発掘調査位置図

う。開墾時に石器が多数出土し、「作業中に人骨・藏骨器・直刀等が道路北側から発見された」と記されているが、直刀は、当時もその所在は不明だったようである(注4)。

1955年に、弥彦神社(弥彦山信仰)の研究のために西蒲原郡内の遺跡踏査をしていた真島衛氏が、六地山遺跡を訪れたところ、「刷毛目のある弥生式土器」とと共にそれまでに知られていない「繩文土器とは明らかに異なる繩文のある土器」があることに注目した。その後、平野部にある弥生時代の集落を解明することと、遺跡の埋滅を防ぐことを目的として発掘調査が計画された(注5)。

発掘調査は真島氏が経費を負担し、長岡市立科学博物館の中村孝三郎氏によって行われた(注6)。調査は烟の休園期を待って、1956年12月10日から14日の5日間行われた。発掘調査写真を見ると白く雪が積もっており、故閑雅之によれば季節風も強く、とても寒かったらしい。発掘調査には真島氏・中村氏のほか、寺村氏・関氏、地質調査担当として津田稟氏らが参加した。

発掘調査面積は、 $2 \times 2$ mの調査区で14か所、面積56m<sup>2</sup>であった。報告された調査区の図面によれば、1～11・13区は $2 \times 2$ m、12区のみが $2 \times 4$ mとなっている。「 $2 \times 10$ mの第1溝を東西に切り」(1～5区)、「その西北(東北)に接して $6 \times 4$ mの第2溝を設定」(6・7・10～12区)された。

基本層序は、上から、表土層約15cm、黒褐色の腐植砂層約60cm(遺物包含層)、褐色の純砂層(無遺物層)であった。「腐植砂層は砂丘頂部に厚く、中腹より末端にかけて漸次薄くなり、丘根部では全くみられない」(寺村1960)かった。

当時の写真を見ると、まだ小高く砂丘列が残っていたことがわかる。砂丘北東端で水田面との標高差約3mの小高いところが遺跡の中心であった。発掘調査によって平箱11箱の土器片や石の剥片、全体が復元できる土器12点が出土した。

遺跡及び周辺では、1956年以降の開発等で砂丘上にある遺跡中心部は削られ、建物や資材置き場ができ、遺跡東側には国道116号が通ったために、現在では旧状を殆ど留めていない。六地山遺跡や周辺では、これまでに10回以上の試掘確認調査が行われており、砂丘上は削除され旧地形を保っていないが、部分的に遺物包含層が遺存している箇所も確認されている。

1982年の遺跡分布調査では、発掘調査が行われた遺跡北東から南西方向に長さ約950mの範囲に遺跡が広がっていることが確認されている(甘粕・小野ほか1986)。また、遺跡が立地する砂丘列は、もともとは北東側で標高が高く、砂丘列の幅も160m程で広かつたが、南西に行くに

つれ低くなり、幅も10m程に狭くなっていたことや、ボーリング調査や確認調査の結果により、西側や北側の水田面下から埋没した砂丘や弥生時代後期の遺物包含層である黒褐色砂層が良好な状態で遺存していることが判明している。また、水田部分では3～4mの深度まで遺物包含層が確認されているが、さらに深い場所まで広がる可能性が指摘されている。六地山遺跡からはこれまでの調査で弥生時代後期を中心として、奈良・平安時代、中世の遺物も出土している。また、1956年の遺跡発掘調査は、新潟市域で最初に行われた事例としても特筆される。

### (3) 1956年発掘調査出土の弥生土器

(図6～16、表1～3)

再整理では接合作業と併行して、遺物の注記を基に調査区別の集計を行った(表1)。注記の「R」は六地山、Rに続く数字は調査区、「S」は1～3までしかないので層位と判断した。1が表土層、褐色の純砂層は無遺物層なので、2・3は「腐植砂層を上下2層に分けた」(寺村1960)とする記述に対応するものであろう。裾部にあたるR4・R5にS3がみられないこともセクション図と対応する。また、R10にしかない「no」は番号を付けて個別に取り上げたもの、「マ」は真島、「表」は表探であろう。

この集計作業によって気づいた点を簡単に記しておく(表1)。土器小計をみるとわかるように、1・2・13区で多く、これらの調査区の1・2層からは土師器や中世のかわらけも多く出土しており、報告に書かれているように既にかなりの擾乱が進んでいたものと推察される。表探点数が多いこともそのことを裏付けている。「繩文のある土器は下層に多いが、刷毛目の土器と混在していたことが注目された」(寺村1960)とする傾向は集計結果からはうかがえなかった。しかし、報告に記載があり図示されている剥片が10区に集中する点は集計からも確認された。R10 S 3から74点と最も多く出土しており、黒褐色砂層(S 3)はそれ程擾乱を受けていないよう見受けられる。

弥生土器のほかに石器や剥片、古代の須恵器、土師器や中世の遺物、鉄器、鐵滓等も多数出土している。156点もの剥片や7点の石器、管玉があったが時間的な制約から図化しなかった。また、「六地山遺跡の発掘では、中層から原形不鮮明な鐵滓片が十数点検出されている。この地点は土器包含の原層に擾乱がなく、残滓片は後期弥生式土器に附着したものとみられる。」(中村1966)とされる鉄器もあったが、同様に実圖をしていない(図25)。これまで、新潟県内の弥生時代鉄器集成リストに入れられることのない資料なので、もし記述のとおり弥生時代の鉄器とすれば重要であり、今後精査が必要であ

表1 調査区別の遺物集計表

調査区	ハケ番号	生糞時代			死糞時代			古代			中世			古代から中世			時代不明		
		構造	網標	その他	土器小計	石器	鉄片	生糞	勾玉	須恵	土師	珠洲	がむらけ	瀬戸	中世陶器	磁石	铁滓等	磚	瓦石
R 1	5 1	131	11	2	144	1				2	20	2	8					4	7
R 1	5 2	442	96	1	544	5				33			15					2	
R 1	5 3	99	20		119	1				1								2	
R 2	5 1	161	24		185	3				2	104		19					1	2
R 2	5 2	267	52		319	3				1	25		8					2	1
R 2	5 3	88	22		110	1				4								2	
R 3		69	7	1	77					1								4	
R 3	5 2	133	54		187	1				1	1							5	1
R 3	5 3	4			4													1	1
R 3+4	526が53	21	2		23														
R 3+4	5 2	13	7		20														
R 3+4	5 3	23	4		27														
R 4	5 1	51	9		60														
R 4	5 2	105	30		135														
R 5	5 1	44	8		52	1												1	2
R 5	5 2	1			1														
R 8	5 1	71	9		80	1				1	3		3				1	4	1
R 9	5 1	33	1	1	35														
R851かR951		30	2		32														
R 10	5 1	117	37	1	155	9				1			3					1	6
R 10	5 2	132	19		151	19				1									
R 10	5 2no2	3	1		4	2													
R 10	5 2no3	31	1		32	1													
R 10	5 2n3	2			2	1													
R 10	5 3	31	4	1	36	74				1								3	3
R 10	5 3n3	1			1														
R 10	下 no1	28	1		29														
R 10	下 n1	15	1		16														
R 10	下 no2	15	23		38	1													
R 10	下 n2	13	1		14	7													
R 11	5 1	109	26		135	8				9	6						1	1	4
R 11	5 2	99	34		133	3				2								2	
R 11	5 3	1			1														
R 12	5 1	16	2		18	1				8	11		4					1	
R 12	5 2	87	19		106	1				1	8							1	4
R 12	5 3	8			8														
表探	六地山	551	63		614	3				28	32	2	3	1	12	1	4	28	
空		4	5	1	10													5	3
注記なし		55	28	2	85	1	1	1	1										
合計		3,372	692	10	4,080	1	156	1	3	59	254	5	71	1	13	1	25	97	11

表2 東北系土器と  
北陸系土器の点数

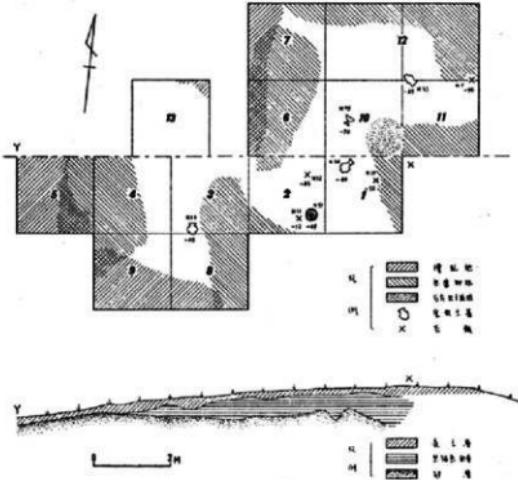


図4 六地山遺跡埋柵区設定期（寺村1980に據る）

系統	点数
東北系	口緑部 84
	底部 12
	併部 596
	合計 692
裏	67
森	3
その他	3
織文	RL 457
	LR 179
	無筋R 3
	附加条1種 →L 1
附加条2種	→R 8
	→L 0
	→R 18
撚糸文	絡条件L 13
	絡条件R 9
系統	点数
北陸系	口緑部 238
	底部 71
	併部 3,063
	合計 3,372
裏	201
森	20
高杯	12
器台	7
跡	15



図5 1956年発掘調査写真 (1~9:長岡市立科学博物館提供、10・11:間雅之氏提供)

ろう。ここでは、実測作業を行った弥生土器に限って報告することとした。『新潟市史 資料編1 原始古代中世』[1994]との対応は表3に示した。

**弥生土器の概要** 図版は、A東北系列、B折衷系列、Cその他系列、D北陸系列の順で報告し、前2者は器形のわかるものを先に図示した。各系列の詳細は後述する。

まず、弥生土器全体の量比をみておこう。集計作業時点ではA・B・C・Dの区分を明確にしていなかったので細別は明らかではないが、縄文が施文される土器（A東北系）692点、ハケメ・ナデ・ミガキ等で縄文のない土器（D北陸系+B折衷系+Cその他の系）3,372点で、両者の比率は17%：83%となる（表2）。北陸系が多く、東北系土器が少ないという結果は、天王山式系土器分布の外殻図としての地理的特徴を示していると言えよう。

古津八幡山遺跡では出土点数が膨大なため、破片1点ずつの集計を行っていないものの、報告遺物ではA群北陸系36%、B群東北系46%、C群在地折衷系18%の比率であったが、これは東北系土器を多めに図化報告したから、実態としては約40%：40%：20%と推定している（渡邊2001）。古津八幡山遺跡は4期ないし5期に細分される長期に継続する遺跡なので一概には比較できないが、概ね東北系40%：北陸系+折衷系60%となるから、六地山遺跡と古津八幡山遺跡の系統別の比率は大きく異なる。六地山遺跡に比べ古津八幡山遺跡では東北系土器の比率が高いと言える（注7）。

また、A東北系の縄文原体を1段目のLとR（以下、山内清氏の表記に従って①・⑧とする〔山内1979〕）で集計すると①が471点、⑧が217点で、比率では68%：32%となる。古津八幡山遺跡では①と⑧の比率は30%：70%なので、両者の比率は逆転していると言える。

遺物報告番号の下に併記した記号は土器に記された注記である。複数破片が接合する個体は大破片、破片数の多い順に記した。なお、完形土器は底部に書かれた注記が廃棄して判読できなくなったものが多いが、図面・写真から147が11・12区間、280が1区、296が10区と推察される。296は3と共に出土したと記録されており〔寺村1960〕、出土状況の写真も残されている（図5）。

#### A東北系（図6-1～図10-140）

全体の器形のわかるものを先に図示し、さらにヘラ描沈線文を持つもの、持たないもの、さらにそれぞれ1段L（①）、1段R（⑧）、地文のないもの（無地文）の順で図示している。

**器形** 器種は壺が主体で壺（3・5など）もある。壺と壺の区分は曖昧で、4・143・147などは広口壺として括ることができる。脚部が1点ある（138）。また、赤彩さ

表3 新潟市史対応表

番号	器形	備考	番号	器形	備考
1	40	139	111	38	135
2	40	132・138	112	39	136
3	40	130	113	39	145
4	40	130	114	39	146
5	40	131	115	39	147
6	40	132	116	41	149
7	40	132	117	41	150
8	40	130	118	41	151
9	39	131	119	41	152
10	40	132	120	41	153
11	41	132	121	39	157
12	40	130	122	39	158
13	40	130	123	39	159
14	39	131	124	39	160
15	41	130	125	39	161
16	40	132	126	39	162
17	40	132	127	39	163
18	40	134	128	39	164
19	39	131	129	39	165
20	41	131	130	39	166
21	40	132	131	39	167
22	39	130	132	39	168
23	39	130	133	39	169
24	41	130	134	39	170
25	40	130	135	39	171
26	40	130	136	39	172
27	40	132	137	39	173
28	40	134	138	41	174
29	39	131	139	41	175
30	40	132	140	41	176
31	40	132	141	41	177
32	40	138	142	41	178
33	40	132	143	41	179
34	40	132	144	41	180
35	41	131	145	41	181
36	40	130	146	41	182
37	40	130	147	41	183
38	40	130	148	41	184
39	40	132	149	41	185
40	40	132	150	41	186
41	40	130	151	41	187
42	40	130	152	41	188
43	40	130	153	41	189
44	40	130	154	41	190
45	40	130	155	41	191
46	40	130	156	41	192
47	40	130	157	41	193
48	40	130	158	41	194
49	39	130	159	41	195
50	39	130	160	41	196
51	39	130	161	41	197
52	39	130	162	41	198
53	39	130	163	41	199
54	39	130	164	41	200
55	39	130	165	41	201
56	39	130	166	41	202
57	39	130	167	41	203
58	39	130	168	41	204
59	39	130	169	41	205
60	39	130	170	41	206
61	39	130	171	41	207
62	39	130	172	41	208
63	39	130	173	41	209
64	39	130	174	41	210
65	41	130	175	41	211
66	41	130	176	41	212
67	40	130	177	41	213
68	40	130	178	41	214
69	40	130	179	41	215
70	39	130	180	41	216
71	39	130	181	41	217
72	39	130	182	41	218
73	39	130	183	41	219
74	39	130	184	41	220
75	39	130	185	41	221
76	39	130	186	41	222
77	39	130	187	41	223
78	39	130	188	41	224
79	39	130	189	41	225
80	39	130	190	41	226
81	39	130	191	41	227
82	39	130	192	41	228
83	39	130	193	41	229
84	39	130	194	41	230
85	39	130	195	41	231
86	39	130	196	41	232
87	39	130	197	41	233
88	39	130	198	41	234
89	39	130	199	41	235
90	39	130	200	41	236
91	39	130	201	41	237
92	39	130	202	41	238
93	39	130	203	41	239
94	39	130	204	41	240
95	39	130	205	41	241
96	39	130	206	41	242
97	39	130	207	41	243
98	39	130	208	41	244
99	39	130	209	41	245
100	39	130	210	41	246
101	39	130	211	41	247
102	41	203	212	41	248
103	41	200	213	41	249
104	39	133	214	41	250
105	39	133	215	41	251
106	39	133	216	41	252
107	39	133	217	41	253
108	39	133	218	41	254
109	39	133	219	41	255
110	39	134	220	41	256
111	39	134	221	41	257
112	39	134	222	41	258
113	39	134	223	41	259
114	39	134	224	41	260
115	39	134	225	41	261
116	39	134	226	41	262
117	39	134	227	41	263
118	39	134	228	41	264
119	39	134	229	41	265
120	39	134	230	41	266
121	39	134	231	41	267
122	39	134	232	41	268
123	39	134	233	41	269
124	39	134	234	41	270
125	39	134	235	41	271
126	39	134	236	41	272
127	39	134	237	41	273
128	39	134	238	41	274
129	39	134	239	41	275
130	39	134	240	41	276
131	39	134	241	41	277
132	39	134	242	41	278
133	39	134	243	41	279
134	39	134	244	41	280
135	39	134	245	41	281
136	39	134	246	41	282
137	39	134	247	41	283
138	39	134	248	41	284
139	39	134	249	41	285
140	39	134	250	41	286
141	39	134	251	41	287
142	39	134	252	41	288
143	39	134	253	41	289
144	39	134	254	41	290
145	39	134	255	41	291
146	39	134	256	41	292
147	39	134	257	41	293
148	39	134	258	41	294
149	39	134	259	41	295
150	39	134	260	41	296
151	39	134	261	41	297
152	39	134	262	41	298
153	39	134	263	41	299
154	39	134	264	41	300
155	39	134	265	41	301
156	39	134	266	41	302
157	39	134	267	41	303
158	39	134	268	41	304
159	39	134	269	41	305
160	39	134	270	41	306
161	39	134	271	41	307
162	39	134	272	41	308
163	39	134	273	41	309
164	39	134	274	41	310
165	39	134	275	41	311
166	39	134	276	41	312
167	39	134	277	41	313
168	39	134	278	41	314
169	39	134	279	41	315
170	39	134	280	41	316
171	39	134	281	41	317
172	39	134	282	41	318
173	39	134	283	41	319
174	39	134	284	41	320
175	39	134	285	41	321
176	39	134	286	41	322
177	39	134	287	41	323
178	39	134	288	41	324
179	39	134	289	41	325
180	39	134	290	41	326
181	39	134	291	41	327
182	39	134	292	41	328
183	39	134	293	41	329
184	39	134	294	41	330
185	39	134	295	41	331
186	39	134	296	41	332
187	39	134	297	41	333
188	39	134	298	41	334
189	39	134	299	41	335
190	39	134	300	41	336
191	39	134	301	41	337
192	39	134	302	41	338
193	39	134	303	41	339
194	39	134	304	41	340
195	39	134	305	41	341
196	39	134	306	41	342
197	39	134	307	41	343
198	39	134	308	41	344
199	39	134	309	41	345
200	39	134	310	41	346
201	39	134	311	41	347
202	39	134	312	41	348
203	39	134	313	41	349
204	39	134	314	41	350
205	39	134	315	41	351
206	39	134	316	41	352
207	39	134	317	41	353
208	39	134	318	41	354
209	39	134	319	41	355
210	39	134	320	41	356
211	39	134	321	41	357
212	39	134	322	41	358
213	39	134	323	41	359
214	39	134	324	41	360
215	39	134	325	41	361
216	39	134	326	41	362
217	39	134	327	41	363
218	39	134	328	41	364

れた壺が1点あるが少ない(11)。口縁部は、天王山式土器の特徴とされる内湾したり(4)、肥厚したりするもの(1・2)もあるが明確ではなく、くの字状の頭部から肥厚せずに伸びる壺が多い(47・48、104-107・109)。これらの例は北陸系との折衷土器とする見解もあるが中期的な器形とみることもできる。110・111は両者の中间的な例。沈線文様のない粗製土器には口縁部と頭部との境が屈曲したり、明瞭な段を設けたりするものも多い。

文様帶・文様 従来から指摘されているように、刺突列や指頭押圧はあるが(10・11・19・20・23)、天王山式土器の特徴である交互刺突文は1点もない。沈線文様のある個体そのものもなく、縄文のみのいわゆる粗製土器が多い。1以外には明確な磨消縄文はない。これらの諸要素が、狭義の天王山式(天王山遺跡天王山式)よりも新しい根拠とされてきたのである。

天王山式土器の文様帶は鈴木正博氏によってⅠ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅲ文様帶からなるとされている[鈴木1976]。狭義の天王山式に属さない本遺跡の土器群をこの文様帶で説明するのは本来的には適切なのが、別の名称で説明すると煩雑になるので、便宜的にこの文様帶に従って説明しよう。

口縁部Ⅰ文様帶には上向きの弧線文(10・13・15・16・24)、鋸歯文(2・7・14・26・76・77・132・133-138)がある。15は上向きだけではなく下向きの連弧文を入れる(注8)。1は文様帶下端が下向き連弧状になるもので、交点に棒状施文具で刺突を入れている。天王山式土器の特徴の一つとされる口縁部に突起が付くものや、波状口縁になる例はあるが少ない(2・4・5・10・26・65)。日本海側で多い口縁部の縦の刻み目はなく、端部に方向を変えて入れられる「ハ」の字状の刻み目列は2にその可能性があるだけである。内面施文には、刺突列と平行沈線が併用されるもの(13)、刺突列(15)、縄文施文(48・65・69・109・110・117・122)がある。

ヘラ描沈線文を入れる個体数が少なく、Ⅱ・Ⅱa文様帶の構図は明確ではない。問合せた連弧文(27・28)はあるが、重複形文は1点もない。なお、頭部Ⅱa文様帶を無文とする例は多い。

体部Ⅲ文様帶上端には鋸歯文(2)、上向きの連弧文(3-5)がある。天王山式に一般的な下向き連弧文(34・37)はあるが少ない。先端の広い浅い沈線による2条・3条の上向き連弧文が定量あるのが本遺跡の特徴である。

施文法 縄文は①と②があるが、前述したように両者の比率は7:3で①が多い。細い原体よりは、太い単節の原体が多い。R L原体は斜位押圧により条が縱走する例が定量ある(1・47・66・80・81・91)。L Rは原則とし

て横位押圧による斜縄文で、横走縄文は希少(37)。撚糸文(單軸絡条体第1類)はL(76-77・93-95)、R(2・20・118・131-138)と判断したが、93-95は細い原体R Lの縱走縄文、131-132は附加条第1種かもしれない。23も附加条第1種で軸縄にRを一本絡げたもの。附加条第2種が3点あり、何れもL RにRを絡げている(48-107・108)(注9)。

縄文原体の側面押圧がみられる(1・4)。1はR L縄文を肥厚させた口縁部Ⅰ文様帶の下端に沿って弧状に押圧し、頭部Ⅱ文様帶上端に1条、下端に2条押圧する。4は口縁部と文様帶の区画にL R縄文の側面押圧を入れ、Ⅱa・Ⅱ・Ⅲ文様帶を区画する。なお、同一個体に①と②を併用するものはみられない。

Ⅱa文様帶直下、Ⅲ文様帶上端(石川は「Ⅲa」文様帶とする[石川2001])はR L原体を斜位押圧することにより条が横走する例(1・47-80-82・85・86)が、斜走する例(84・87-89)よりも多いのが特徴(注10)。横走縄文は底部下端にもみられる(100-103)。また、この一群のⅢ文様帶はR Lの斜位押圧により条が縱走するのが一般的だが(47・80・81・91・92)、太い縄文は帯状にならず(47-85)、細い縄文(81・91・92)が帯状になるようだ。斜位押圧は②原体にはみられない施文法であり、Ⅲ文様帶上端や底部下端以外では縄文が羽状になることはない。太い縄文が用いられたからか、粘土の乾燥が進まないタイミングで施文されたからか、縄文が深くしっかりと付いている個体が目立つようと思われる。後に触れるが、これらの一派は山内清氏が指摘しているように[山内1964・1979]、本遺跡の東北系列の系統を考える上で極めて重要な要素である。

一方で②原体にしかないものとして無節縄文(38-104-106-109-114)と附加条第2種(48-107-108)がある。縄文とハケメが併用される例もみられる(31-75-88-96-98-128)。80はハケメというよりも条痕に近い施文具で頭部に縦ハケを入れるが、頭部の縦ハケは確認調査資料の図22-1・図23-1にも特徴的に入れる。

沈線文は太く深いものの他に、浅くて2本単位かと思われる例が目立つ(4-13-16-24-25-46)。2・3は3本同時ではないが3本の沈線を引く。

①ヘラ描沈線文のある一群(1-46) 1はR L、2はR撚糸文、3・4はL R、5は無地文である。地文は、口縁部は①(6-14-19)、②(15-18-20-23)・無地文(24-26)、体部は③(27-35)、④(36-39)、無地文(40-46)である。16・24・25・48は2本描沈線文。10・11・12・19-23はⅠ文様帶下端に刺突列を入れる。器種には壺・甕があるが、壺が主体となる。

代表的なものだけに説明を加えよう。

1は口径約30cmの大形の壺。本遺跡ではほぼ全形がわかる唯一の精製土器である。肥厚したI文様帯は下端部を下向きの連弧状とし、全面にRL横走縄文を施文後、下端部には形状に併せて連弧状に側面押圧1条を入れる。そして下端部には棒状施文具で下から上へ刺突を入れる。頸部IIa文様帯は縱走縄文を施文後、I文様帯肥厚部直下(IIa文様帶上端)に連弧状の側面押圧を1条、さらに文様帶下端に2条の側面押圧を入れる。II文様帯は浅い沈線で双頭渦文と台形文に由来する文様(仮称円台形連続文)を入れ、縄文が充填される。復元された部分が多いが、6単位に復元されている。その下には2条の平行沈線を入れ、III文様帯は最上部のみ横走縄文、体部は帯状の縱走縄文となっている。原体はRLであるが1段の縄の太さが異なり、細・太2種類が用いられる。II文様帯に入れられた文様は、秋田県はりま館遺跡など(図26-46)、IIa文様帯に重要形文を入れる土器のII文様帯の様々な構図の一つとして入れられる円台形連続文に由来する。円台形連続文は、円形と台形が組み合わされた文様で砂山遺跡の壺形土器の肩部に入れられた構図(図26-7)なども同系統であるが、Iの構図は円形と台形に上下に分離してできたものと考えられる。

2は肥厚したI文様帯、無文のIIa文様帯、III文様帯からなる壺。地文に格条体R斜位に施文する。I・III文様帯には3本の沈線で振幅の大・小の鋸歯文を入れる。口縁部には突起が付き、口縁端部にはキザミを入れる。

3はRL地文のIII文様帯に3本の上向き連弧文を入れる壺。連弧文の施文方向は左から右、施文順位は右から左。その上に2条の平行沈線を入れるが、II文様帯に沈線文様を持たない。体部下半はヘラナナ。

4は3・5と同じ文様帯構成を持つ壺もしくは広口壺。やや内湾する口縁部に4か所の突起を持つが、1か所のみ山形、他の3か所は山形の頂部を削む。I文様帯下端、IIa・II・III文様帯間にRL側面押圧を入れる。III文様帯上端には先端が2本(上が広く、下が狭い)になった施文具で上向き連弧文を入れ、その下にはLRの斜縄文を施文する。

5は無地文でIII文様帯に先端の平たい施文具で上向き連弧文を入れる壺。3に似る器形で、文様帯間を2条の沈線で画する。

3~5はヘラ描沈線文を持つとは言え、IIa文様帯を無文とし、III文様帯上端に上向き連弧文を入れるだけの半精製土器とでも言うべき例。3・5は壺、4も同じ文様帯構成なので壺とするよりは広口壺とするべきであろう。なお、35は小形壺である。

②沈線文様のない一群(47~140) 前述したように①、⑧の順で図示した。①(47・49~103)、⑧(48・104~140)である。單節縄文以外では、76・77・93~95が縦条体L、104~106・109が無筋R、48・107・108がLR+R附加条第2種、118・132~138が縦条体Rである。109はLRとRを併用している。器種には壺、壺があり、台部が1点ある。60・80・81や90など頭部がすぼまるものは壺になろう。66~68は広口壺の口縁部であろう。

壺・広口壺の口縁部は無段・有段のものがあり、その順で図示した。口縁部を有段としない無段の例が多いのも本遺跡の特徴と言える。①は無段(47・49~64)、有段(65~79)、⑧は無段(48・104~111・114)、有段(112・113・115~123)である。口縁部が内湾するものは有段のものが多く、伸長するものは無段のものが多い。平口縁が一般的だが、小波状となる例(50)もある。頭部は原則として無文であるが、無文としない48は口縁部と体部で施文方向を変えている。口縁部内面にも縄文を施するものは48・65・69・109・110・122である。

47・48は縄文原体は異なるが、口縁端部を強くて平坦にし、内側につまみ出す点が酷似する。109も頭部を横方向にナデ、口縁端部をやや厚くしている。RLのみIII文様帯上端(III文様帯)に横位もしくは斜縄文を施文する例があることは前述した。また、口縁部I文様帯に縄文を縱走させる例はRLに限られる(47・59・66)。

#### B折衷系列(図10-141~図11-182)

口縁部の横ナデが不明瞭なもの、北陸系の器形であるながら、縄文を施文する例(148~150)を本群とした。器種には壺、壺がある。

縄文施文土器以外の器面調整はハケメカナデが基本。141・142は口縁部内外面を横ハケで調整する例。143・147・151は内湾する口縁部と筒状の頭部を有する広口壺。器面調整も細かいハケメ・ナデで共通している。143は肥厚有段口縁に、中央にキザミを入れた突起と片口が1か所ずつ残る。有段口縁下端には棒状施文具による刺突列を入れる。151は内湾肥厚する有段口縁端部と肩部にヘラキザミ(刺突列)を入れる。外縁ハケ、内面は横ハケである。肩部のヘラキザミは壺には一般的だが、壺では稀。折衷土器故であろう。147は内湾する口縁部に筒状の頭部を持つ。口縁部の横ナデが不明瞭で、口縁部が平坦ではないこと、さらに143同様に筒状に直立する頭部を天王山式系の影響と考えた。

144~146は口縁部の横ナデが不明瞭で、口縁部に縦のキザミを入れたり、肩部に刺突列を入れたりする。肩部の刺突列は北陸系土器にも見られるが、口縁部に縦のキ

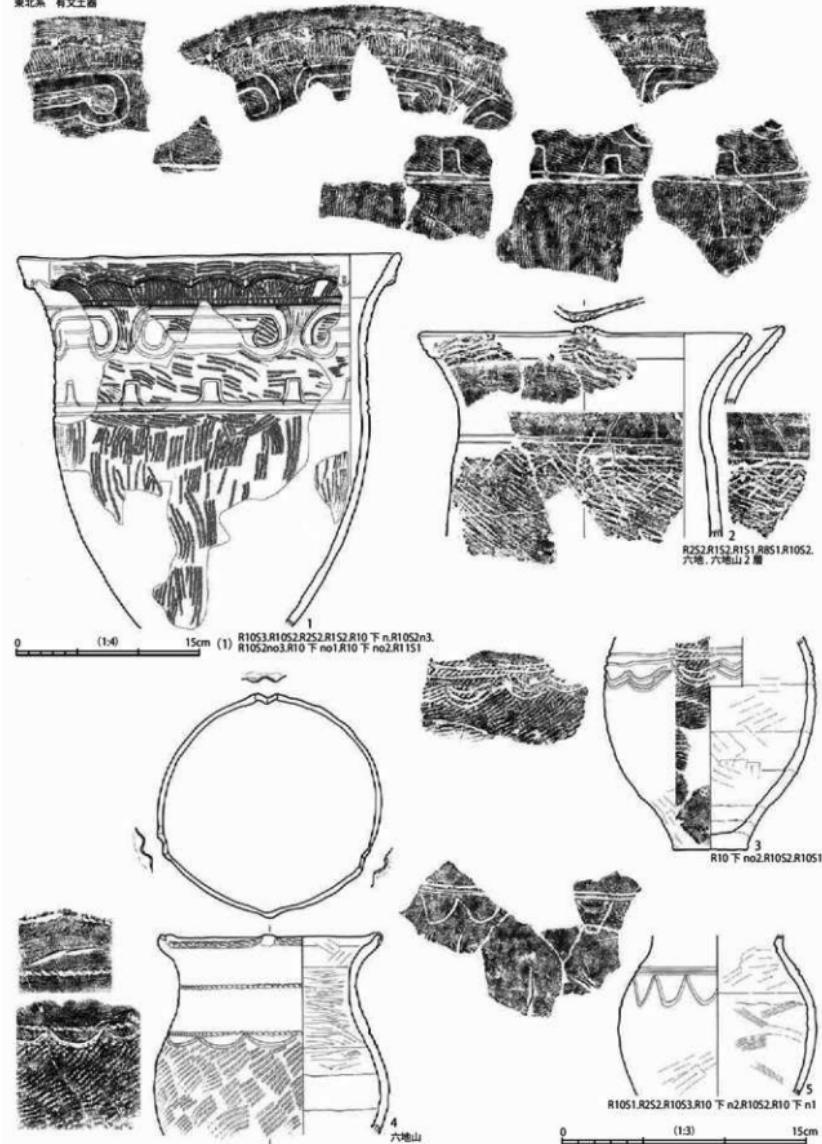


図6 六地山遺跡遺物実測図 (1956年発掘調査資料1)

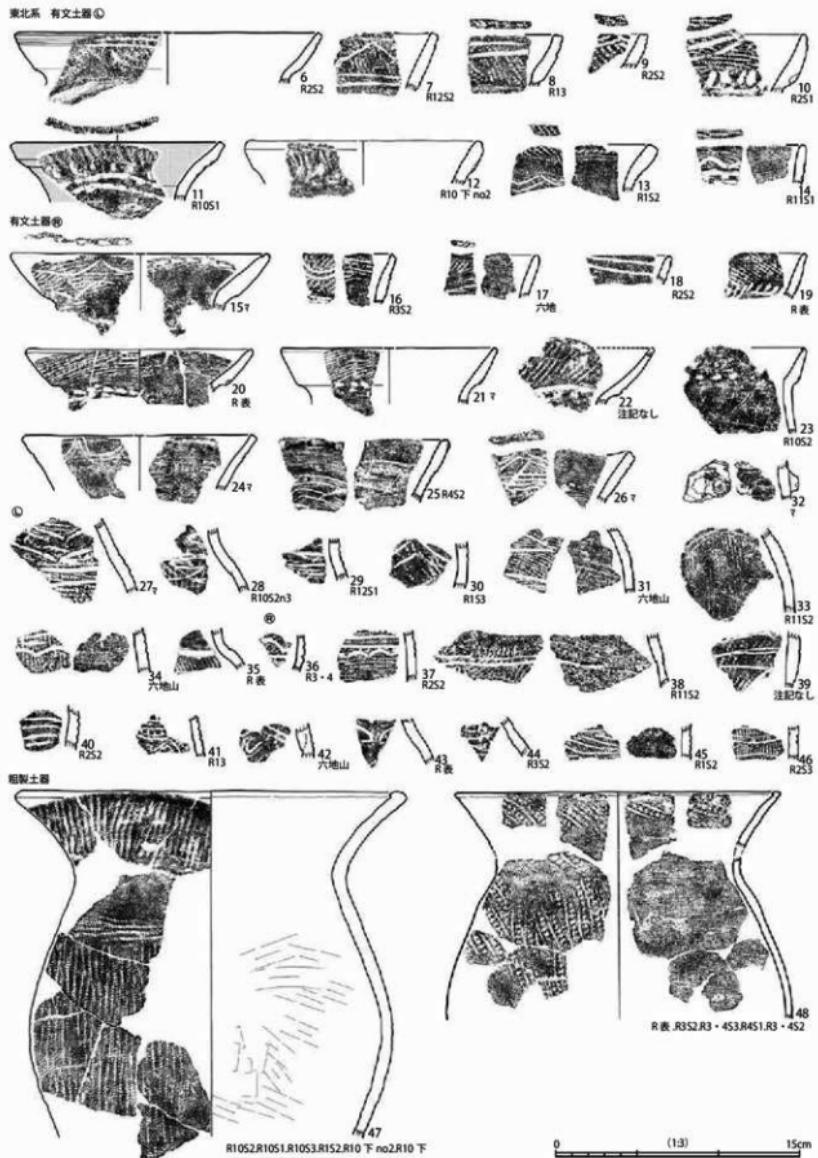


図7 六地山遺跡遺物実測図 (1956年発掘調査資料2)

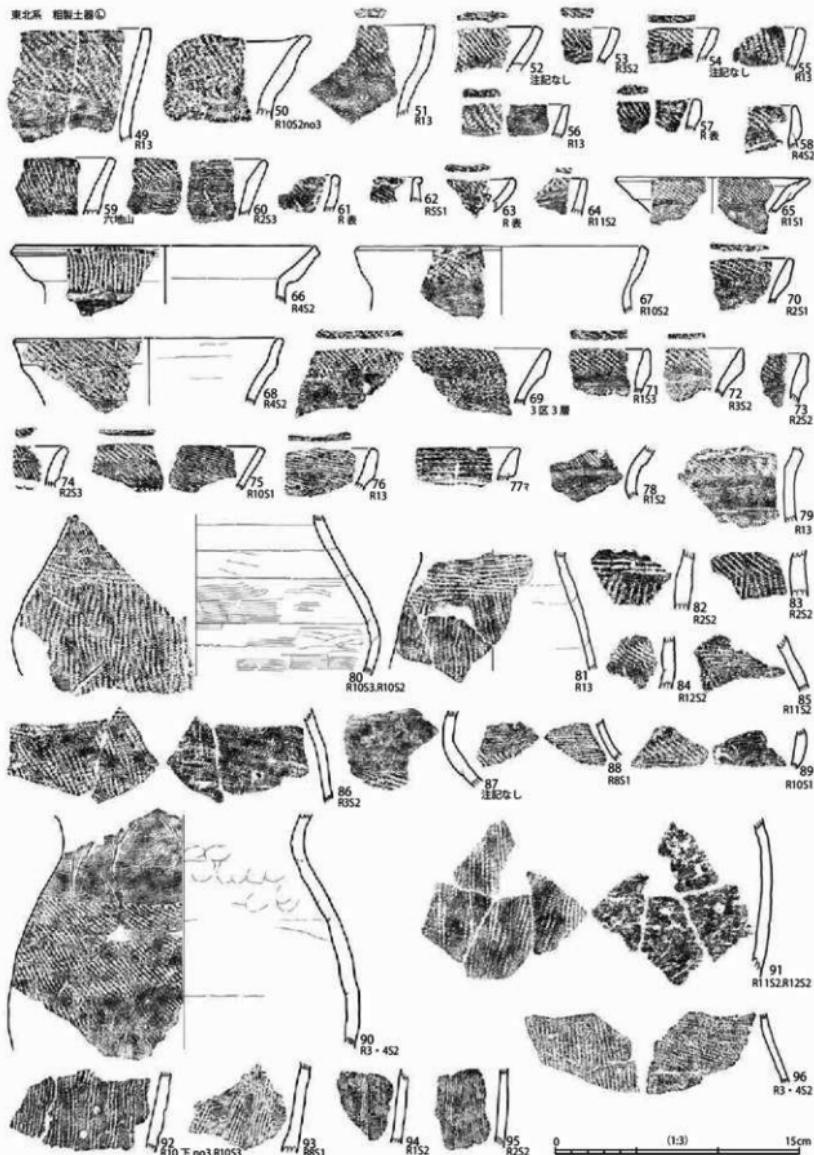


図8 六地山遺跡遺物実測図 (1956年発掘調査資料)

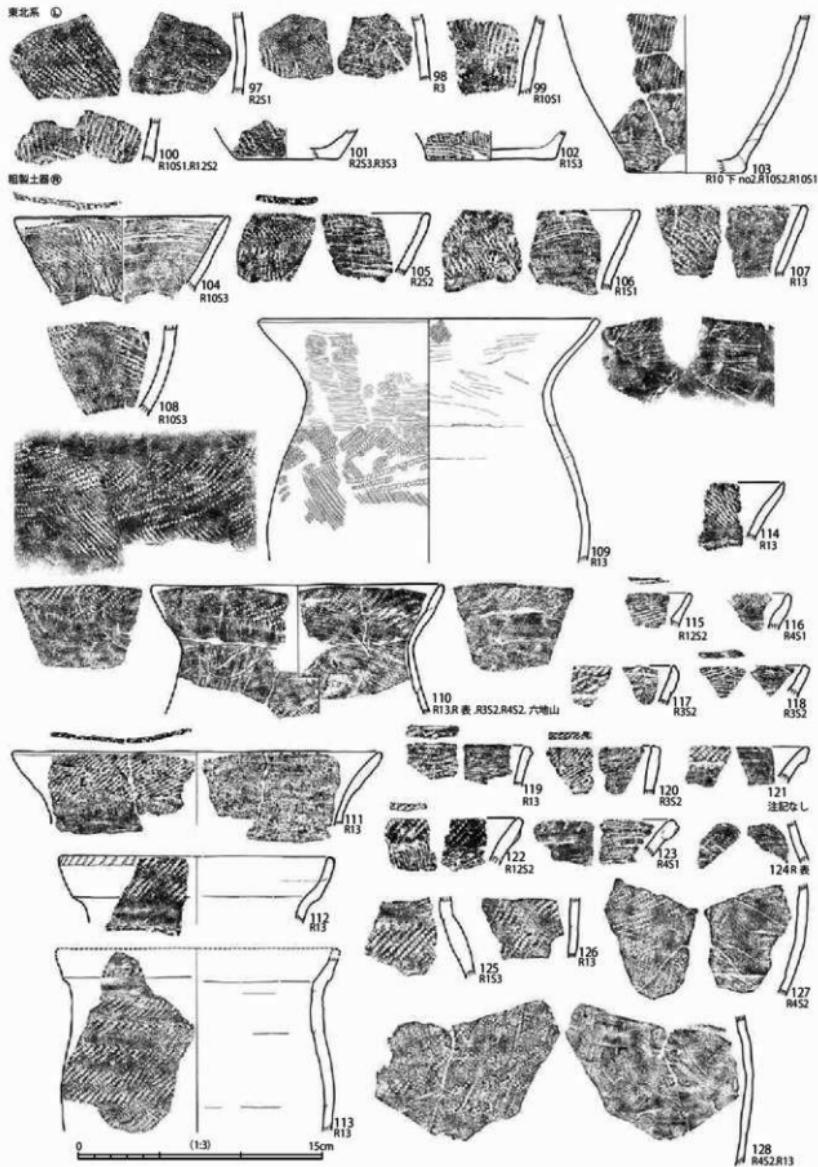


図9 六地山遺跡遺物実測図 (1956年発掘調査資料4)

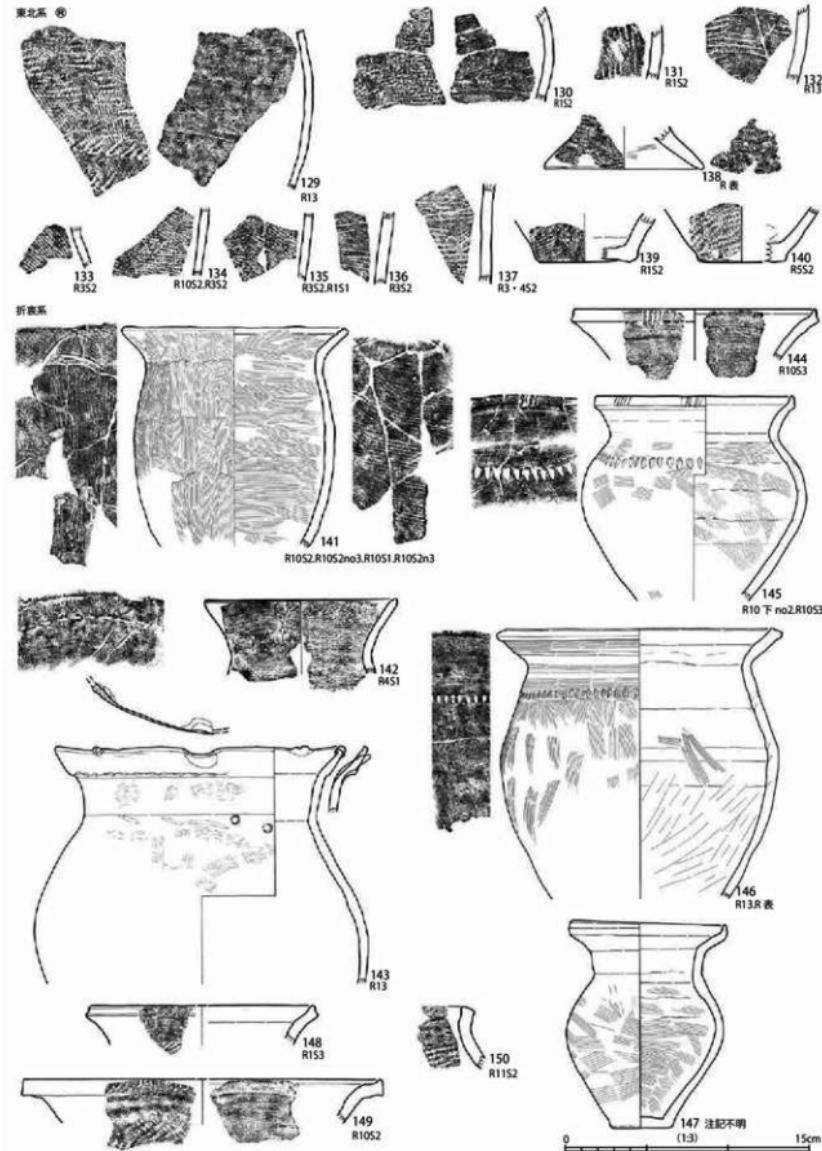


図10 六地山遺跡遺物実測図 (1956年発掘調査資料5)

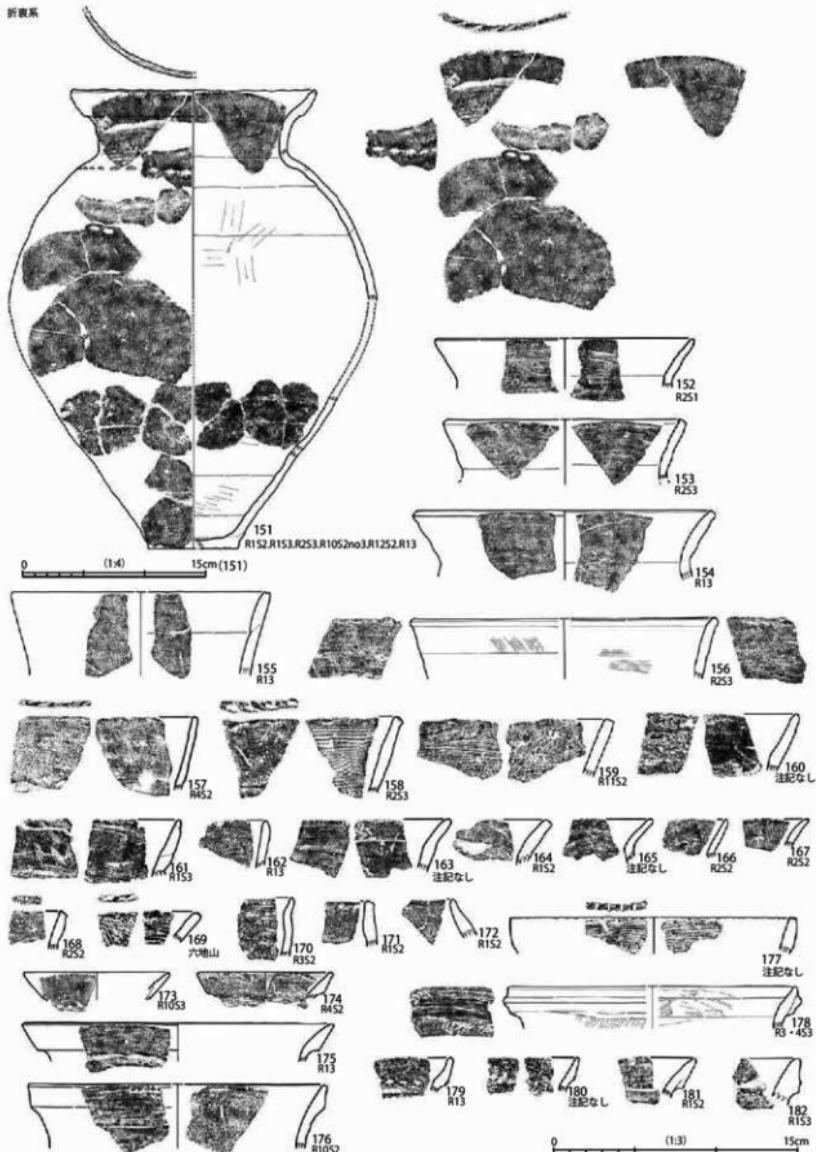


図11 六地山遺跡遺物実測図（1956年発掘調査資料6）

ザミを部分的に入れる例はないことから折衷系列とした。144・145は口縁端部をつまみ上げ、口縁部形態は後述するD北陸系列①いわゆる付加状口縁壺の口縁部形態に類似するが、有段部に4・5本の鋸い施文具で縦のキザミを部分的に入れている。146は口縁端部を内傾させるもので、全体部中位に最大径を持つ例。後述するD北陸系列⑤頭部がくの字状に括れる壺とした239と器形が類似する。口縁部の横ナデが不明確であること、器面調整から本群とした。

148～150は口縁端部がナデにより面を持ち、形状は後述するD北陸系列⑤頸部がぐの字状に括れる壺とした例の口縁部形態に類似する。いずれも、L R斜罫文を施文し、148・149はハケメと併用される。

口縁部が無段で肥厚しないもの (152 ~ 172)。調整はハケメ・ナデなどで一定ではない。端部にキザミ・刺突を入れるもの (157 · 158 · 168 · 169)、面を持つもの (153 ~ 156 · 159 · 164) などがあるが、小破片が多い。

口縁部が有段で肥厚するもの(173~182)であるが、様々なものを含んでいる。173・174は小形の壺であろう。173・179は口縁部下端に刺突列を入れる。

#### C その他系列 (図12-183~205)

系統が不明確なものを一括した。

①ハケ・櫛状施文具で直線文・刺突列点文を入れるもの  
(183-186・189-192) 183は外外面に粗い横位のハケメを入った後、頭部に刺突列と5条程度の直線文を入れる。184は広口壺。184は5~6条の波状文、185・186は体部上半に波状文を入れたもの。185は4条の直線文と波状文を入れる。186は2本描波状文で櫛ではない。在地的なものか。189は刺突列点文、190は肩部に6条程の直線文と刺突列点文を入れる壺で、内面ナデ調整。近江系として良い例であろう。

②2本描施文具で直線文・鋸歯文を入れるもの (187-188) 図6-2に近いものであろう。

③同心円文を入れるもの (193) 壺体部上半に幅の狭い沈線で同心円文を入れる。体部上半に同心円文を2重ないし3重に描き、その上には同心円文に沿って下向きの連弧文を2条入れる。内面調整に指頭押圧などが觀察されるので、最上部で直径10cm未満の窓であろう。

④先端が2つに割れた幅広の施文具で、刺突列点文・波状文を入れるもの(194~200) 195~200は同一個体で、器種は広口壺か甌と推察される。色調が違うので194は同一個体であると断定できないが、施文具はよく似ている。同一個体ならばもう少し肩が張るのかもしれない。

物系總

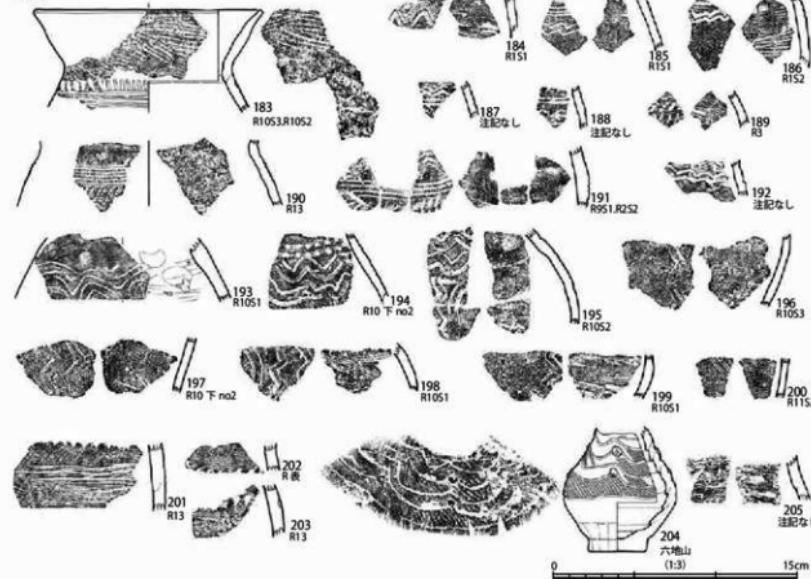


圖12 六塊山遺跡遺物實測圖（1956年發掘調查資料7）

194・195は肩部には横位に波状文、肩部以下には縦位に波状文を入れる。波状文は弧線状で、上向き・下向きの連弧文を交互に入れているようにもみえる。縦位の波状文も弧線文の組み合わせのようにみえる部分がある。194は最上部に同じ施文具2本で横位の刺突列を入れる肩部破片。197・200は直線的な破片で体部下半の破片である。垂下する波状文は新藝術とみれば、青森県大石平遺跡・石動遺跡・富山県下老子能川遺跡など天王山式以前にみることができる。

⑤その他(201～203) 同一個体で201は横位の条線上に横位に刺突列を入れる。202は破片下端に横位の刺突列があるもの。

⑥小形壺(204) 頭部から上を欠損するが、その他は完形の現存高7cm程の小形壺。体部最大径に横位の沈線文を入れ、その上半を文様帯とし、体部下半は無文としている。文様は崩れた上向きの連弧状の沈線を4単位に4条程度入れ、連弧文の頂点2か所に刺突のある円形浮文を貼付する。文様帯部分には沈線施文後に、無節Rを横位に充填する。細頭壺になりそうな器形、上向き弧線文や刺突のある浮文などから推察すると、施文具は異なるが、油田Y期土器〔中村2011〕などに関係するものか。同様な小形土器は福島県和泉遺跡や能登遺跡にもみられるので当該期のものと考えられる。出土地区は不明。

⑦振幅の小さな多条の波状文を入れるもの(205) 箱清水式か。

#### D 北陸系列(図13-206～図16-329)

壺(206～273)、壺(274～291)、高杯・器台(292～311)、底部(312～329)がある。

本遺跡の壺は口縁部下端及び有段部にヘラ・ハケによるキザミ・刺突列を入れるものが多いことが特徴として指摘できる。

#### 壺(206～273)

①いわゆる付加状口縁壺(206～220・223) 206・207は口縁部が断面三角形で内傾し、擬凹線文・凹線文を入れる。共に再整理によって破片が接合し、口径の復元、体部内面の調整がわかるようになった。断面形態は207が208に比べシャープな作りになっている。207は体部内面を薄くケズり調整するが、206は屈曲部まで、207はハケメの後にヘラケズリするが、屈曲部までは削らない。207は戸水B式、206は猫橋式に位置づけられる。208～211等も口縁部が断面三角形で内傾しない直立する例。208・211・212は口縁部下端にヘラキザミを入れる。内面を削るものは206・207以外には少ない。B折衷系列とした144・145・148・149等の器形は近い。

②有段口縁壺(221・222・224～231) 有段部が無文のも

のよりもヘラ状施文具のキザミや刺突列を入れる例が多い。キザミにも様々な種類があり、B折衷系列に入るべきものもあるかもしれないが、区別がつかない。

③有段口縁擬凹線壺(232～234) 外観するもの(232・233)、直立気味に立ち上がるものがある(234)。232・233は端部を丸くおさめる。234は小破片で端部は欠損するが比較的の厚みがある。232は胎土が精良なので、壺か器台の可能性もある。本遺跡の有段口縁壺で口縁部が伸長するものは少ない。

④いわゆる近江系受口状壺(235～238) 235・236は形態が237に似るのでここに入れたが、頭部がすぼまるので壺とすべきかもしれない。238は端部に面を持ち有段部下端にはキザミを入れ、内面は体部下半を削る。

⑤頸部がぐの字状に括れる壺(239～264) 端部をつまみ上げ、①付加状口縁壺との区分が曖昧なものも含む。口縁端部が面取りされるものは、内傾するもの(239～245)、直立するもの(252～254)、その中間的なもの(246～251)がある。口縁端部が丸く面取りされていないものもあるが(251・255～262)、口径が小さいものが多い。

265～273は肩部のヘラキザミがある例で、施文具には様々なものがみられる。239の器形はB折衷系列146に類似する。

#### 壺(274～291)

頭部がすぼまる器形を壺としたが、器形がわかるもののが少ない。器形がわかるものとしては広口長頭壺(279・280)、広口短頭壺(278)がある。口縁部形態は有段口縁・無段口縁があるが、有段口縁が多い。278は内外面ミガキで赤彩された例。289は口縁有段部の内外面に備び波状文を入れ頭部に三角形突帯を付けた。備び波状文の原体は多条で細かい。281も頭部に突帯を付け、ヘラキザミを加える。290は肩部にヘラキザミを入れるが壺としては希少な例。B折衷系列とすべきかもしれない。291は有段二重口縁で内面にも段を持つ。器壁が厚く大形のもの。274～277は②有段口縁壺との分別が難しい。

#### 高杯・器台等(292～311)

口縁部が有段で外観する高杯(292～300)。有段部が強く外傾し伸びるようなものはみられない。

296の小形高杯は全形がうかがえる唯一の例。器高6.3cmのミニチュア土器である。杯部は有段で直線的に立ち上がり、棒状脚に無段の裾部が付く。端部は一か所のみ縦のキザミが8条程度付けられ、杯部の屈曲部、脚端部にもヘラキザミを入れている。さらに、杯有段部以外には縦ハケを残す稀有な例。縦のキザミはB折衷系列とした壺144・145と同じ手法なので、B折衷系列に区分すべきかもしれない。

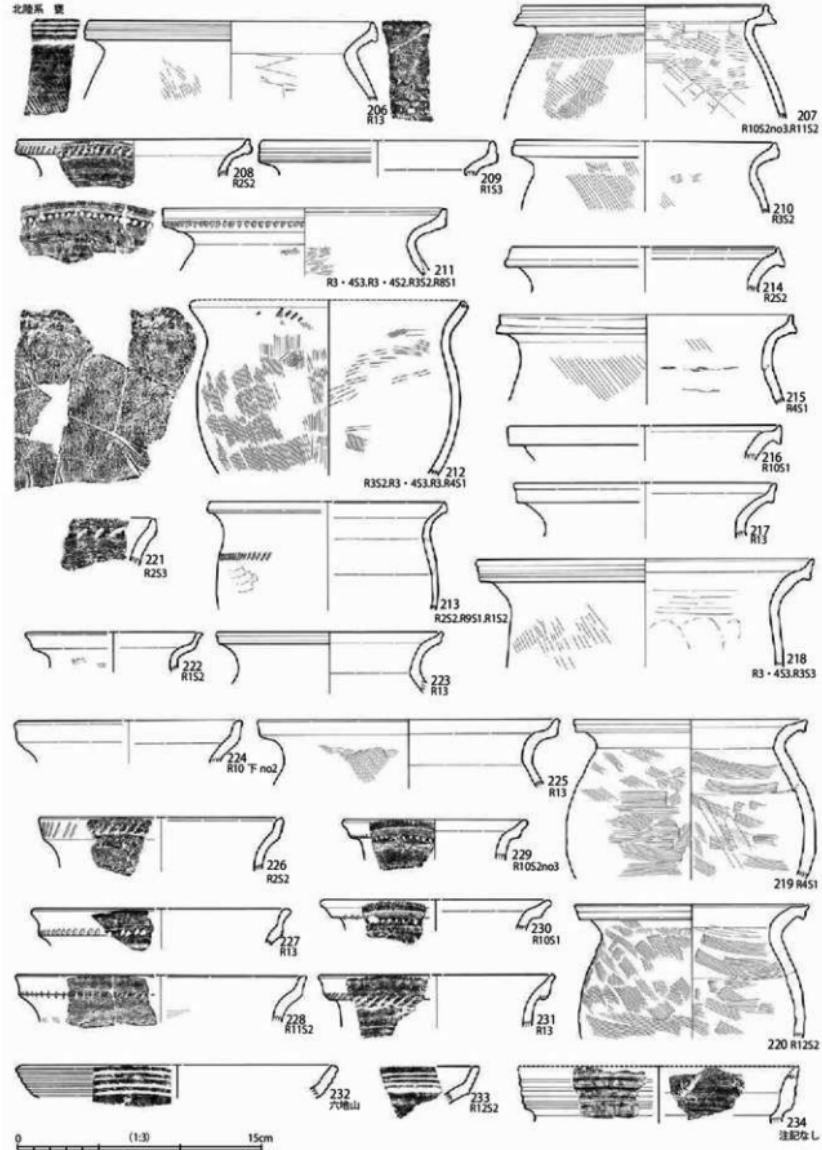


図13 六地山遺跡遺物実測図 (1956年発掘調査資料8)

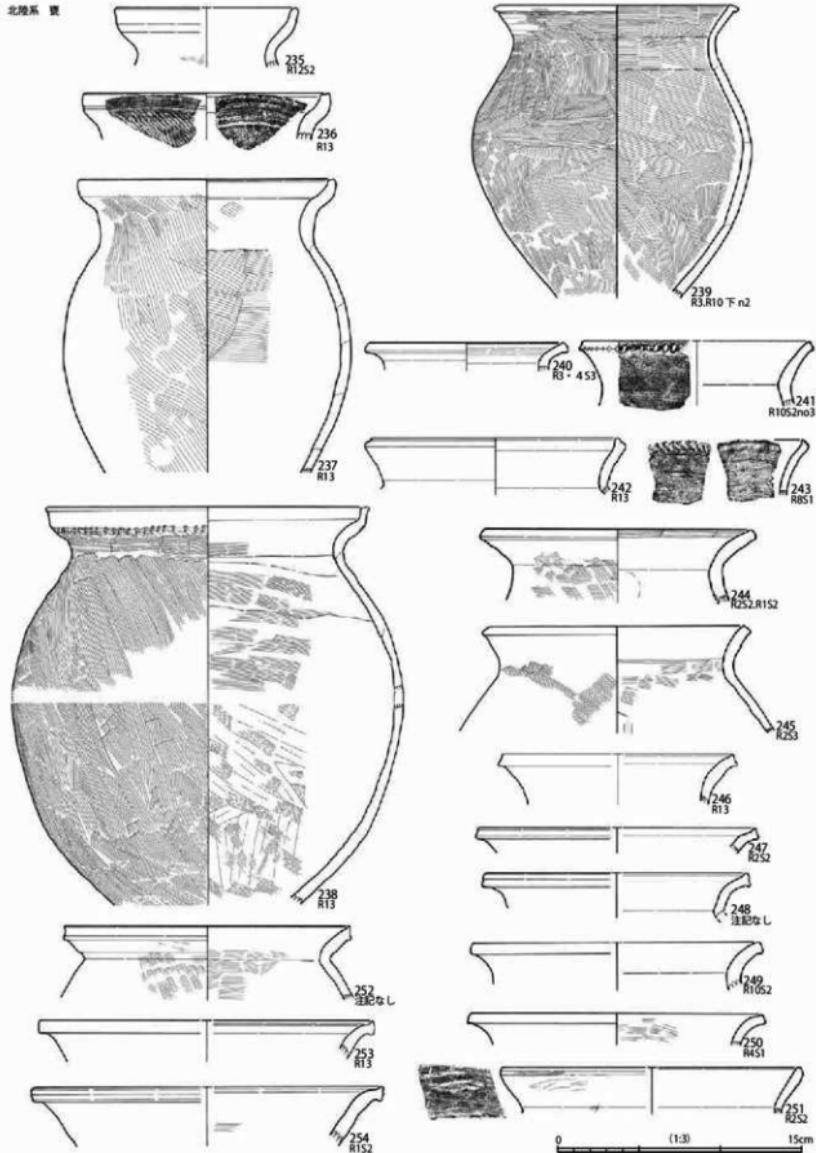


図14 六大山遺跡遺物実測図（1956年発掘調査資料9）

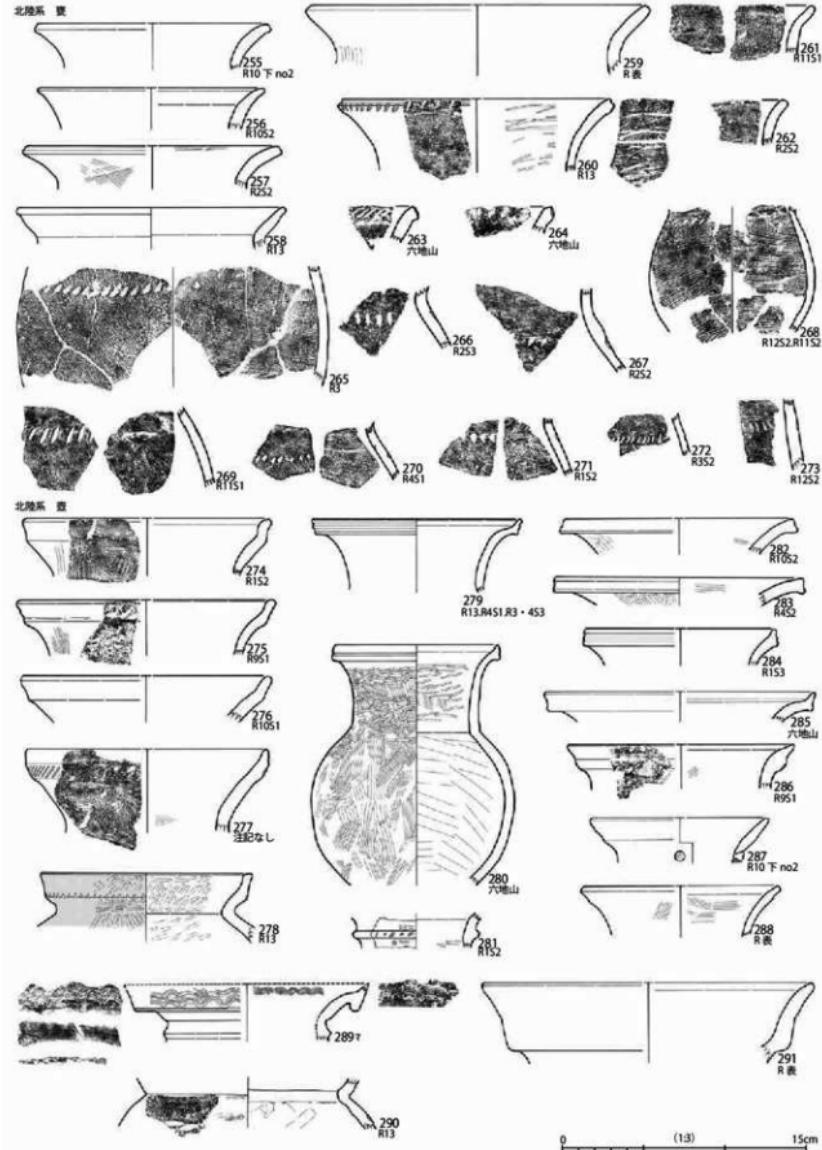


図15 六地山道路遺物実測図 (1956年発掘調査資料10)

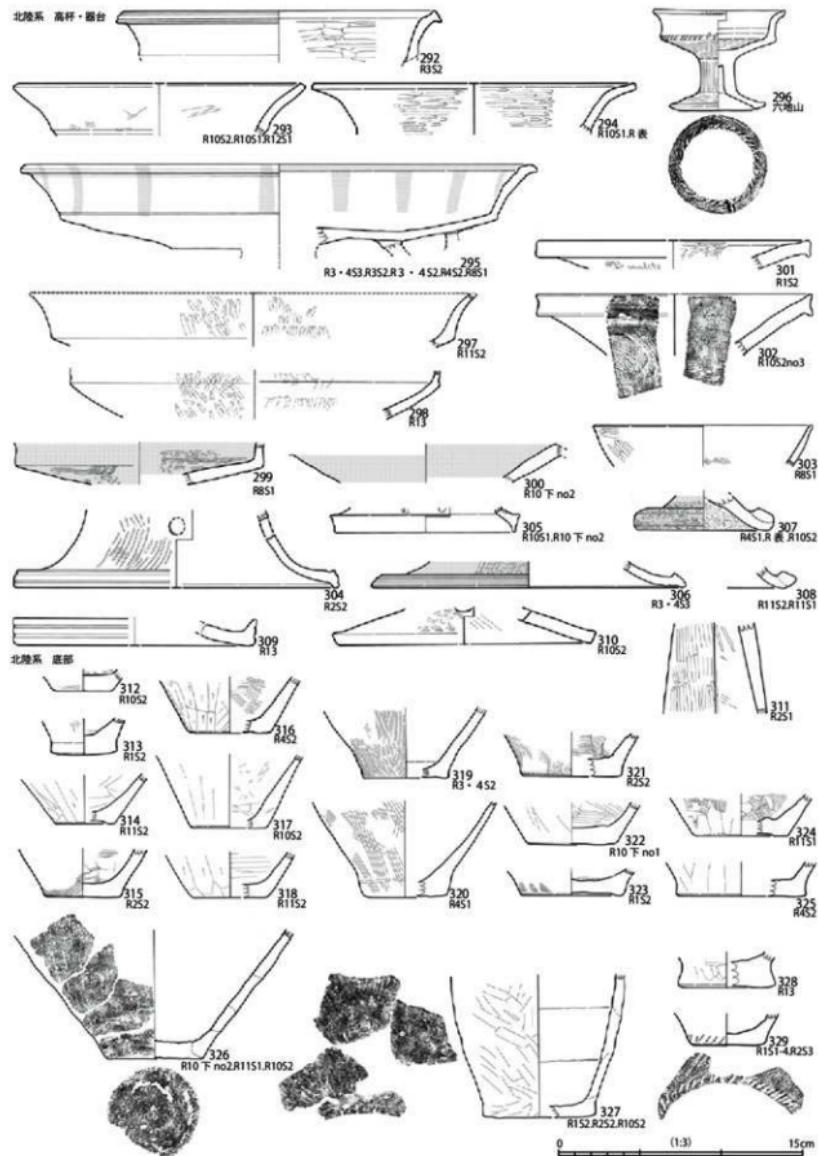


図16 六地山道路遺物実測図 (1956年発掘調査資料11)

292 ~ 294も296に類似する形態で口径20cm未溝の杯部、292は断面三角形の縁部に擬凹線を入れる。299は内外面赤彩された高杯部で屈曲部が直立する例。屈曲部が外に張り出さないことから、石川県中能登町大槻3号墳出土高杯〔谷内尾1982〕に近い形態になろう。295は口径30cm以上の大形高杯で、杯部に環状把手の痕がある。また、杯部内外面に横帯・縦帯の赤彩がみられる。

受部が無段の器台(301・302)。302は外面にハケメを残す。310のような脚部が想定される。

縁部が有段の脚部(303 ~ 309)。304 ~ 306は器台、308は高杯脚部になろう。307は内外面ミガキで、外面を赤彩する小形で器壁の厚いもの。脚部内部を磨く事例は稀であるが、B折衷系列の可能性も考えて脚部とした。また、309は摩耗していて器面調整がわからない。脚部と考へて図示したが天地逆の可能性がある。311は棒状脚。303は杯部か鉢かわからない。1956年発掘調査資料には明確な有段口縁鉢や蓋はないようだ。

312 ~ 329は底部。312 ~ 325はD北陸系列、326・327・329はB折衷系列であろう。329は底部外周にヘラキザミを入れている。

D北陸系列とした土器群の編年的位置についてここでまとめておこう。本遺跡出土土器の特徴としては、田嶋編年の2~1期(法式)に位置づけられる古津八幡山遺跡SX1004〔渡邊2001〕のように口縁部が伸長するものはないとの断言できる〔植1996〕。時期的に2期以降に下る可能性があるものとして、擬凹線に入る294があるが、

有段部の厚みがあるので2期以降に下げる必要はないと思われる。1956年発掘調査資料では臺形土器の291が唯一2期以降の可能性がある資料であろう。県内で1期の明確な資料としては糸魚川市後生山遺跡3号住居など少なく、下越では長岡市五千石遺跡などが知られるだけであるが、本資料を、従来の編年観でみると、田嶋氏の2期よりも古いV-2~3期(猫橋式)以前を主体とする時期と考えられる。県内では類例に乏しい時期であり比較することが難しいが、V-3期と考へる古津八幡山遺跡第13次調査TSD03S10〔渡邊2004〕と同時期か、それよりも古い戸水B式(207)も含むから、V-1期~V-3期を主体とする時期と考えておきたい。

#### (4) 上原甲子郎氏資料及びその他の資料

図17-1~26)

『弥生式土器集成編2』〔上原・磯崎1968〕と、概ね同じ上原氏提供資料を載せる『内野町誌』〔武田1960〕、及び現在所在不明の資料を掲載する〔NKH〕Vol.2-No.4〔中村1960〕から組み替えて転載した。A東北系列(1~17・26)、Cその他系列(22~24)、D北陸系列(18~21)である。

A東北系列の1~9は①、10~11・14・15・16は②で、6・15は節縄文、16は格条体を施文する。結節縄文は発掘資料では希少な例である。12・13はハケメ地文か。発掘資料と比較すると有文精製土器が多いが選んで掲載したからであろう。3はR Lの横走繩文・縱走繩文を地文に、2本双線で上向きの連弧文を入れており、両者の



図17 六地山遺跡出土遺物(既報資料)

同時性を示す重要な資料。口縁部を肥厚させる例も多く載せるが、4のように内溝するものから6・7のように長く伸びる例まである。ハケメ地文の12は肥厚部下端に横位の沈線を引き、縦のキザミを入れるもので、岩手県兎II遺跡などに類似があるものであろう。L R繩文を入れる10も同じ技法か。13は内溝する口縁部で頂部にキザミを入れた突起を付ける。本遺跡では平縁が多く、波状口縁や突起を付ける例は少ない。図6-4や図10-143のような突起であろうか。繩文が施文されないのでB折衷系列とすべきかもしれない。

26は底部に4か所の突起を付けR L繩文を施文するものであるが、現在所在がわからぬ。記載がなく推測の域を出ないが、垂下する沈線文が引かれ、底部に繩文が施文されているようにみえる。

D北陸系列の18はやや内傾する断面三角形の口縁部に3条の擬四線文を入れている。図13-206と酷似するが、くびれの角度が異なるから別個体か。20・21のキザミ・刺突列はB折衷系列に分類すべきかもしれない。Cその他系列とした22は4条の櫛描直線文・波状文・刺突列点文、23は4条櫛描直線文・波状文を入れる例で、近江系の可能性がある。24は2本描波状文を入れ、その上に直線文を入れる例であるが在地化したものであろう。施文具は図12-185・186に近い。

25は土製紡錘車。横位に櫛状施文具による刺突列を入れた例と推察される。「土製品には紡錘車が二例あり、内一個には土器と同様の繩文が施してある」(上原1954)とした紡錘車に該当する可能もあるが、そうであればR L繩文の縦位施文ということになる。

#### (5) 真島衛氏採集資料(図18-1~34)

「六地山 1960 8/2」と書かれた紙箱に入っている。ほかは全ての土器片には朱墨で「六地山」と注記されている。1956年の発掘調査以前から表面採集に訪れていたと推察されるが、それらの資料は前述したように現在長岡市立科学博物館所蔵資料の「マ」と注記された資料が該当するであろう。なお、真島氏資料中には石器等の石器は見つけられなかった。A東北系列(1~16・19~29)、B折衷系列(32・33)、Cその他系列(17~18・34)、D北陸系列(30~31)である。

A東北系列の1~5は沈線のある精製土器で5が⑧であるほかは⑨。1は波状口縁、3・4は壺である。繩文のみの個体は6~19が⑨、20~29が⑩である。21は口縁部にのみL Rを施文する。24・29は縦条体R、内面にも繩文を入れる25はL R+R附加条第2種である。D北陸系列の30・31は壺と壺。B折衷系列の32・33は口縁部の横ナデが不明瞭な例。Cその他系列の17~18は縦繩

文土器もしくはその模倣品、底部にR L横走繩文を施文した19もその可能性がある。34は2本描施文具で弧線文とコンパス状の波状文を入れる。

真島氏資料は発掘調査資料と同様に①が多い。また、発掘調査資料と明らかに同一個体とわかるものがあり、25は図7-48、34は図12-195~200と同一個体と考えられる。

#### (6) 金塚友之亟氏採集資料(図19-1~30)

現在、新潟市歴史博物館が所蔵している資料である。「昭和28年から29年にかけて精密に六字山を踏査した」(金塚1966)と記載があるので、その頃に採集したものであろう。

A東北系列(1~13・18~24)、B折衷系列(25~28)、Cその他系列(14~17・29・30)である。

A東北系列の1~7は沈線文様のあるもので、1・2は①、6・7は⑧。7は2本描の細い沈線で上向きの連弧文を書いているがⅢ文様帶上端であろう。8~13(①)、18~24(⑧)は繩文のみのもの。①は縦走繩文が目立つが、11は節が細長いので0段多条の可能性がある。19~20は同一個体でハケメと縦条体Rを併用する。図7~47や48のような斐形になるものであろう。21は縦条体R附加条。23は結節があるもので本遺跡では希少例。

B折衷系列の25・26は内外面横ハケで口縁端部を平らにする。28は波状口縁の端部にヘラキザミを入れる例。

Cその他系列の14~15は統繩文土器で、14は幅2mm、15は幅1.5mmの沈線に沿ってR L繩文を横走施文する。帯繩文は節が細かい0段多条で、繩文と沈線の切合の関係は沈線が後である。内面は黒色を呈し丁寧なヘラナデ。同一個体の可能性が高い。16~17も沈線に沿ってR L繩文を施文しており模倣品と考えた。29は2本描波状文、30は肥厚する口縁部に鋸歯文を入れる。

金塚資料及び真島資料中に統繩文土器及びその可能性がある資料が確認された。隆背を持たず、沈線に沿って繩文を施文する手法は「帯繩文系」後北C I式に相当しよう(大坂・福田2005)(注11)。本資料によって「NKH」Vol2-No4(中村1960)で報告され、現在は所在が確認されない「底部破片ではあるが底部角に四箇(中1欠)の突起を附している」土器(図17-26)も併せて評価をすることが可能になったと言える。端的に言えば、日本海を介して東北北部や北海道との流通をうかがうことができる直接資料として重要と考えられる。

#### (7) 1982年発掘調査資料(図20-1~47)

「六地山遺跡-1982年発掘調査を中心に-」(甘粕・小野はか1986)から弥生土器を再実測した。A東北系列(1~10)、D北陸系列(11~47)である。

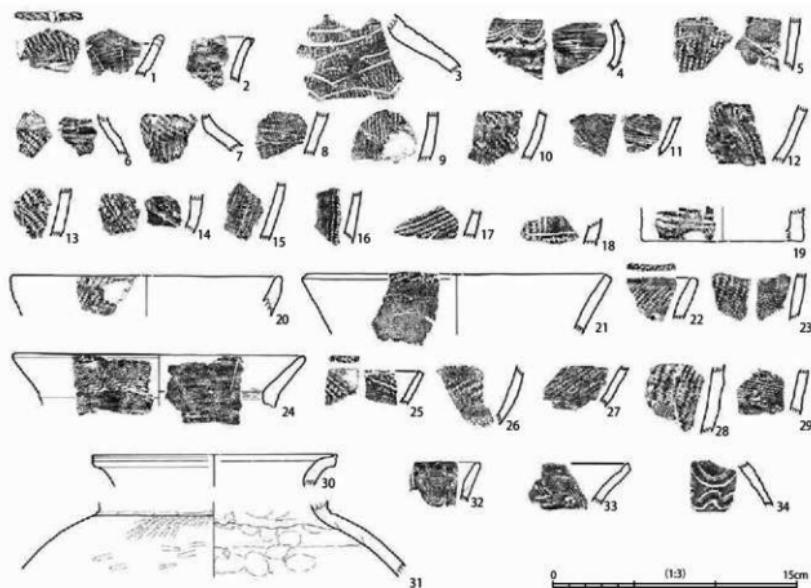


図18 六地山道路遺物実測図（真島衛氏採集資料）

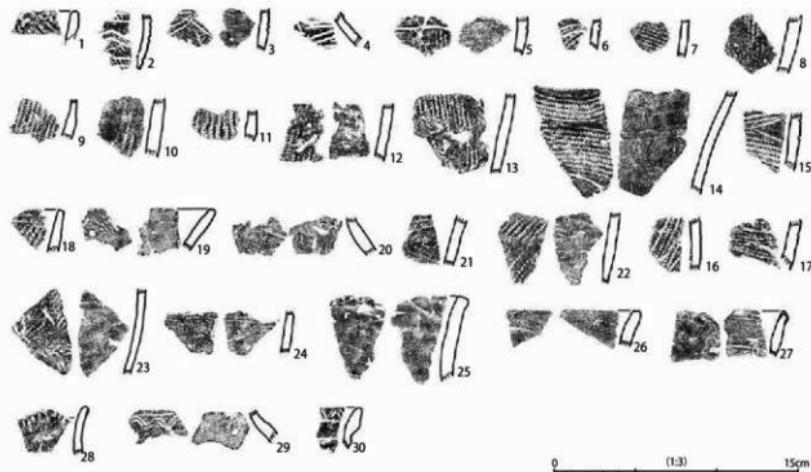


図19 六地山道路遺物実測図（金原友之彦氏採集資料）

A東北系列の1～3は①、6～10は②で6は絶条体R、10はLR横走縄文である。1は肥厚有段口縁部に上向き連弧文、4はハケメ地文に上向き連弧文、5は2本施文具で平行沈線文と鋸齒文を入れる。図12-187・188に類似するものであろう。

D北陸系列の11～28・33～37は壺、29～32は壺、38～41は高杯・器台、42～47は底部である。23～26はくの字状口縁部の壺。壺の29・30は口縁部にヘラキザミを入れる例。31は有段口縁、32は無頭壺である。

36・37の肩部のキザミは爪状・長いヘラ状施文具で、D北陸系列ではみないので、D折衷系列とすべきかもしれない。

#### (8) 2006年確認調査資料(図21-1～17)

調査地区は1956年発掘調査地点の東側で、概ね1984年発掘調査の1・2・3・4トレンチに囲まれた範囲である(図3)。確認調査により1～12トレンチの面積約22m<sup>2</sup>から出土した。この区域は遺物包含層が残っていたことから現状保存の取り扱いとなった。出土遺物は、A東北系列(1～7)、Cその他系列(8)、D北陸系列(9～17)がある。

A東北系列の1はハケメ地文、2～6は①、7は②である。1は肥厚した口縁部を外側へ伸長させる。口縁部は平坦ではなく緩やかな波状を呈し、器形は図6-1と類似する壺もしくは広口壺になるものと思われる。外面の肥厚した有段部及び内面は横ハケ、頭部は縱ハケを地文とする。頭部の縦ハケは図23-1も同様。I文様帯には幅4mm程の2本施文具で上向き連弧文もしくは波状文、同じ施文具で文様帶下端には右上から左下に刺突列を入れている。II文様帯にも同一の施文具で上向き連弧文を描き、下端にはハの字状の交互刺突文を入れる。2は内湾する口縁部に縱走縄文を入れる例で、端部にも施文される。3は肩部に斜縄文を入れるもの。斜縄文の上には縦文施文後になで消された痕跡がみえる。4は0段多条、6は細い原体が使われている。

Cその他系列の8は2本施文具で波状文を2条入れるが、上向き・下向きの崩れた連弧文を入れているようにもみえる。図12-194～200と類似する例。

D北陸系列の9は有段口縁壺で頭部が直立する例で、口縁部が強く内湾し、有段部下端を垂下させる。10はくの字状口縁部の壺で縫部に面を持つものである。11・12は壺。12は大形、11は内外面赤彩された小形のもの。13～15は高杯・器台である。15は赤彩される。16・17は底部である。

#### (9) 2007年確認調査資料(図22-1～6)

調査地区は1984年の1トレンチ北側の水田部分であ

る。土地区画整理事業に伴う確認調査で水田下1.7～25mの黒褐色砂層から出土した。D北陸系列の2は有段口縁の広口長頭壺。3はくの字状口縁の壺で縫部に面を持つものである。5は無段の器台受部、6は有段口縁の鉢。内外面ハケメ調整でミガキ調整されないのは珍しい。

#### (10) 2014年確認調査資料(図23-1～19)

調査地区は1956年発掘調査地区的10m程南側にあたる。文化財センター年報で既に報告済みの資料を再掲した(渡邊2016)。A東北系列(1～12)、B折衷系列(13・14)、Cその他系列(15)、D北陸系列(16～19)がある。

A東北系列の1～10は①、11・12は②である。2～7は同一個体と考えられる。9はハケメ地文にRL、10は附加条もしくは1段で太さの違う縄を用いている。11は絶条体Rである。

1は広口壺か壺。口縁部I文様帯は肥厚し、RL地文に2本单位の沈線で下向き連弧文、頭部II文様帯は縱ハケを地文とし、文様帶上端に上向き連弧文、下端は2本の沈線で下向き連弧文を入れる。内面は横ハケである。頭部の縦ハケはI文様帯まで入れられていないので、調整ではなく、地文として入れられたものと考えられる。図21-1も同様であろう。2～7は口縁部を肥厚させず、幾分内湾させ、頭部を無文とする粗製土器。体部上半には斜縄文を入れる。図9-110・111のような変形にならう。

B折衷系列とした13・14はヨコナデの不明瞭な例である。Cその他系列の15は先端の平らな原体で体部上半に2本施錐鋸文を入れた例で、図12-185・186と類似するもの。内外面の調整はナデ。D北陸系列の16は壺、18・19は底部、17は高杯か器台の脚部である。

#### (11)まとめ

これまでに六地山遺跡で出土した土器について報告したが、弥生土器の系譜と時期を考える際に参考になるので、1956年の発掘調査で出土した剥片と、関係すると思われる小形土器について簡単に記しておきたい。

剥片(図25) 六地山遺跡では1956年の発掘調査で156点もの剥片が出土している。肉眼観察では石材は流紋岩もしくは頁岩と推察される。最も多く出土しているのは10区で、同じ調査区からは小形高杯も出土している。これらの剥片は弥生土器の出自を考える上で重要であると考え、管見ではあるが類似する事例を紹介しておきたい。

・新潟市秋葉区居村遺跡D地点〔渡邊・立木ほか2001〕 八幡山遺跡の隣接する丘陵上の遺跡。2基の土坑から弥生時代終末期の土器とともに23点の剥片等が出土した。石材は凝灰岩13点、珪質凝灰岩7点等。共伴した弥生土器

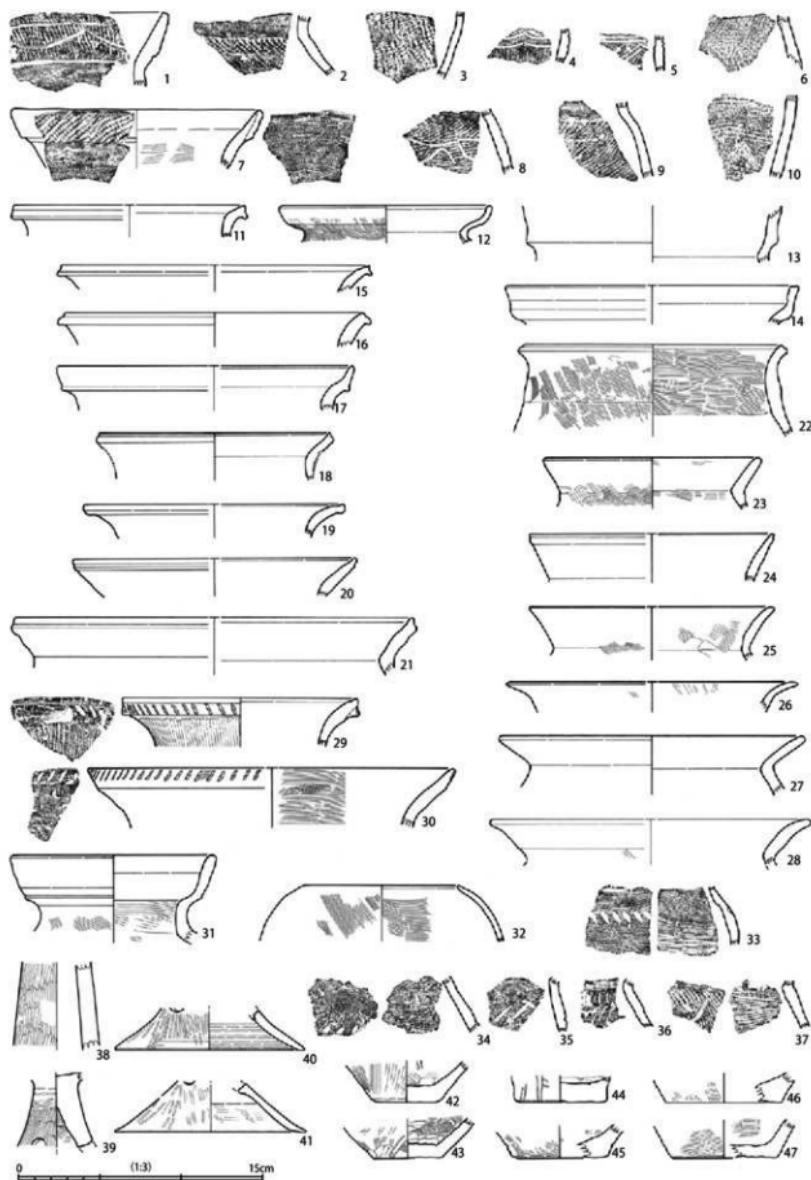


図20 六地山遺跡出土遺物 (1982年発掘資料)

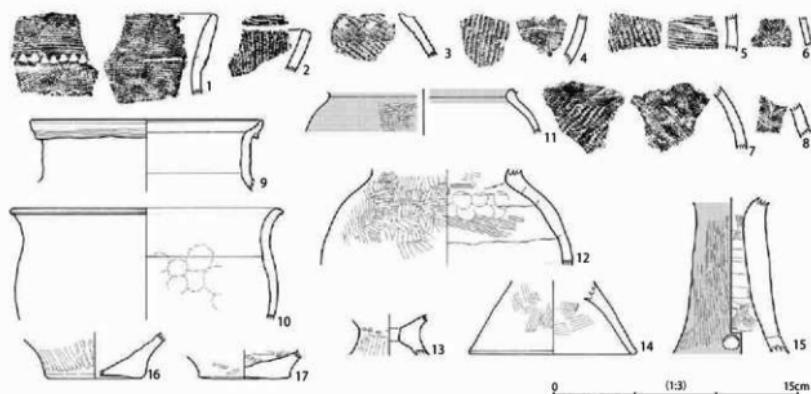


図21 六地山遺跡出土遺物（2006年度発掘資料）

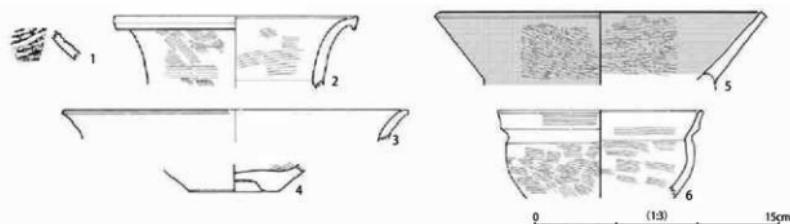


図22 六地山遺跡出土遺物（2007年度発掘資料）

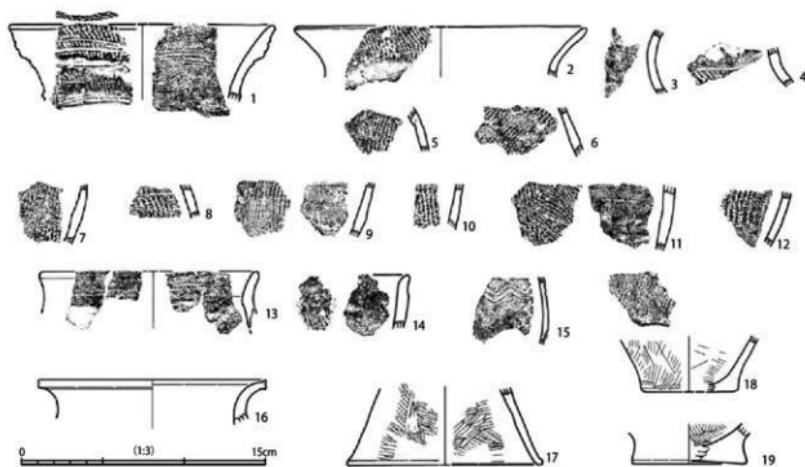


図23 六地山遺跡出土遺物（2014年度発掘資料）

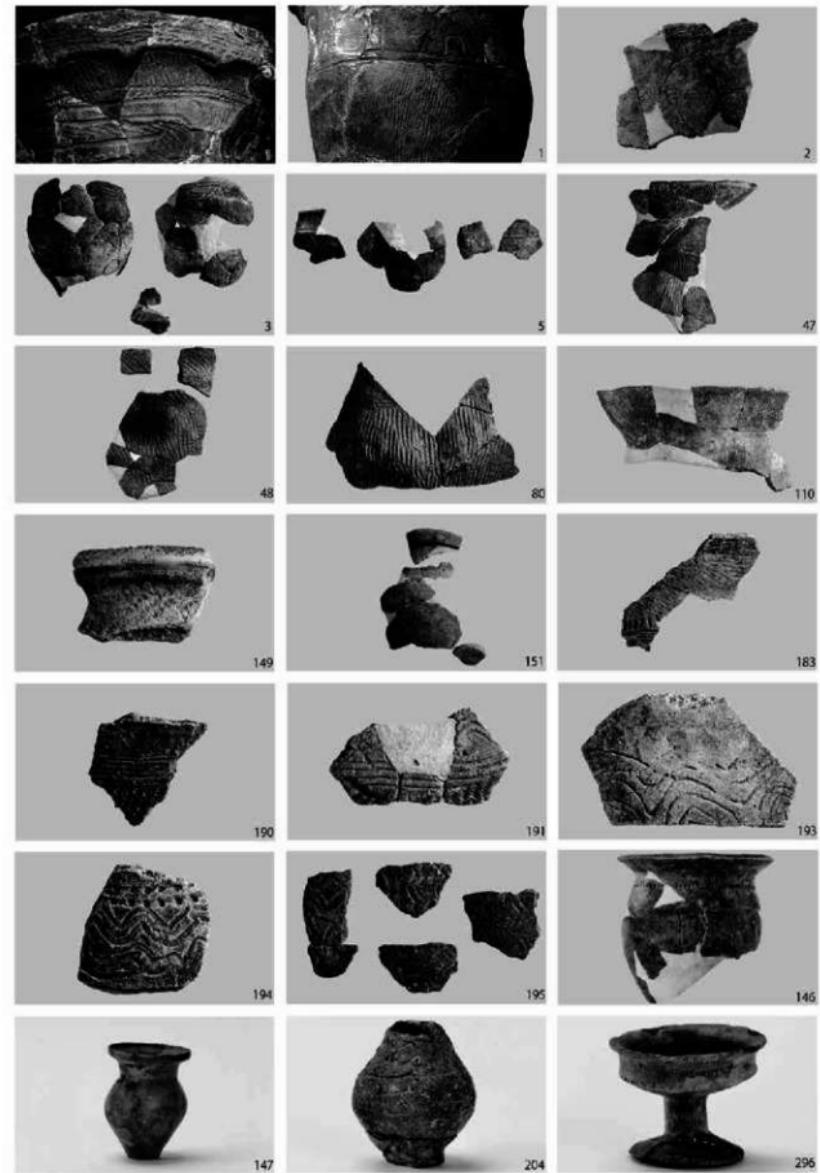


図24 六地山遺跡出土赤陶器写真（1956年発掘調査資料）

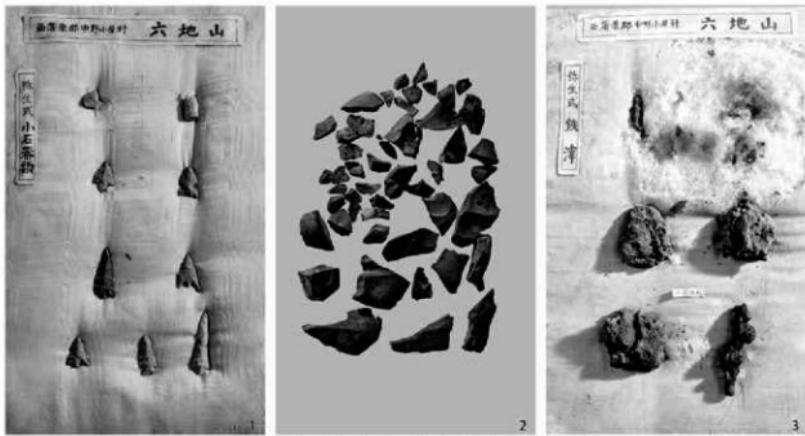


図26 六地山遺跡出土遺物写真 (1:石器、2:剥片#1052出土、3:鉄器・鉄津)

は②21点、③3点で、横羽羽状縋文、縱走縋文など新潟県内では希少な北方的な例が多い。

・新潟市西蒲区南赤坂遺跡〔前山・相田2002〕 上段テラス下土坑群から緑色凝灰岩製の剥片・チップが1,365点出土しているが、これらは玉造工程に関わるものと考えられている。遺跡からは古墳時代前期の土師器と後北C2-D式が定量出土しているが、玉造に関わったのは地元集團と考えられている。

・青森県むつ市外崎沢(1) 遺跡〔高橋・葛西1979〕 埋まりきらない堅穴住居に弥生土器の破片とともに「割石」354点が廃棄されていた。63%が瑪瑙で「石そのものが削られること事態に石器としての用をなしていたものと考えられる。」とされている。弥生土器は中期終末の念佛間式から後期初頭にかけてのもの。

・青森県東津軽郡外ヶ浜町宇鉄II遺跡〔岩本ほか1979〕 中期併行の弥生土器(字鉄II式・田舎館式)・恵山式とともに、頁岩598、瑪瑙153、黒曜石12、その他14、合計777点の剥片が出土している。15-21Gでは瑪瑙の剥片51点がまとめて出土している。土坑墓かと推察される土坑も20基弱検出されているが、土坑内ではなく包含層出土が多い。

・北海道せたな町瀬棚南川遺跡〔高橋ほか1976〕 墓坑と認識される土坑等の遺構から、剥片・削片558点が出土している。恵山式に伴っており縋縫文期に属する。18号墓坑のように赤鐵が36本も出土している土坑もある。

・岩手県滝沢市大石渡V遺跡〔井上ほか2008〕 東向き緩斜面の約45mの範囲にある焼土41基や周辺から後北C2-D式・塙釜式・赤穴式土器と共に黒曜石製ラウンドス

クレーバー7点、剥片146点などが出土している。

**小形土器** 六地山遺跡では図7-35、図11-173・174、図12-204等の小形土器が出土している。器種は壺と高杯で多系統のものである。新潟県内では六地山遺跡よりは時期的に古いが中期後半の阿賀野市狐塚遺跡で土坑から多系統の小形土器が多数出土している〔佐藤ほか2009〕。土坑は墓坑と考えられる。また、村上市道端遺跡でも土坑から小形壺が出土している〔前川ほか2006〕。その他、岩手県二戸郡一戸町上野B遺跡〔高田1984〕、福島県会津若松市和泉遺跡〔木本ほか1991〕などに類例がある。前者は中期終末、後者は後期前葉である。

六地山遺跡の場合も小形土器や剥片は土坑・墓坑に伴った可能性を考慮する必要があるようと思われる。まとまって剥片の出土する事例は東北北部や北海道で多いようだ。採集資料であるが、多量の石跡等も墓地と関係している可能性がある。

**六地山式土器の編年的位置** ハケメ調整を主とする一群と縫文を主体とする一群が時期的に同じなのか別なのかが問題とされてきたが、〔新潟市1994〕では、出土状態から明確に分離できないこと、両群で共通する形態の壺(図10-149・150)が存在すること、同じ胎土のものが存在することを理由に両者を同時期とし、〔中村1983〕・〔坂井1985〕を引用し、後期前半から中頃としている。しかし、天王山式との編年的な前後関係についての記述はなかった。

それでは次に、弥生時代の研究者が「六地山式土器」をどのように考えてきたのかみてみよう。まず、「天王山式土器」との比較を行おう。

天王山式土器の特徴は石川日出志氏によって次のよう

にまとめられている〔石川1990〕。まず山内清男氏によつて、①口縁部突起の発達、②交互の刺突、③縱走する繩文が指摘された。そして、中村五郎氏によつて、④体部文様帶下端の下向き弧線文・連弧文、⑤横走する繩文、⑥R L繩文が多い、⑦文様帶下端の鋸歯文（④の一部）、⑧底部への施文、⑨片口の存在、⑩半球形の口縁部、⑪口縁部の連弧文、⑫無文の頭部、⑬壺胴部の同心円文・渦巻文が追加され、さらに、佐藤信行氏によつて⑭体部文様帶の磨消繩文の発達も特徴の一とされた。

この「天王山式」の特徴を六地山遺跡でみてみよう。存否多寡を記すと以下のようなになる。①あるが少ない、②ない、③多い、④あるが少ない、⑤あるが少ない、⑥多い、⑦あるが少ない、⑧はない、⑨ある、⑩ある、⑪多いが文様帶として確立されているかは疑問、⑫同心円文はあるが（193）、系統が異なる、⑬あるが少ない。

「天王山式」の最大の特徴とされる交互の刺突（交互刺突文）がなく、その他の特徴も「天王山式」と異なることは明らかである。一方で、縱走繩文が多いことは六地山遺跡でも特徴として上げることができる。

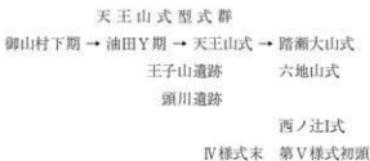
次に、六地山遺跡出土の弥生土器が、研究史上どのように扱われてきたか簡単にみておきたい。

まず、山内清男氏が「宮城県の崎山型式、福島県の天王山式等は弥生式の後期と考えられている。なお、新潟県、富山県、石川県の弥生式のある種のものに伴つて同様の縦の繩文が少數伴出し、全く異物の如き感を与えてゐる。これらは北方系の特徴として考慮する必要がある。」〔山内1964〕（注12）とし、遺跡名を限定しないがR L縱走繩文に着目したことを重要視しておきたい。この記述は新潟県内では六地山遺跡や砂山遺跡を念頭においた記述と考えられる。

次に、天王山式土器に関して多くの論考がある中村五郎氏が六地山遺跡について言及している部分を要約しておこう。中村氏は、「中村1983」で、山草荷2式→下谷地→砂山（天王山式）→六地山式とし、六地山式を天王山式の次に位置づけ、福年表では福島県の踏瀬大山と併行させている。また、畿内第V様式の壺形土器Aに近似する壺、杯部の口縁や立ち上がりが直立にちかい高杯を含む六地山式を西ノ辻I式との関係から畿内第V様式でも古い段階とする。六地山遺跡資料の中に交互刺突文がないことから天王山式よりも新しいと位置づけ、東北系・北陸系土器を同一時期のものとして、編年の位置を決めた。六地山遺跡を畿内第V様式古段階に位置づけたことは、それ以前とする狹義の天王山式土器（天王山遺跡の天王山式）をIV様式併行とする根拠の一つとなった。中村氏は1989年にあった「天王山式期をめぐっての検討会」で

も同様の発言をしている〔弘生時代研究会編1990〕（注13）。

その後、中村氏は新資料の増加によって、中期後半から天王山式期にかけての編年を細分し、福島県会津美里町油田遺跡出土資料から油田Y期を設定し、御山村下期→油田Y期→天王山式とした〔中村2009・2010・2011〕。油田Y期土器は、2本組の平行沈線で文様を描くことが特徴であるとし、新発田市王子山遺跡で2本1組の施文具による沈線が多く、磨消繩文技法がないことから、油田Y期から天王山式土器への過渡的特色としている。また富山県頸川遺跡にも2本1組の沈線が一定量あるとしている。そして、「福島県でも踏瀬大山式土器は天王山式土器から大きく後退し、ぎやくに新採用器種のめざましい進出がある。天王山型式群から福島県内では踏瀬大山式、新潟県内では六地山式が離脱した」〔中村2010〕とし、從来同様に天王山式→六地山式との編年觀を示している。天王山遺跡中期説の根拠の一つとしている開津台塙遺跡についての言及はなかった。模式的に記すと下記のようになろう。



次に石川日出志氏である。氏は六地山遺跡の天王山式系土器には確実な交互刺突文は1例もなく、繩文側面押圧がみられること、口縁部のI文様帶は下端の区画さえない繩文のみの例が多く、頭部文様帶も簡略化しており、「屋敷段階からそれ以降のものが中心になるように思われる。」とし、中村氏同様に狹義の天王山式よりも新しく位置づけた〔石川1990・2000〕。そして、多量にある北陸系土器については、中村氏や坂井秀弥氏が指摘するよう〔坂井1985〕、V期前半が主体だが、法仮段階まで下る資料も少數みられるということを根拠に、法仮期の土器にこそ作うのではないか考えた。天王山式を後期初頭（前半）とする石川氏にとって、天王山式よりも新しく位置づける六地山遺跡の天王山式系土器に後期初頭（前半）の北陸系土器が共存することは考えられなかつたのであろう。しかし、石川氏が法仮I式に近接する壺とした〔石川1990〕、〔寺村1960〕の図4-41は、本報告の図13-206であり、この壺は現在では鶴橋式に位置づけられると考えられるので、石川氏のこの説明には問題があると言わざるを得ない。それと繩文原体側面押圧を新し



図26 六地山遺跡に関係する土器（I文様帯の下向き波彫、III文様帯の上向き波彫文、折衷土器等 線尺不同）

いと決めつけたことに問題があった。

石川氏と中村氏はともに六地山遺跡の天王山式系土器を狹義の天王山式よりも新しく位置づける点では一致するが、北陸系土器を共伴とみなすか、みなさないかといふ点で大きな見解の相違があった。いずれにせよ、六地山遺跡の中に交互刺突文がないことが、天王山式よりも新しく考る根拠になったことは間違いないであろう。

筆者は古津八幡山遺跡出土土器を5期に区分する中で、六地山遺跡の一部を1期新段階に位置づけ、編年表では「六地山の一部」を天王山遺跡天王山式よりも1段階新しい段階とした(渡邊2001)。そして、注では「発掘調査資料は八幡山1期・2期に限定される」と考っている。猫橋式と、北陸系の器形に繩文を施した折衷土器が出士しており、両者の並行関係を示している。」と説明した。中村氏や石川氏とともに天王山遺跡天王山式よりも新しいと考えながら、一緒に出土している北陸系土器、そして後期前半の北陸系土器の器形に繩文を施した砂山遺跡や六地山遺跡の折衷土器の成因に苦慮した。石川氏が言うように東北系と北陸系土器が別時期なら、これらの折衷土器が作られるに至った理由が説明できなかつたのである。編年表の「六地山の一部」は北陸系土器とこの折衷土器を想定したことであり、大半の東北系土器の位置づけは留保せざるを得なかつた(注14)。

野田豊文氏も六地山遺跡の天王山式系土器を法式・月影式に併存する3期(漚ノ前2・3群)に位置づけている(野田2005、2009)。

一方、鈴木正博氏は石川日出志氏が「プロト天王山式」を「天王山式」と区別していないことを批判し、松影A遺跡の編年も逆転しているとし、「中村五郎の指摘を受け、新潟市六地山遺跡の図示土器群を「天王山式に後続する土器」と断言するが、「文様変遷論」の立場から指摘すれば順序が逆であり、「天王山式」の典型的な文様帶より古式であることは言を俟たない」(鈴木2014a)とし、「天王山式」に至るプロト段階として天王山式→六地山式を順序が逆としている。そして、2つの論文(鈴木2014a・b)に掲載された編年を縦めると表4のようになろう。

松影A遺跡の報告書では、石川氏の指導を受けて、同遺跡の土器群は天王山式に後続する位置とされ(加藤は2001)、新潟県内ではそれが「定説」になっていた。佐藤信行氏・相原淳一氏・相澤清利氏らが兎II遺跡など古手の天王山式土器に伴う平行沈線文系土器(2本描施文の土器)があることを指摘していたのに、なぜか新潟県内では忘却されていた。太平洋側の桜井式や十三塚式のことなので、日本海側の新潟では関係ないと思われて

表4 鈴木正博氏の編年(鈴木2014a・b)をもとに作成)

付箋地名など	中期日本	周囲相應・周辺部の「プロト天王山式」
砂山遺跡	「砂山C・4段階」	「砂山E・式」→「砂山K・式」→「砂山E・3式」
新潟市日本橋西岸	「船・馬式」	「舟端式」→「六地山式」→「船・馬式」
河曾遺跡・阿賀川	「麻葉式」	「船東式」→「船影A式」→「越5式」
油田遺跡	「油田YC式」	「油田YK式」→「油田Y型」→「(+)」

いたのだろうか。会津や油田Y期土器が注目されたことによって、新潟でもようやく見直しの機運になって来たと言えよう。

今回、六地山遺跡の再整理にあたり、鈴木正博氏の論文から受けた影響は大きい。毫と毫を同列に分類する砂山式の細別は理解できないが、天王山式と六地山式の編年を逆転させるとする説には賛同する。そうすることによって、様々なことが解決する様に思える。また、天王山遺跡天王山式以前、鈴木氏の言う「プロト天王山式」を認定する重要性に改めて気付かされた。

前述したように、本遺跡のA東北系列中で天王山式土器の特徴として挙げられた14項目のうち、明確に該当するものは③縱走繩文だけで、他は明確ではない。14項目にない特徴として、④I文様帶の下向きの連弧文や弧線文、⑤III文様帶の上向き連弧文、⑥必ずしも同時施文とは限らないが、2本描や3本描の沈線文で文様を描くこと、⑦繩文原体の側面押圧があるという4項目を指摘できる。図26は上記特徴に関係する資料を順不同で並べた図である。

④I文様帶の下向きの連弧文や弧線文(1~7・12・28・39・51・56)、⑤III文様帶の上向き連弧文(7・9~11・13~24・26~33・35・37・38・40~45・47~50・52~55・57~62)である。⑥天王山式のI文様帶の連弧文、弧線文は原則として上向きで、下向きは希少。図示した例をみるとわかるように、弧線文の交点に刺突を入れ、⑦繩文を用いる共通性がある。51は口縁端部に突起を抉んで方向を変えるハの字状キザミを入れ、I文様帶の肥厚有段部下端を下向き弧線状に押圧し、その交点に刺突、R L斜繩文と側面押圧を入れる。II a文様帶には縱走繩文を入れ、下端に下向き連弧文とハの字状の交互刺突文?を入れる。

⑥III文様帶の上向き連弧文は、天王山式土器には一般的ではなく、天王山遺跡にも1点しか確認できない(57)。1本描もあるが(13・31・45・49・50・57・58・60)、2本描が多く(7・9~11・14~24・26~30・33・35・42・44・48・52~55・59・61・62)、3本描(32・37・40~43・59)もみられる(注15)。38は多条の上向き連弧文。47は上向き・下向きが組み合わされた例、49は上向き連弧文と鋸歯文が併用される。29・(30)・33・35・38は北陸系の器形に上向き連弧文が入れられた折衷土器と考えられる。III文様帶とII a文様帶の区画には刺突列

表5 六地山遺跡周辺の土器編年

北跡	田跡	古津八幡の遺跡	六地山遺跡	福島中通り
戸水式				
苗穂式	V-1		六地山遺跡	
	V-2			天王山遺跡天王山式古
	V-3	SX1005 13H7 TS003S10		天王山遺跡天王山式新
法仏式	2-1 2-2	SX1004		明戸式

(15)、交互刺突文(10・22・40・53・58・62)もあるが少なく、数条の沈線を入れる例が大半である。同一個体に用いられる交互刺突文は、真上から刺突する例よりも方向を変えて刺突するハの字状交互刺突文や台形状の例が目立つ(7・10・40)。天王山遺跡の56はI文様帶下端を下向き連弧状にする例だがハの字状交互刺突文を入れている。

⑤Ⅲ文様帶の上向き連弧文と共に用いられる構図としては、Ⅱa文様帶の重菱形文(14・15・18・24・26・28・37・44・45・49)、Ⅱ文様帶のS字状連繫文(44・59)、円台形連続文(7)がある。46は重菱形文と円台形連続文を入れる例、44は重菱形文とS字状連繫文を入れる例である。

本遺跡のA東北系の特徴として挙げた④2本描や3本描の沈線文で文様を描くこと、必ずしも同時施文とは限らないとしたのは、このように連弧文や孤線文の施文法としての特徴でもある。④縄文原体の側面押圧は36・51にあるように①原体で用いられる施文法で、天王山遺跡でも多数確認できる〔中村2001〕。

図26の例をみると、屋敷式・明戸式あるいは天王山遺跡天王山式以降に認定される例がほほないことがわかる。むしろ、天王山遺跡天王山式以前とすべき事例、中期終末かと思われる例が多い。

前述のように、本遺跡のD北陸系列は後期前半の猫橋式併行期、北陸編年のV-1期~V-3期併行と考えられる。A東北系は交互刺突文がないことから、天王山遺跡天王山式以後とする説が多かったが、諸特徴の比較から天王山遺跡天王山式以前と考えられる。よって、A東北系とD北陸系は概ね同時期に共存していたと考えられよう。また、A東北系とD北陸系の折衷土器がみられ、高杯・器台がA東北系にないことから、両系列群の器種は一部で補完関係にあったと言えるであろう。

本遺跡では跡山遺跡の特徴である重菱形文土器が1点もみられなかった。重菱形文が中期終末の宇津ノ台式土器に由来するなら紗山式と時期的に一部併行関係にある六地山遺跡にあってもよいのだが、六地山遺跡になかった意義は大きい。今後の課題としておきたい。

(渡邊朋和)

## 注

注1 この他に、〔上原・磯崎1968〕、〔武田ほか1960〕に掲載された上原甲子郎氏所蔵資料があると思われるが、現在は確認することができない。また、昌島祐二氏採集土器が〔新潟市史編纂室原始古代中世史部会編1994〕で国化されている。

注2 長岡市立科学博物館には座布団に結び付けられた石鏡7点と剥片が多数ある〔国25〕。剥片は156点あり、石材はほぼ全て流紋岩もしくは頁岩と考えられる。真島衛氏資料の中に石鏡は確認できなかつた。新潟市史には石鏡を主とする石器66点が掲載されているが、多くが地元曾和で採集された資料である。

注3 [国26]に掲載されている六地山遺跡現況測量図は関氏から提供を受けた図と同じものである。

注4 〔上原1964〕に「縄文ある弥生土器に伴うものと考えられるものに石器では石鏡多数、この中にはアメリカ型石鏡あり、石小刀、刀など未見だが磨製石斧もある由である。土製品には軽輪車が二例あり、内一個には土器と同様の縄文が施してあるのは注11に与する。又土器乃至須頭に伴うべきものとして直刀が一口出土している。」とあり、それによつたものであろうか。

注5 当時の文献としては〔上原1954〕、〔金塚1966〕などがある。上原は六地山遺跡を「曾和遺跡」と呼んでいた。(真島1964)には六地山遺跡の記載はなく、発掘調査以前の文献では〔上原1954〕が最も記載が具体的なので、真島が初めて遺跡を訪れたのは〔上原1954〕の後からしぬれないと。なお、六地山遺跡の調査経緯等については、故闇雅之氏よりご教示を受けた。

注6 発掘調査の経緯は〔中村1995〕が詳しい。

注7 古津八幡山遺跡では縄文地文ではなく、ハケメ地文の土器で東北系土器の要素が入った土器を、C群在地折衷系としたから、これらもB群東北系に加えるならさらに比率が上がる気になる。

注8 上開きの孤線・連弧文を上向き、下開きの孤線・連弧文を下向きとする。

注9 48の縄文原体は「日本先史土器の縄紋」〔山内1979〕の図版15の5の復元原体と同一である。縄文原体について鈴木正博氏のご教示を得た。

注10 前者は岩手県にはほほない。天王山遺跡でみられる前者は日本海側經由の可能性が高い。

注11 石川日出忠・前山精明氏よりご教示を得た。

注12 1961年に提出された「日本先史土器の縄紋」〔山内1979〕にも「この種の①条を用いた斜巻丘頭は越後、能登にも発見され、相互に一脈の関連を持つもの如くである。」と同様の記載がある。山内は1957年8月19日~20日に長岡市立科学博物館を訪れて、科学博物館が発掘調査した新資料を見ていたので〔中村1995〕、第1次調査直後の小瀬が沢洞窟だけではなく、六地山遺跡の資料も実見している可能性が高い。この他、高岡市水見洞窟や小松市大野山遺跡出土の天王山式土器を企頭においての記述であろう。

注13 六地山式を天王山式土器よりも新しく位置づけ、畿内第V様式に併行させるとする中村編年は、天王山式を中期説とする根拠となり、新潟県内ののみならず、富山県や石川県でもその後の「通説」になった。

注14 古津八幡山遺跡では天王山式系列と北陸系・折衷土器が遺構内に併存しており、北陸の強後期編年との併行関係がわかる〔渡邊2004〕。遺構の前後関係は以下の①→②→③である。①外環浄C中層SD03 S10から田嶋V-3群の北陸

系窓が出土。②方形周溝墓SX1005は外環溝Cの外側に造られた墓で、周囲から出土土器は天王山式系が主体。③横走繩文が目立つ。I文様帯下端のみ交互刺突文を残すが、ほかは円形竹管状工具による交互刺突、刺突別、押引状線、波状文となる例がある。口縁部が外傾し伸長する例では屋敷道跡に類例が多い。④方形周溝墓SX1004は、SX1005と一本の溝を共有して造られた墓。周溝の形態からSX1005が古くSX1004が新しいと断定できる。また、溝覆土中に環状擦削土が堆積しており外環塗よりも新しい。出土土器は田嶋2-1群の北陸系土器8点に折東土器4点が伴う。方形周溝墓SX1005には北陸系土器は伴わないが、外環塗CとSX1004方形周溝墓の間に位置づけられる。すなはち、田嶋編年V-3期と2-1群の中間、兼式と法式の間である。SX1005の天王山式系が「天王山式」を2分した場合の新相よりも新しい。所謂明戸式・屋敷式に接点を有する段階と考えられる。

注15 新潟市東区石動遺跡ではII文様帶上端に3本施文具で波状文を描くものがあるが、施文方向はほぼ全て左から右である。始点と終点が連続しない場合があるが、一筆で描いている。一方で方弧文状になっているものは施文方向が左から右だが、施文順位は右から左になっている。右側の方弧の左端を左側の方弧の右端の沈痕が切っている例が多い(図26-23-26)。圓面にすると似ているように見えるが、施文の意識は全く違うのであろう。

資料の所蔵者・機関である鷹邦子氏、故岡雅之氏、長岡市立科学博物館、新潟市歴史博物館には格別のご配慮により掲載の許可をいただいた。末筆ながら感謝申し上げます。

また、資料調査をするにあたり、多くの方々・機関からご教示・ご協力いただいた。記して謝意を表したい。

相澤清利、赤坂朋美、赤澤謙明、石川日出志、磯部保衛、

伊東耕一、井上雅恵、上野章、岡本淳一郎、小野明、加藤由美子、金子昭彦、小林隆幸、小林達雄、小林克、風間栄一、菅野紀子、北林雅康、楠正勝、坂下博見、斎藤瑞穂、坂井秀弥、並瀬正史、佐藤祐輔、佐藤由紀男、清水香、杉山大吾、鈴木功、鈴木正博、高田和哉、鶴沢龍則、鶴巣康志、中村五郎、野田農義、久田正弘、藤塚明、細辻富士、松島悦子、水澤幸一、森田賢司、安田隼人、山川史子、吉井雅勇、吉田博行、渡邊美穂子

石川県埋蔵文化財センター・戸町教育委員会・岩手県埋蔵文化財センター・鹿角市教育委員会・小坂町教育委員会・新発田市教育委員会・鶴来市教育委員会・高岡市教育委員会・鳳来市埋蔵文化財センター・長野市埋蔵文化財センター・中能登町教育委員会・七尾市教育委員会・福島県文化センター・白河館・村上市教育委員会

(五十音順・敬称略)

#### 図26

- 新潟県 1~3:堂の前、4:瀧ノ前、5~10:砂山、11~12:長松、13:道端V、14:中曾根、15~17:山草荷、18~22:王子山、23~26:石動、27:草薙、28:山口、29:八幡山、30:五斗田、31~32:堅正寺、33~36:五千石、37~38:松ノ原
- 富山県 39~40:二ツ塚、41~42:頭川、43~45:下老子並川、44:加納谷内
- 青森県、秋田県 47:家ノ前、48~49:はりま館、50:案内V遺跡、51:狼ヶ平I遺跡、52~53:館の上館、54~55:小谷地
- 福島県 56~57:天王山、58~60:和泉、61~62:能登

#### 引用・参考文献

- 相澤清利 2013 「天王山式と続縄文土器の南下」「東北南部における弥生後期から古墳出現前夜の社会動向—福島県湯川村桜町遺跡資料見学・検討会—予稿集」
- 甘柏健・小野明はか 1986 「六地山遺跡—1982年発掘調査を中心とした新潟市教育委員会
- 石川日出志 1989 「長岡市堅正寺遺跡の弥生式土器と石器」「北越考古学」第2号
- 石川日出志 1990 「天王山式土器編年研究の問題点」「北越考古学」第3号
- 石川日出志 2000 「天王山式土器中期説への反論」「新潟考古」第11号
- 石川日出志 2001 「弥生後期湯舟沼式土器の系譜と広がり」「北越考古学」第12号
- 石川日出志 2004 「弥生後期天王山式土器成立期における地域開拓」「駿台史学」第120号
- 石川日出志 2005 「関東・東北弥生土器と北海道続縄文土器の広域編年 研究成果報告書」
- 井上雅恵はか 2008 「流汎村埋蔵文化財センター・調査報告書第Ⅱ集・私鉄遺跡—平成2年度発掘調査報告書—」流汎村埋蔵文化財センター
- 岩本義雄・天野勝也・三宅徹也 1979 「青森県立郷土館第6集 宇鉄II遺跡発掘調査報告書」青森県立郷土館
- 上原甲子郎 1954 「越後平野に於ける最近の考古調査」「佐渡史学会報」第1輯 佐渡史学会
- 上原甲子郎・磯崎正彦 1968 「北陸地方II」「弥生式土器集成 第2編」東京堂出版
- 宇都則保 2007 「古代東北北部社会の地域間交流」「古代蝦夷からイヌイズムへ」吉川弘文館
- 大坂拓・福田正宏 2005 「尾白内貝塚の続縄文土器について」「北海道考古学」第41輯
- 大坂拓 2007 「惠山式土器の編年—北海道南部における続縄文時代前半期土器編年の再検討—」「駿台史学」第130号
- 大越正道はか 1990 「福島県文化財調査報告書第242集 東北横断自動車道遺跡調査報告書10 仁能遺跡 南原B遺跡西遺跡 大村古墳群」「福島県教育委員会
- 笠井崇吉はか 2018 「平成30年度指定文化財展図録 白河市天王山遺跡の時代」「福島県埋蔵文化財センター白河館
- 加藤学はか 2001 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第106集 松影A遺跡」「新潟県教育委員会
- 木本元治はか 1991 「福島県文化財調査報告書第263集 東北横断自動車道遺跡調査報告書13 和泉遺跡 横沼西遺跡」「福島県教育委員会
- 金坂友之丞 1956 「四、六字山その他の土器」「高志路」3期27号
- 橋正勝 1996 「金沢市文化財紀要119 西念・南新保遺跡IV」「金沢市教育委員会
- 坂井秀弥はか 1983 「内越遺跡出土土器の越後における編年の位置」「内越遺跡」「新潟県教育委員会
- 坂井秀弥 1985 「越後の弥生後期についての覚書」「新潟県史研究」
- 佐藤友子はか 2009 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第203集 一般国道49号阿賀野ハイバス関係発掘調査報告書I 埼塚遺跡・狐塚遺跡」「新潟県教育委員会
- 鈴木正博 1976 「十王台式理解のために(2)」「常盤台」8
- 鈴木正博 2014a 「砂山崩し—いつやるか今でしょ!」

- 「利根川」 36 利根川同人会
- 鈴木正博 2014 b 「山草荷2式」に学ぶ~「十王台式」研究法は「山草荷式」天王山文様帶変遷問題~を超えるか~『福島考古』第56号
- 岡雅之 2005 「Vまとめ 1秒丘遺跡の実相と変容」『新潟県農業市甲山遺跡』農業市教育委員会
- 高田和徳 1984 「一戸町文化財調査報告書第7集 上野遺跡~昭和58年度発掘調査報告書~」岩手県二戸郡一戸町教育委員会
- 高橋和樹はか 1976 「棚瀬南川遺跡」棚瀬町教育委員会
- 高橋潤・葛西助 1979 「家の上遺跡・外崎(1)道路」臨野沢村教育委員会
- 高橋與右衛門 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第214集 岩崎台地遺跡群発掘調査報告書」1995
- 流沢規朗・野田豊文はか 2003 「新潟県岩船郡域における弥生時代中期~後期にかけての様相~村上市砂山遺跡・瀧ノ前遺跡~を中心とした三面川流域の考古学」第2号
- 流沢規朗 2005 「土器の分類と変遷~いわゆる北陸系を中心とした新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現 第1分冊」新潟県考古学会
- 流沢規朗 2014 「続縄文土器と在土器の併行関係~越後の事例を中心に~」『古墳と続縄文文化』高志書院
- 武田忠光はか 1960 「第3章 近郷の遺跡」『内野町誌』内野町田中耕作・石川日出志はか 2018 「山草荷遺跡出土の弥生土器 新発田市指定有形文化財(考古資料)」新発田市教育委員会
- 田辺早苗 1991 「神林村埋蔵文化財報告第3 長松遺跡発掘調査報告書」神林村教育委員会
- 坪井清足 1958 「福島県白河市天王山遺跡」「弥生式土器集成資料編」東京堂出版
- 寺村光晴 1960 「越後六地山遺跡」「上代文化」第30輯 國學院大學考古学会
- 中村孝三郎 1960 「弥生式 六地山遺跡」「NKH 長岡市立科学博物館友の会会報」Vol.2-No.4
- 中村孝三郎 1966 「先史時代と長岡の遺跡」長岡市立科学博物館
- 中村孝三郎 1995 「市史収書No30 越後発掘遺跡~想い出の史蹟~想い出の人々~」長岡市
- 中村五郎 1983 「東北中・南部と新潟」「三世紀の考古学」下巻 学生社
- 中村五郎 2009 「天王山式土器メモ2008年」「福島考古」第50号
- 中村五郎 2010 「天王山式六十年」「坪井清足先生寿記念論文集~埋文行政と研究のはざまで~」
- 中村五郎はか 2011 「油田Y期とその周辺~会津地方の天王山式以前の諸段階~」『福島考古』第53号
- 中村五郎 2001 「80天王山遺跡」「白河市史第4巻 資料編1 自然・考古」白河市
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会編 1994 「第3章 弥生時代」「新潟市史 資料編1 原始古代中世」新潟市
- 新潟県 1983 「新潟県史 資料編1 原始・古代1 考古資料編」新潟県
- 野田豊文 2005 「三面川流域における弥生時代の終わり~天王山式土器から見た新潟県内弥生後期の様相~」「三面川流域の考古学」第4号
- 野田豊文 2009 「新潟県内の弥生時代後期東北系土器群像」「新潟県の考古学II」新潟県考古学会
- 藤田定一 1951 「天王山式土器の紋様図集」白河農業高等學校歴史研究部
- 前川雅夫はか 2006 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第162集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XV 道端遺跡V」新潟県教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2002 「南赤坂遺跡~縄文時代前期~中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査~」巻町教育委員会
- 真島衛 1964 「西蒲原郡内遺跡地名表 第10報」
- 丸山一昭 1998 「和鳥村埋蔵文化財調査報告書第6集 松ノ脇遺跡」和鳥村教育委員会
- 水澤幸一 1998 「中条町埋蔵文化財調査報告第15集 兵衛遺跡・四ツ持遺跡」中条町教育委員会
- 谷内尾吉司 1982 「北陸地方の墓制」「西日本における方形周溝墓をめぐる諸問題」第11回埋蔵文化財研究会資料
- 八木光則 2004 「般夷考古学の地平」「古代般夷と律令国家」高志書院
- 山内清男 1964 「日本先史時代概説」「日本原始美術1 縄文式土器」講談社
- 山内清男 1979 「日本先史土器の綱総」先史考古学会
- 弥生時代研究会編 1990 「天王山式期をめぐって」の検討会
- 渡邊朋和 2001 「第4章 まとめ」「八幡山遺跡発掘調査報告書」新津市教育委員会
- 渡邊朋和 2004 「VI章 まとめ」「八幡山遺跡群発掘調査報告書 第11・12・13・14次調査」新津市教育委員会
- 渡邊朋和 2016 「(5)六地山遺跡 第11次調査」「新潟市文化財センター年報」第3号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和・立木宏明はか 2001 「八幡山遺跡発掘調査報告書」新津市教育委員会
- 渡邊美穂子 2008 「新発田市埋蔵文化財調査報告第36 王子山遺跡発掘調査報告書」新発田市教育委員会

## 2 朝日普談寺観音堂の文禄五年銘鰐口

### はじめに

ここで報告する鰐口は、平成30年度文化財センター企画展「新潟の鉄物師－近世新潟町の職人－」に先立ち、「日本の梵鐘」（坪井1970）に記載のある普談寺の鰐口の所在調査をした際に再発見したものである。

『中蒲原郡誌 上編』（新潟県中蒲原郡1918）に掲載された鰐口が「大悲山殿堂寺往昔之記」の引用ではなく、現存することを確認できた意義は大きいと考え、資料報告を行うこととした。

### 発見の経緯

普談寺は新潟市秋葉区朝日に所在し、真言宗智山派に属している。また越後三十三観音霊場の第三十番札所として、観音堂のご本尊十一面觀音菩薩は朝日の観音様として信仰の対象となっている。

平成30年5月23日に観音堂に鰐口が懸けられているのを発見し、何らかの銘があることを確認したが、銘文のある面が表側であったために建物の裏股に隠れて銘文を全ては読むことができなかつた。その後、6月20日にご住職の小林一氏の立会いのもと、鰐口を取り外させていただき、文禄五年銘のある鰐口であることを確認することができた。この鰐口は、企画展の会期中お借りして展示を行つた。

### 鰐口

これまでこの鰐口について、文献等で記されている主なものを紹介する。

・貞享4（1687）年の「大悲山殿堂寺往昔之記」に  
「一頃野火余り殿堂記録成宝物等不残焼失」  
「一、堂前鰐口陶冶之儀会津若松遠藤甚四郎、暦号者  
文禄五年、即当貞享4丁卯九十二年ニ御座候」とあり、  
「一、後堂建立棟札之写ニ云

源新津丹波守 勝資

源新津内記進 秀祐

千坂対馬守 頼儀

旭村普陀路山普談寺寺雄

曆者文禄年中、裏書之写ニ云」と棟札の写しを伝える（『新津市史 資料編第3巻 近世2』〔1990〕）。

「大悲山殿堂寺往昔之記」には棟札の年号の記載はないが、『新津市史』が引用する福王寺所蔵の文書には「文禄二年癸巳」と書かれているといふ（『新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』〔1989〕）。

・大正17（1918）年の『中蒲原郡誌 上編』「卷十五 金津村誌」に普談寺宝物の一つとして「鰐口一個（方一尺五分文禄五年丙申、朝日村普陀路山普談寺大工會津若松遠藤甚

四郎の銘あり）」と記載されている。

県内の鰐口の全文は『新潟県史 資料編5 中世3 文書編III』〔1984〕に集成されているが、この鰐口は未掲載で、『新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』〔1989〕にも未掲載であり、調査対象から漏れていたと思われる。

第2次世界大戦時の金属類の供出前に梵鐘や鰐口などをまとめた『新潟県史蹟名勝天然紀念物第12輯』（齊藤1944）でも「普談寺 鰐口 不明」と記載されていることから、この頃すでに所在が分からなかつたのかもしれない。「日本の梵鐘」（坪井1970）の中世金工品一覧に「會津大工遠藤甚四郎」と記載があるのは、上記『中蒲原郡誌 上編』〔1918〕に掲げたものであろう。

### 鰐口の調査所見

鋳鋼製で部分的に地金の色が見えるが、全体に薄く青銅色を呈している。大きさは、最大幅35.3cm、鼓面径29.3cm、鼓厚12.4cm、肩厚7.5cm、重さは約8.2kg。

鼓面は撞座を中心に4重の囲線で区画されるが、囲線は最も内側と外側は2条の複囲となっている。囲線はいずれも断面蒲鉾形であることから、挽型で鋳型が作られたと推察される。撞座は陽鉄で、三角形の小蓮弁8枚で囲まれた中に9個の蓮子とその外側の30枚の放射状の蕊が配されている。後述するように最外区には中央から左右に逆時計回り、時計回りに鉢が陰刻される。吊環（耳）は不整形で大きさではなく、円筒形の目は比較的長く、断面形は小判形を呈する。また、左右の目から縁沿いに開いた口唇の幅は1.9cm程度である。

鼓面を観察すると、最外区には6mm四方程の型持が5か所認められ、赤錆びが付着していることから、鉄製の型持と考えられる。5個ある型持のうち4個は銘文を避けているよう見える。裏面の型持は4個確認できる。鋳揚がりは良好で鉢掛の跡は認められない。鼓上部、耳周辺にはヘラ状のナデ跡が認められる。

### 銘文

外区左 「旭村普談寺 普墮巖山」

外区右 「文禄五年丙申 何月何日 大工 會津

若松 遠藤甚四良」

「旭村普談寺」は、鰐口が伝わる同寺のこと。「普墮巖」（補陀樂 ふだらく）は、觀音菩薩の降臨する靈場の事でかつては觀音堂のある普談寺らしい山号だったが、延宝4（1676）年に「大悲山」に改められたので〔新津市役所1979〕、それ以前の山号ということになる。

「文禄五年」は同年10月に慶長と改元されるので、改元前の年（1596）になる。右から左に書かれる干支（丙申）も矛盾はない。「何月何日」は自分が作ったものにこの

ように書くものだろうか。妙案はない。奉納する日付を入れるつもりだったものを何らかの理由でそのまま銘込んだのだろうか。

「大工 會津 若松 遠藤甚四良」は鉄物師名で、「大工」は鉄物師大工のこと。会津周辺の鉄物師に早川姓・長谷川姓はあるが、遠藤姓は見当たらない。「會津 若松」は、「會津」と「若松」の間が空いていることから会津若松としての通称として用いられたのではないと考える。「會津」は「福島県史第7巻 資料編2 古代・中世資料」(福島県1966)によれば、同時期の資料で「(奥州)會津」などとして散見される。また、「若松」の使用は、天正18(1590)年に蒲生氏郷が伊勢から会津に移封されたことに由来すると言われているから、文禄5(1596)年銘の矛盾はないと言える。亡失資料ではあるが福島県史に掲載されている南会津郡田島町愛宕神社鰐口銘の「慶長十八年五月吉日 大工若松住 長谷川清六」(資料776)の慶長18(1613)年が近い年代と言えよう。

仮に「会津若松」とした場合、恵日寺旧蔵の室町時代の作品と考えられる十二天図の軸木には修復の墨書きがあり、第2期の延宝3(1675)年に「奥州会津若松赤井町」などの表記が見られ(阿部2005)、17世紀後半頃からの通称と考えられるが(※1)、本例はそれよりも80年以上古い会津若松の使用例ということになろう。

なお、奉納者、願主の名前が書かれていないが大工自身が奉納したと鰐口と考えられる。

写しではあるが観音堂の再建時の棟札に文禄二癸巳年の記載があるので、観音堂再建後に寄贈された鰐口ということになろう。新津勝資とともに観音堂を再建した新津秀祐は勝資の実子ではなく、会津を治めていた草名家臣の赤津弾正の次男であり(「新津系図」「新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世」[1989])、主家没落後越後に逃れて来たと考えられるから、このあたりに会津と普請寺の関係があったのかもしれない(※2)。

## おわりに

『中津原郡誌 上編』(1918)に掲載された鰐口を約100年ぶりに再発見した。鰐口に陰刻された銘文に意味の不明瞭な箇所があるが、鰐口そのものは文禄年間頃のもので問題はないとの観点からも研究されている愛甲昇寛氏に確認していただいた。

今後は、現在の観音堂が文禄二年に再建された建物など、別の視点からも調査を行う必要がある。

末筆ではありますが、資料紹介をお許し下さった普請寺住職小林一三氏、会津若松の地名の由来などについて高橋充氏、鰐口のことについて愛甲昇寛氏・五十川伸矢氏、金文について伊東祐之氏、郷土史全般について木村宗文氏・今野誠氏にお世話になりました。お名前を記して感謝いたします。

(渡邊朋和)

\*1 福島県立博物館高橋充氏教示。

\*2 今野誠氏教示。

## 引用・参考文献

愛甲昇寛 2006 「鰐口にみる銘文の表現」『真鍋後照博士遺稿記念論集 仏教美術と歴史文化』

愛甲昇寛 2007 「改訂増補 幕長以前鰐口・雲版年表稿 付鰐口 鉄物師一覧 朝鮮金賀」『真言史学会』

阿部綾子 2005 「研究ノート 軸木墨書きにみる「十二天図」の修復過程」『季刊博物館だより』79 福島県立博物館

斎藤秀平 1944 「新潟県史蹟名勝天然紀念物第12編」新潟県

高橋充 2004 「3南奥の鉄物師」『陸奥国の戦国社会 奥歴史研究叢書6』

坪井良平 1970 「日本の梵鏡」 角川書店

新潟県 1984 「新潟県史 資料編5 中世3 文書編Ⅲ」

新潟県・福島県 1918 「中津原郡誌 上編」

新津市 1989 「新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世」

新津市 1990 「新津市史 資料編第3巻 近世2」

新津市 1991 「新津市史 資料編6 民俗・文化財」

新潟市役所 1979 「新潟市史 金津・小舟・新潟地区編」

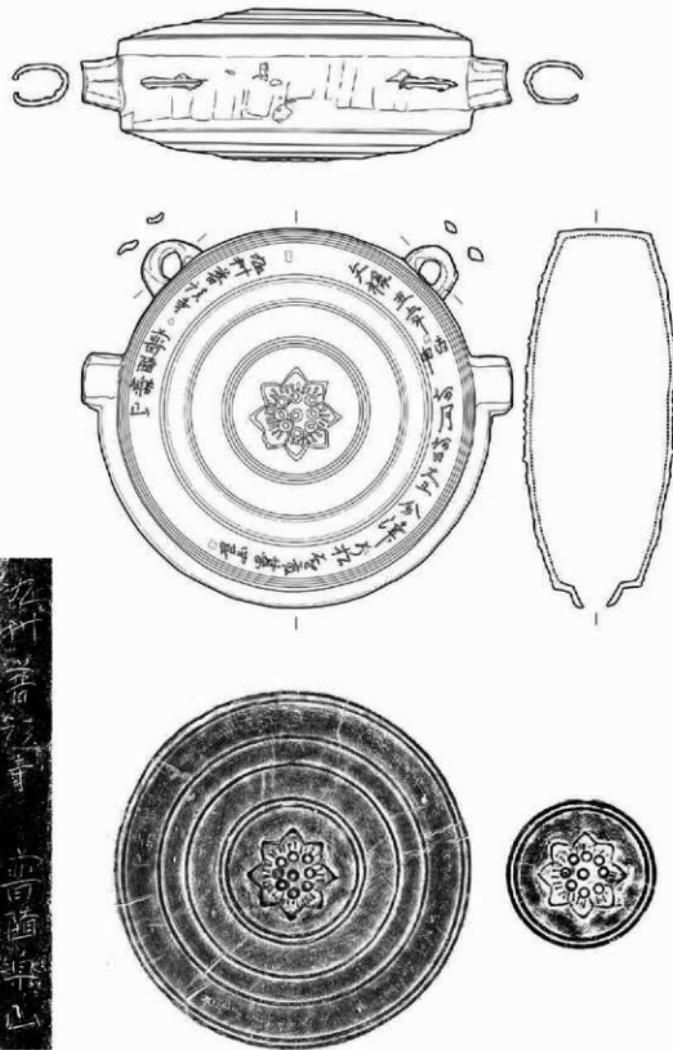
林佐平 1967 「二 早川家の伝承と鉄物師の支配」『会津若松市史 第11巻 文化編』

福島県 1966 「福島県史 第7巻 資料編2 古代・中世資料」

渡邊朋 2010 「会津の鉄物師」『会津若松市史研究』第11号 会津若松市



朝日普請寺観音堂鰐口



研究活動—資料紹介  
研究ノートなど—

朝日普賢寺體音掌記

A scale bar showing a length of 15 cm, divided into four equal segments by tick marks at 0, 3, 6, 9, 12, and 15. The label '(1:4)' is positioned above the first segment.

## 引用・参考文献

- 相田泰臣ほか 2019 「平成30年度 国史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展開催講座・講演会 記録集」 新潟市文化財センター
- 相田泰臣・金田拓也ほか 2017 「国史跡 古津八幡山遺跡 保存活用計画」 新潟市教育委員会
- 今井さやか 2014 a 「Ⅲ 7 教育普及活動」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2014 b 「Ⅲ 8 保存処理」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 速藤恭雄 2012 「Ⅲ 2（1）小丸山遺跡 第1・2次調査（2012/184+2013/001）」「新潟市文化財センター年報－平成25（2013）年度版－」第2号 新潟市文化財センター
- 速藤恭雄・重留康宏ほか 2020 「砂崩前郷遺跡 第3次調査－市道砂崩南線建設事業に伴う砂崩前郷遺跡第2次発掘調査報告書－」 新潟市教育委員会
- 春日真実 1999 「第4章 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院
- 齋藤秀平 1944 「新潟県史蹟名勝天然記念物第12回」 新潟県
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2019 「赤鉛鉱山遺跡 第5次調査－商業施設建設に伴う赤鉛鉱山遺跡第3次発掘調査報告書－」 新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2019 「細池寺道上遺跡Ⅳ 第50次調査－県営は場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡 第25次発掘調査報告書－」 新潟市教育委員会
- 牧野耕作・協本博康ほか 2019 「川根谷内遺跡 第6次調査－主要地方道新潟中央環状線道路整備事業に伴う川根谷内遺跡第2次発掘 調査報告書－」 新潟市教育委員会
- 渡邊朋和 2014 a 「I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014 b 「Ⅲ 6 資料の収蔵・保管」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014 c 「V 1 史跡古津八幡山遺跡保存活用事業の概要」『新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2018 「II 2（11）近世新潟町跡第32・38次調査、第27次に伴う工事立会（2016/16・2016/25・2016/19）」「新潟市文化財センター 年報－平成28（2016）年度版－」第5号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和・八藤後智人ほか 2014 「新潟市文化財センター年報－平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版－」第1号 新潟市文化財センター

平成30年度文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長（学芸員）	渡邊 順和	統括・埋蔵文化財
主幹	大野 泰伸	事務
主幹（学芸員）	渡藤 卓雄	埋蔵文化財
主査（学芸員）	立木 実明	埋蔵文化財
主査	飯塚 和美	事務
主査（文化財専門員）	今井 さやか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	相田 泰臣	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	龍田 俊子	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	相澤 裕子	埋蔵文化財
主事（文化財専門員）	牧野 繁作	埋蔵文化財
主事	山脇 美春	事務
主事（学芸員）	前山 精明	埋蔵文化財
非常勤職員	久住 直史	民俗文化財
非常勤職員	澤野 妊子	埋蔵文化財
非常勤職員	八幡後 貞人	埋蔵文化財
非常勤職員	田中 繁作	弥生の丘展示館
非常勤職員	奈良 佳子	埋蔵文化財
非常勤職員	宮下 佐貴子	弥生の丘展示館
歴史文化課埋蔵文化財担当		
主幹（文化財専門員）	朝岡 政康	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	渡山 えりか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	兩田 恵幸	埋蔵文化財
主事（文化財専門員）	金田 拓也	埋蔵文化財
非常勤職員	古澤 貴子（H30.7～）	埋蔵文化財



文化スポーツ部の組織機構図（平成 30 年度）



新潟市文化財センター年報 第7号

— 平成30（2018）年度版 —

2020年3月27日印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター

〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1

電話 025-378-0480

印刷 有限会社 スタッフ ラン

〒950-0211 新潟市江南区横越川根町3丁目13-23